Vol.78通巻908号　平成9年11月1日発行　毎月1回1日発行　昭和24年3月19日第3種郵便物認可　ISSN 0912-8182



特集

私の空間作法―会員作品―

建築と社会11

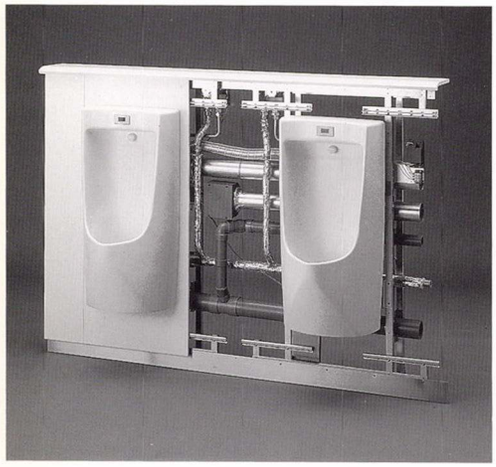
日本建築協会

1997



トイレのことは全てお任せ下さい！
時代はTOTOライニングユニット

器具だけでなく、トイレ造りに必要な部材を一括してユニット化したシステム工法のトイレ。
工期の短縮、工事管理の省力化、さらに高品質、高性能で在来工法と同等のコストを実現。
大規模建築から中低層建築、リモデルまで最適なトイレ空間を演出。
自立壁システムトイレは独立構造で耐震性も万全。



■ビル寿命50年時代：メンテナンス・改修まで含めて、ライフサイクルコストでは、ライニングユニットが圧倒的に有利です。
■工期の短縮：13職種におよぶ従来工事の設計・工事段階の作業を簡素化、各工程での施工養生期間が大幅に短縮、工事管理の手間も大幅に軽減されます。
■現場の汚れ・騒音の大巾削減：ブロック積みや、躯体工事、現場加工も不要。日中の改修工事も容易です。
■施工の省力化：床上配管方式のユニットを組立てるだけで、手配や段取りの手間を軽減します。
■簡単なメンテナンス：分割・着脱式の前面板(ライニングユニット)など、TOTO独自の構造で点検が容易に行なえます。
■脱臭機能：オゾン脱臭と排気脱臭の2つの方式で、トイレ全体のニオイを追放します。
■清掃性の向上：お手入れのし易い凸凹の少ないデザインです。
■耐震構造のシステムトイレ：自立構造で、建築躯体の層間変位の影響を受けにくく、1Gの耐震強度設計になっています。

カタログをご希望の方は　東陶機器㈱大阪支社までご請求ください。　〒530 大阪市北区曽根崎2-3-7 梅新第一生命ビル東館 ☎06(364)1181

建築家に何ができるか

阪神大震災・被災地の現場から考える（第6回）

灘の酒蔵のまちを復興させる会

酒蔵のまちとの関わりで復興を考える

被災地のまちづくりでは、いま建築家の役割が問われています。
復興にかかわる様々な分野の方をお迎えし、震災の教訓を踏まえた建築家の日常的な役割に焦点を当てながら、建築と都市の将来を考える対話型のセミナーを開催しています。
お気軽にご参加下さい。



神戸市東灘区魚崎地区は、重点復興地域や区画整理事業その他の網がかけられていない、いわゆる白地地域である。昨年10月には、魚崎南地区に「まちなみ環境整備事業」がかかった。行政機関の縛りが緩やかなこの地域では、行政によるトップダウン方式によるまちづくりではなく、住民主体の地域に根差した街づくりが可能で、都市計画コンサルタントや建築関係、ランドスケープなどのボランティア活動が協力し、支援を続けている。また、魚崎南地区は、魚崎郷という灘五郷のなかでもとりわけ木造酒蔵が多く残っていた地域であり、そうした建築群が、この地域の伝統的・文化的特色を形成してきた。

灘の酒蔵のまちを復興させる会
メンバー
中井清志／中井清志建築設計事務所
井上正信／柳々堂書店
笹木　篤／宝塚造形芸術大学助教授
木谷嘉信／木谷嘉信建築設計事務所
遠藤秀平／遠藤秀平建築研究所
真島元之／真島元之建築設計事務所

「灘の酒蔵のまちを復興させる会」は破壊的な打撃を受けた灘五郷の伝統的な「酒蔵のまち」を以前にも増して魅力ある街にするため、住民・酒造メーカー・行政と連携を図るべく、提案を行っている。「酒蔵のまちのフォリー」の提案、「酒蔵のまちの写真展」の開催などである。

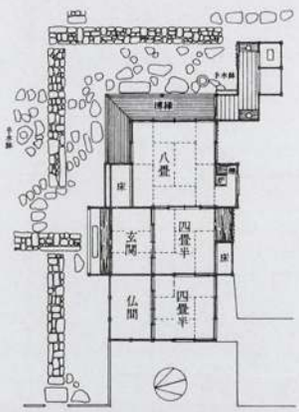
（灘の酒蔵のまちを復興させる会）

日　時　1997年11月21日(金)
18:30—20:30
＊15:00—18:00展示会を開催
会　場　日本建築協会サロン
＊大阪駅前第３ビル21階
講　師　灘の酒蔵のまちを復興させる会
定　員　30人
＊申込者多数の場合は抽選
参加費　会員 1,000円、一般 1,500円
＊学生は500円引
＊含、飲物・消費税
＊団体会員扱いは１社１名
申　込　11月14日(金)までに、ハガキ、FAX、電話でお申込み下さい。
①催し名
：建築家に何ができるか
②氏名
③個人・団体会員、一般の別
④職場・学校名
⑤参加証郵送先
⑥連絡先電話番号
をお知らせ願います。
＊参加証を11月17日(月)に発送します。
申込先　㈳日本建築協会事業課
大阪市北区梅田1-1-3-2100
大阪駅前第３ビル21階 〒530
FAX.348-0634 TEL.348-0633
主　催　㈳日本建築協会
若い会員の集い小委員会
主担 田畑重明／坂倉建築研究所

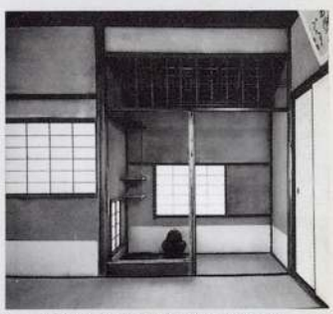
茶室見学会（第9回）

天然図画亭

講　師　中村昌生／京都工繊大名誉教授
日　時　1997年11月29日(土)
14:00—16:00
定　員　30人
＊申込者多数の場合は抽選
集　合　現地
大津市本堅田2-12-5
＊JR湖西線「堅田」駅から徒歩約20分
参加費　会員 3,000円、一般 4,000円
申　込　11月20日(木)までに、ハガキ、FAX、電話でお申込み下さい。
①催し名：茶室見学会
②氏名
③個人・団体会員、一般の別
④職場・学校名
⑤参加証郵送先
⑥連絡先電話番号
をお知らせ願います。
＊参加証を11月21日(金)に発送します。
申込先　㈳日本建築協会事業課
大阪市北区梅田1-1-3-2100
大阪駅前第３ビル21階 〒530
FAX.348-0634 TEL.348-0633



天然図画亭は琵琶湖畔、堅田、居初家の庭園にある。伊勢平氏の流れをくむ居初家は中世、琵琶湖の湖上特権を掌握し強力な水軍を保持していた。江戸時代は大庄屋として堅田の船運を仕切っていた。この庭園は1681年頃できたもので、広さ208坪、茶人、藤村庸軒とその門人、造園、料理にも精通した北村幽安の合作である。
天然図画亭は、梁行2.5間、桁行5.5間、東西に細長い建物で茅葺き（現代は鉄板で被覆）で、入母屋造りの妻を東に向けている。東側、琵琶湖に面した主室は八畳で、東から北へ縁を回し、別



に一畳の床と点前座が付いている。座敷の二方は庭に向かって開放的であり、庭越しに湖や対岸の遠景を楽しむことができるように配慮されている。点前座を設けているから、茶座敷としても造られていることは明らかである。だが、床と点前座を奥の方に向かい合わせて配置し、座敷が極力、庭と続きになるように工夫している。
点前座と客座の境には欄間を設け、その中央に中柱をたて、点前座と客座を半ば隔てるようにしている。点前座の天井は化粧屋根裏となっている。座敷は実に簡素な用材の取り合わせで、町人のなかに深く浸透していった侘茶の文化を物語る貴重な遺構である。

（中村昌生著『茶室大観』より）

第43回工高生デザインコンクール入選者発表

— 設計課題：記念展示館 —

日本建築協会主催による平成９年度の標記コンクールの入選者が、右記のとおり決定いたしましたので発表します。なお、入選作品は平成10年１月号に掲載いたします。

●応募校数 / 34校

●応募作品数 / 123点

	氏　名	学　校　名	学年
入選・最優秀賞	金　森　紹　二	兵庫県立兵庫工業高等学校	3年
入選　優秀賞	加賀山　豪士	東京都立蔵前工業高等学校	3年
入選　優秀賞	藤澤　久美子	三重県立四日市工業高等学校	3年
入　選	安　山　征　吾	大阪府立西野田工業高等学校	3年
入　選	田中　小百合	群馬県立高崎工業高等学校	2年
入　選	横　堀　優　子	群馬県立前橋工業高等学校	3年
入　選	望　月　裕　子	静岡県立静岡工業高等学校定時制	4年
入　選	大西　佐季子	兵庫県立豊岡実業高等学校	3年
入　選	佐　藤　隆　造	兵庫県立兵庫工業高等学校	3年
入　選	水　口　香　奈	三重県立四日市工業高等学校	3年

順不同・敬称略

'97建築関係団体合同忘年懇親会

日　時　平成９年12月12日(金)
　　午後６時～７時30分

会　場　太閤園迎賓館
　　ダイヤモンドホール（ビュッフェ・スタイルのパーティー）
　　大阪市都島区網島町9-10
　　電話 06（356）1111

会　費　10,000円

●申込期間中（10月27日～11月25日）に事務局までお越し下さるか、現金送金にてお願いします。(土曜休務)

●申込者には忘年懇親会参加証をお渡しします。

定　員　400名

お願い

(1) 申込の際に氏名・勤務先をお知らせ下さい。

(2) 申込者で12月３日までに欠席の連絡がない場合は会費のご負担を願います。

(3) 当日は参加証を必ずご持参願います。

'98建築関係14団体合同新年交礼会

日　時　平成10年１月５日(月)
　　午後２時30分～３時30分

会　場　マイドームおおさか・３階
　　大阪市中央区本町橋2-55

会　費　5,000円（当日欠席されても会費をいただきます）

申　込　12月10日までに会費を添えて最寄り団体にお申込み下さい。

共　催　㈳日本建築協会　㈳大阪府建築士会　㈳日本建築学会近畿支部　㈳日本建築家協会近畿支部　㈳大阪建設業協会　㈳日本建築材料協会　㈳大阪建築士事務所協会　㈳建築業協会関西支部　㈳日本建築構造技術者協会関西支部　㈳日本建築積算協会関西支部　㈳建築設備技術者協会近畿支部　㈳大阪電業協会　㈳大阪空気調和衛生工業協会　㈳大阪建築設備設計事務所協会

「民間(旧四会)連合協定工事請負契約の解説」講習会開催

今年９月から、「民間（旧四会）連合協定工事請負契約約款」（旧四会連合協定工事請負契約約款の改正新約款）が一般に頒布され、使用されています。この新約款の解説、説明をするため、日本建築協会、日本建築家協会、日本建築学会ほか４団体で構成する“民間（旧四会）連合協定工事請負契約約款委員会”委員編著による「民間（旧四会）連合協定工事請負契約約款の解説」をテキストに、説明会が開かれます。

講　師　大森文彦氏（東洋大学助教授）
　　里川長生氏（㈱山本設計取締役）
　　橋本喬行氏（㈱旧建設計顧問）
　　吉野　高氏（弁護士）

参　加　費用10,000円／１名

資　料　テキストとして「民間（旧四会）連合協定工事請負契約約款の解説」（大成出版社刊、A5判、200頁、定価2,100円）を会場にて販売

定　員　200人（先着順）

申　込　10月15日以降、参加希望会場名、参加者名、勤務先、領収書返送用封筒（80円切手貼付・宛名記入）を明記した申込書と参加費を同封して、現金書留で下記申込先へ。電話申込み不可。銀行振込み、当日受付も不可。

申込先　民間（旧四会）連合協定工事請負契約約款委員会（東京都港区芝5-26-20　建築会館3F、〒108 TEL.03-3455-3109）

■東京会場
1997年11月25日(火)　10:00～16:00
会場／建築会館ホール
　　東京都港区芝5-26-20

■大阪会場
1997年12月９日(火)　10:00～16:00
会場／国民会館ホール
　　大阪市中央区大手前2-1-2

講演記録集「話のはなし」頒布します!

昭和47年６月に発足した「建築クラブ」（日本建築協会会員有志の集まり）は、毎月１回、大阪市内のリーガグランドホテルに学者やジャーナリストをはじめ政界・経済界・文芸界・スポーツ・芸能界など広い分野から講師をお招きして、お話を聞く朝食会を開いております。

この朝食会も本年４月には第300回の記念すべき朝を迎えました。これを記念して、講演速記録を集約し、「話のはなし」という表題のもと、最終的に118回分を5冊１セット（１冊平約320ページ）の本に編集いたしました。講話の内容はとても多彩で、「おもしろい話」「貴重なはなし」「裏ばなし」などがいっぱい詰まっています。

建築クラブのご好意により、１セット10,000円でおわけできることになりました。ご希望のかたは電話またはFAXでお申し込み下さい。

申込先：日本建築協会事務局
　　TEL06-348-0635
　　FAX06-348-0634

今月の表紙

大阪港・天保山の海沿い（大阪）

撮影　松村芳治

表紙デザイン　安里俊久

■特集予告

12月号／第44回青年技術者
京都駅ビル

1月号／新しいまちづくりの予感
東畑建築事務所創立65
周年

編集委員会（平成９年度）

■副会長　田ノ畑好幸
金多　潔　西岡　道雄
薬袋　公明　野口　太郎
■編集理事　堀内　一夫
荒巻　恭士　※桝井　貴廣
井上　豊　水谷　昇
小島　雄　村上幸三郎
竹中　統一　山根　敏和
立野　一郎　横平　光伸
真塚　達夫　★施工材料分科会
松村　慶三　植田　実
溝神宏至朗　岡崎　康夫
山田　修　小椎八重猛
◎奥謝野　久　志水　史典
■編集委員　太刀川丈陽
★計画分科会　※土倉　毅
☆計画系　米澤　秀暢
伊礒　憲幸　★法令分科会
梅村　宏尚　入江田吉仁
※小浦　久子　江山　雅己
鈴木　克彦　※城戸　史郎
田中　直人　炭崎　勉
松川　敏正　中　勝生
横関　真紀　浜野　幸雄
吉村　英祐　■作品作風小委員会
☆建築計画系　赤木　隆
磯村千恵子　秋山　克彦
上杉　秀隆　秋山　茂
江副　敏史　朝倉　一晃
荻窪　伸彦　小笠原絵理
菅野　忠司　川上比奈子
笹村　欽也　倉渕奈千子
佐藤不二男　杉原　繁
※塚本　史郎　富田　昌義
根木　睦二　中村　文紀
刃金　国雄　藤城　義丈
山本　匡　前川　治彦
☆インテリア・住宅系　前田　幸宏
石川　佳子　増田　敬彦
加藤　力　増田　俊哉
角方　利幸　◎宮地雄一郎
北浦かほる　■会員企画小委員会
小梶　古隆　伊藤　郁郎
小島　保人　池田　聡実
下村　陽子　◎稲木　裕子
中村　孝之　大谷由紀子
中村　雅人　糟谷　浩史
※畑　康之　佐野　洋
西田　和子　高岡　伸一
渡邊　秀俊　高田　光雄
★構造分科会　高橋　麗子
大氏　正嗣　塚口　明洋
岸本　一蔵　東宮年一郎
岸本　圭暁　長友理津子
楠本　隆　増渕　昌利
下野　直人　山寄　章子
鈴木　勝博　■広告企画小委員会
田中　剛　池渕　俊男
※田辺　太一　岩井　武夫
野口　拓也　◎小幡　義明
松村　和夫　加納伸太郎
吉澤　幹夫　勝　一弘
★設備分科会　河原　正雄
梶井　宏修　長野　洋一
河津　隆之　山下　修司

◎委員長　○副委員長　※幹事

印　刷　平成９年10月25日
発　行　平成９年11月１日
発行人　社団法人日本建築協会
発行所　社団法人日本建築協会
大阪市北区梅田1-1-3-2100
電　06-348-0635
振替口座　00910-9-39975
印刷所　青葉印刷株式会社
日本電植株式会社
定　価　1200円〔本体価格1143円〕

建築と社会11

1997

ARCHITECTURE AND SOCIETY
JOURNAL OF THE ARCHITECTURAL ASSOCIATION OF JAPAN

1917年創刊　第78集／通巻908号

CONTENTS

特集●　**私の空間作法—会員作品—**

山陽電鉄西代駅換気塔「風の門」●柴田　作十飯味久和 — 18
安川ビル●松隈　章 — 19
JMP●一尾晋示 — 20
象印マホービン（株）四国支店●上羽一輝 — 21
本町の家●高砂正弘 — 22
鴨島の家●新居照和&ヴァサンティ — 23
守口市世木公園●登坂　誠 — 24
TRANSTATION大関（福井電気鉄道大関駅）●遠藤秀平 — 25
アミティエ新大阪●大村昌聡 — 26
鐘紡宝塚保養所●栗原幸二 — 27
笠置郵便局●山本俊輔 — 28
ノーリツ鋼機（株）EMCセンター●島崎清秀 — 29
大阪芸術大学・浪速短期大学附属照ヶ丘幼稚園●楊山　歩 — 30
医療法人社団 葵会 八本松病院●山田　保 — 31
逆瀬台の家●上谷重男 — 32
津田邸●芝吹千昭 — 33
新長良川 流石の庭●長谷川弘直 — 34
学校法人 大下学園 祇園高等学校●沖本弘至 — 35
ギャラリーホワイエ甲子園（甲子園の土蔵）●塚口明洋 — 36
京料理「いそべ」—ライトスケープ—●村上幸三郎 — 37

会告　建築家に何ができるか（6）灘の酒蔵のまちを復興させる会，茶室見学会（9）天然図画亭，第43回工高生デザインコンクール入選者発表，'97建築関係団体合同忘年懇親会，'98建築関係14団体合同新年交礼会，「民間（旧四会）連合協定工事請負契約の解説」講習会開催，講演記録集「話のはなし」頒布します！ — 1

作品作風
中央大通FNビル — 4
園田学園清明ホール — 8
神戸交通センタービル — 10
生活訓練施設パザパ — 12

gallery　「光の詩」（岡　幸男）●杉原　繁 — 14

建築の眼　癒し（いやし）のアート●田中直人　思い出に残るまちに●岩本康男
子どもの療養環境●篠原佳則　「シックハウス症候群」に思う●柿本正和 — 16

Sketch Book　最近竣工した新建築作品8点 — 38

法令コーナー　神戸市の直結増圧給水基準●山下一司 — 41
合併処理浄化槽の設置推進—京都府と大阪府—●浜野幸雄・松井博一 — 42

構造の頁　海外の耐震改修の動向●益尾　潔 — 44

設備の頁　光触媒を応用した照明器具●岡田　茂 — 46

GBRCニュース　平成8年度の工事用材料受託試験に関する調査—鉄筋の強度試験— — 47

基礎講座A　実例その５・同窓会だよりに思う●山田　修 — 48

基礎講座B　空気調和設備編／設計図書の種類と構成●出崎　進 — 49

REPORT　現代彫刻家　松井紫朗『空間への回路』●樋上新治 — 50
会議は楽しく活発に●山田　修 — 51

書評　「歴史的建築の構想注解」●中村貴志 — 52
「福祉のまちづくりデザイン」●吉村英祐 — 53

BOOK STATION　書名紹介8点 — 54

新建材の頁　フッ素・アルミ模様シート「アルモZP」●竹田三夫 — 55

information　村井修写真展、大阪で．広島の四大学建築卒業設計展，イタリア現代建築展，「DISCONT—吉阪隆正＋U研究室—」，西尾邸アートプロジェクト，建築学会支部創立50周年行事，「長寿社会のユニバーサルデザイン」，復興まちづくり報告97，建築家と留学生によるラウンドテーブル，第17回アジア建築文化誌研究会「東南アジアの建築遺産」，大阪で病院建築基礎講座，札幌国際デザイン賞募集，JIA市民大学講座，国際学生照明デザインコンペ，近代建築講演会，インテリアプランナー協会の地震報告，JAPAN HOME SHOW97，広島で講演会『あたらしい都市像』，寺子屋（一心寺）で学ぶ，レインボータウンまちづくり提案募集，阪神間モダニズム展、10月18日～12月7日開催中，建築NEXT PHASE研究会，エス・バイ・エル住宅設計コンペ公募 — 56

月間の動き　平成9年8月分 — 60



作品
作風

設計■
日建設計・藤木工務店一級建築士事務所

監理■
日建設計

施工■
藤木工務店・大林組JV

中央大通FNビル

この「中央大通FNビル」は、日本生命と藤木工務店が両社の敷地を一体化し、総合設計制度を活用して建設した区分所有による貸オフィスビルで、地上24階のうち最上部の4層には、藤木工務店の本社が入居する。ちなみに、FNは、二つの会社の頭文字を組み合わせたものである。

敷地は中央大通の北側、谷町4丁目交差点から西へ2ブロック目、かつて日生谷町ビルと藤木工務店の旧本社のあったところで、北西隅を除いてほぼ整形な一街区に、北側の街区に配慮して建物をできるだけ南の中央大通側に寄せ、西側は隣地斜線に合せてセットバックさせることで段状の特徴ある形態を創り出し、縦を強調した格子のモチーフを使いながら、ランドマーク性を強調した。

基準階は、3.6m×2.7mのモジュールを基本に上階へ行くとともに広さを変えながらも、大小のテナントに対応できるフレキシビリティを持った整形なオフィス空間を確保した。また、コンパクトに集約した東側のコアには、大阪城や生駒山系への素晴らしい眺望が広がるエレベーターホールや、自然光を採り入れたゆとりのある化粧室など、明るく快適な「リフレッシュ空間」を設けた。さらに1階には、コンビニエンスストア、コピーサービスショップ、ティールームなどのテナントが誘致され、貸オフィスビルとしての付加価値が高められることになった。

この界隈は、大阪ビジネスパークや、本町を中心とする既存のビジネス街にも近く、「中央大通FNビル」は、これからますますこの地域の発展に寄与することだろう。　（横川隆一／日建設計）

所 在 地 ——大阪市中央区常磐町1-3-1
敷地面積 —— 3,618.47㎡
建築面積 —— 1,788.64㎡
延床面積 ——35,157.52㎡
構造規模 ——RC、S、24F、B1F、P1
工　　期 ——1994年11月～1997年8月
最 寄 駅 ——地下鉄中央線・谷町四丁目下車
撮　　影 ——名執一雄

◀外観・南東面



西南からの全景



外観・南面見上げ

▼外観・南西面

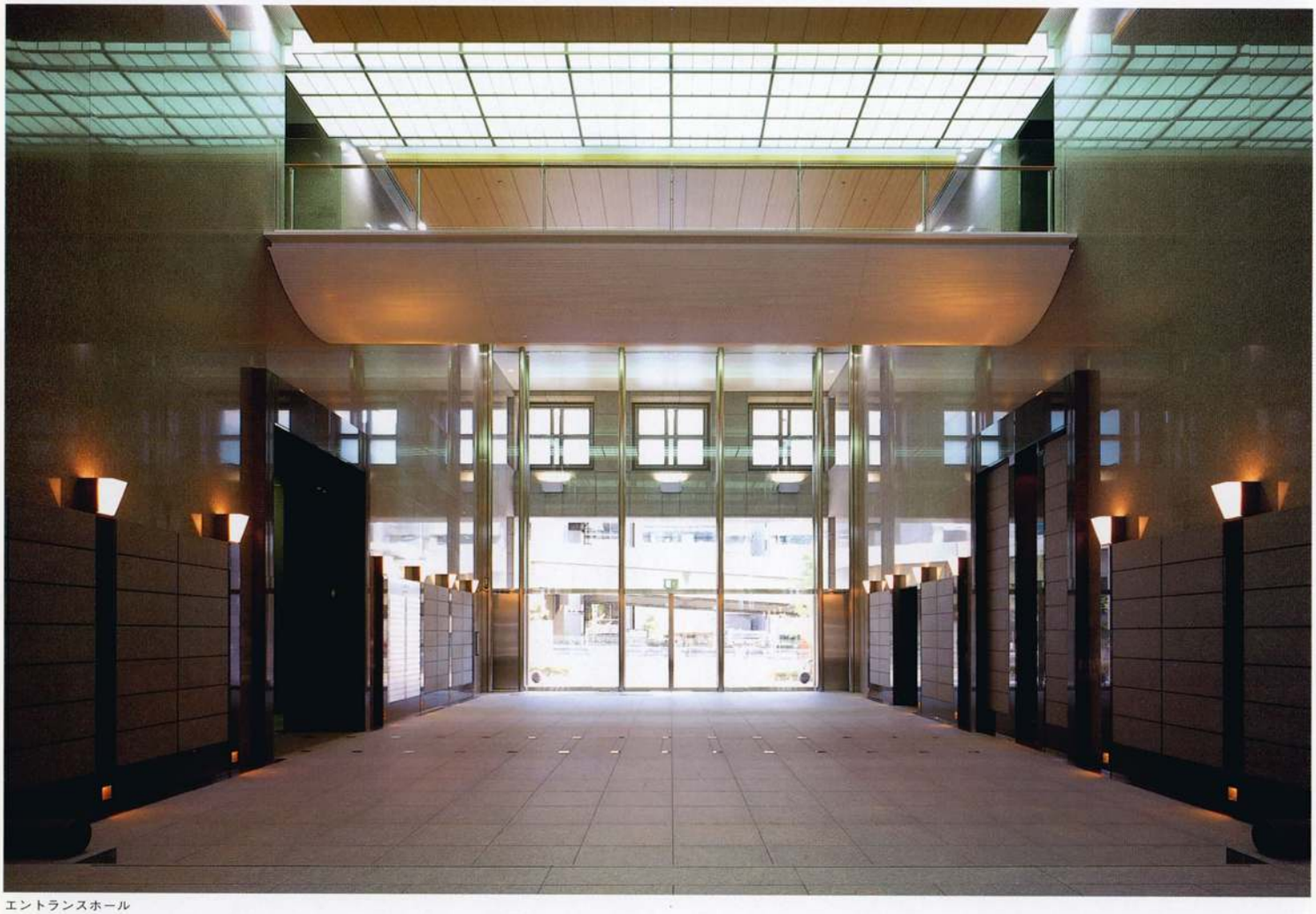




西側公開空地



エントランスホール



エントランスホール



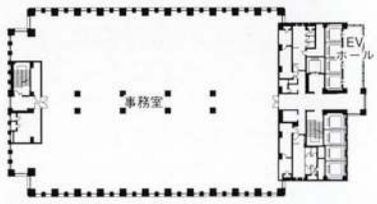
南側エントランス外観



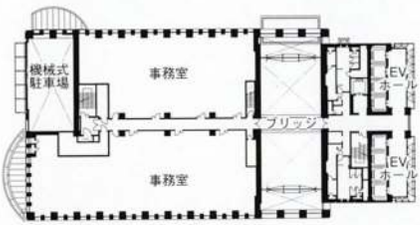
藤木工務店本社エントランスホール



1階エレベーターホール



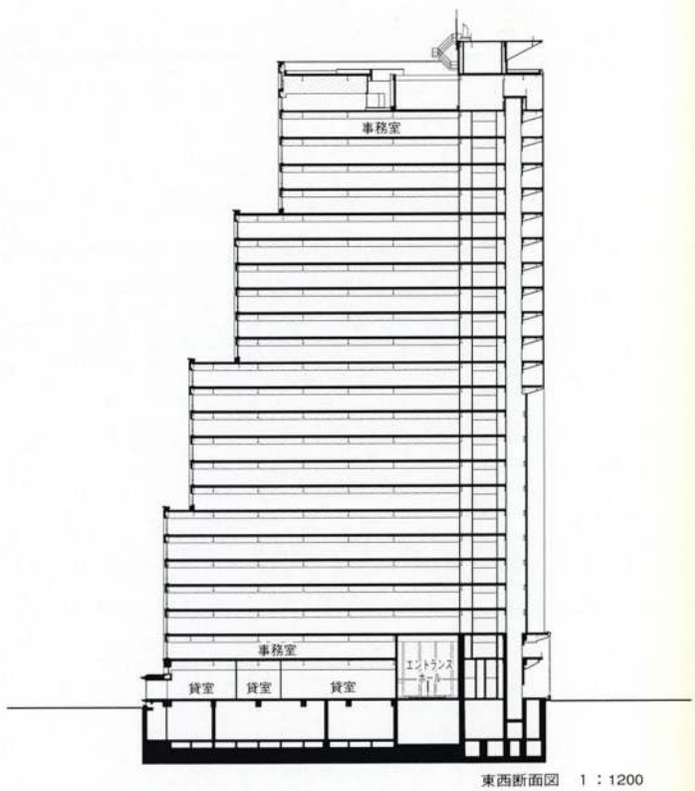
8～10階平面図　1：1200



2階平面図　1：1200



◀配置図・1階平面図　1：1200



東西断面図　1：1200

▲西面



▼南面※



作品

設計監理■
大林組

施工■
大林組

園田学園　清明ホール

阪神大震災により半壊に至った施設が、新しく「清明ホール」として竣工した。

当学園は都市部近郊の閑静な住宅地に立地しており、敷地が非常に限定されている。これまでは諸施設が市道をはさんだ東西の敷地全体に点在していたが、今回の建替を機に施設配置を見直し、西敷地にグラウンドを集約した。また、アリーナ屋上も広場として利用するなど限られた敷地の有効利用を図っている。

清明ホールは三方を既存校舎に囲まれた中央に位置している。圧迫感を軽減させるための工夫として、

① アリーナ部分を１層分（３m）地下に埋め、
② 大きなヴォリュームを小さなヴォリュームの構成にブレイクダウンし、
③ 上層部をセットバックさせると共に、セットバック部分及び屋上広場周囲を緑化した。

45m×36mのアリーナ屋上は広場として利用するため、格子梁及びメガトラス梁で、その荷重に対応している。

建物外壁は白を基調に統一し、学園のイメージにふさわしい、清楚な雰囲気の建物とした。グラウンド側は、多目的ホールと図書館のガラスのシリンダーがシンボリックな姿を見せている。

また、同時にプール棟、部室棟も新築し、より一層の施設の充実を図った。　（小林照雄、高橋　洋／大林組）



配置図　１：3000

所 在 地 ―― 尼崎市南塚口町１丁目24番地16
敷地面積 ――18,908.18㎡
建築面積 ―― 3,220.66㎡（新築部分）
延床面積 ―― 5,311.99㎡（新築部分）
構造規模 ――S、SRC（一部RC）、B1F、3F
工　　期 ――1996年４月～1997年７月
最 寄 駅 ――阪急神戸線・塚口駅
撮　　影 ――島　修一、ヤマモト写真工房＊


アリーナトラス梁


※2階ホール


▼屋上広場


santica
JR 阪急 阪神 地下鉄 のりば

作品風

設計監理■
日建設計

施工■
鹿島建設・フジタJV

神戸交通センタービル

神戸交通センタービルは、一日の乗降客が45万人である三宮のJR・阪急・阪神・地下鉄の各駅からのコンコースでもあり、まさに神戸の玄関で三宮の顔とも言うべき建物である。
みなと神戸に相応しい「希望の船出」をテーマとして外観を計画し、白く輝くシルバーメタリックのサッシュレス金属パネルと透明ガラス窓による明るく開放的な構成とした。交通センターの重要な機能であるJR・阪急への接続デッキは幅を拡げてスロープを設け、エレベーターを利用出来ることで身体障害者やお年寄りがスムーズにアクセス出来るようにした。構造的復旧計画は工期短縮とコスト低減を意図して、被災した2階柱脚以上を撤去して、2階床版以下の旧躯体を利用した。2階以上を鉄骨造とする等軽量化を計り旧建物より一層高い10階建を実現した。旧躯体利用に際しては、バランスのとれた純ラーメン構造に改造することを旨とし、1階既設柱及び、2階接合部を鉄板補強し靱性を高めた。又、地下階では耐震壁を増設し剛性と耐力の向上を計り、より安全で信頼性の高いビルを目指した。
建物用途は地階が店舗、1・2階はコンコースと旅行代理店、3～8階は事務室、9・10階は飲食店舗で魅力的な複合ビルとして生れ変った。

（遠松展弘／日建設計）



断面図　1：900

所 在 地 ―― 神戸市中央区三宮町1-10-1
敷地面積 ―― 1,543.33㎡
建築面積 ―― 1,156.56㎡
延床面積 ―― 11,925.08㎡
構造規模 ―― SRC、S、10F、B1F、P2
工　　期 ―― 1996年６月～1997年７月
最 寄 駅 ―― JR三宮駅・阪急三宮駅・阪神三宮駅・地下鉄三宮駅
撮　　影 ―― 松村芳治



西側より



南側正面


京阪

作品風

設計監理■
大林組

施工■
大林組

京阪病院　生活訓練施設「パザパ」

近年の医療及び福祉を取り巻く環境変化の中、大阪府守口市に精神障害者の社会復帰を目的とした、これら２つの施設が、１つの建物として完成した。

２つの施設とは、医療施設としてのデイケアセンターと、社会福祉施設としての生活訓練施設である。前者は、主にデイユースであるため、「明るく」「開放的に」をテーマに、白を基調に配色し、また、充分な外光を取り込める様、開口部を広く取った。後者の生活訓練施設は、主に寮として使用しナイトユースがメインとなるため、「落ち着き」「アットホーム」をキーワードとし、温もりある素材を中心に用い白熱燈の似合う空間を目指した。

外観は、当建物が約１haの病院敷地の導入口にあることから、目印としての垂直性、門としてのソリッド感を強調した。そして、その１階部分で優しいインテリアを外部に開放させ、そこに施設テーマを表現している。

社会との接点（ゲート）に、医療と福祉の垣根を取り除くべく施設が完成したことは、福祉社会における医療のあり方を問い続ける建築主の精神と共に、これからの福祉社会に貢献して行くことでしょう。

（小川芳弘、船橋俊一／大林組）



1.生活訓練施設玄関
2.デイケア玄関
3.談話室
4.男子便所
5.女子便所
6.デイケア受付
7.男子ロッカー
8.女子ロッカー

１階平面図　１：400

所 在 地 ——大阪府守口市八雲中町３丁目
敷地面積 ——9,352.76㎡
建築面積 ——　277.38㎡
延床面積 ——1,270.88㎡
構造規模 ——RC、6F
工　　期 ——1996年６月～1997年３月
最 寄 駅 ——地下鉄谷町線・大日駅
撮　　影 ——島　修一



▲▼外装を内側に貫入させ開放感を強調する



▼曖昧な領域



gallery

光の詩

岡　幸男

パドゥー
アメニティ広場
大阪市西区千代崎３丁目北２
企画／大阪ガス岩崎開発
設計／日建設計
施工／大林組、鴻池組JV

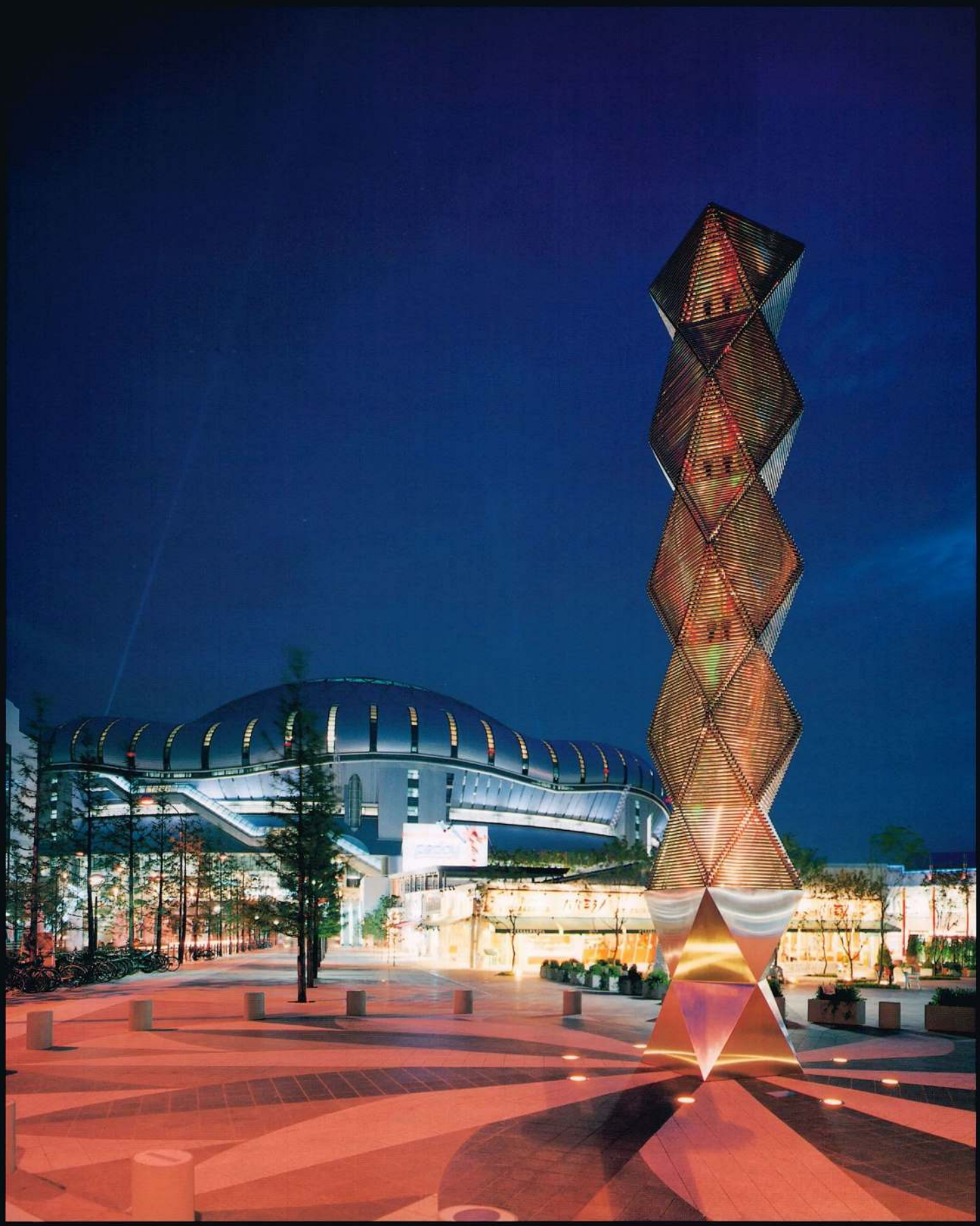
高さ　10m
ステンレスパイプ
内部トラス構造
内部光源
ハロゲン300W
ビームランプ100W
普通ランプ60W
コロラマ調光
赤、青、緑、クリアー

モニュメントは、大阪ドームを背景に、センペルセコイヤの並木やフェニックス、花咲く木々が広がる広場に設置された。並木は、時間をかけ太陽の光と水によって大きく成長し、木漏れ日のある空間を作り出す。
金属で構成されたモニュメントは、その形から木々と同様に空に向かって共に成長しようとしている様だ。
太陽が東から昇り、西に沈む光の変化がモニュメントに命を吹き込む。磨かれたステンレスのパイプで構成された多面体は、光の方向や強さ、光色の変化に呼応してきらめき、表情を変える。陽が沈む頃、内蔵された光で、内側からモニュメント自身が輝きはじめ、まるで生き物のように光の鼓動が動き出す。

岡（おか）　幸男（ゆきお）
1950　和歌山県生まれ
1972　大阪芸術大学卒業
　　LDヤマギワ研究所入所
1986　ライズ設立

主な作品
国際児童文学館：吹き抜けモニュメント
大江ビル：吹き抜けモニュメント
国際花と緑の博覧会：風のモニュメント
津田サイエンスコア：屋外モニュメント
泉佐野市総合文化センター：照明計画
京都醍醐西緑道：屋外モニュメント
キッズプラザ大阪：吹き抜けモニュメント
大阪長堀通り地下街：照明計画

撮　　影―シティワン
企画編集―杉原 繁（作品作風小委員会）



癒し（いやし）のアート

田中　直人

近代技術によっても自由で豊かな生活は物質的には実現できても、精神的には十分に満たされないことが多いと思う。豊かな心の世界への大きな扉の一つである芸術（アート）を鑑賞するために、美術館や博物館等に限らず、近年では都市の公共空間において、さまざまなパブリックアートを設け、都市の自然や人工的環境とともに、市民の心に語りかける出会いを演出するようになった。すべての人にやさしい環境の実現には、バリアフリーデザインによるアクセシビリティの確保だけでなく、豊かな心を育む環境デザインが必要と考え、今年のパブリックアートフォーラム全国集会では“癒し（いやし）のアート”をテーマにした分科会を担当した。アメニティアート、ウエイファンデイングアート、ヒーリングアート、コミュニティアート等さまざまなアートのあり方や可能性が議論されたが、今後は公共の空間のパブリックアートだけでなく、それぞれの家庭や福祉・医療施設等において、自由に自分の気に入ったアートに取り組み、共に楽しみ、共に鑑賞しあう仕組みづくりが、豊かな心の世界を身近に育むきっかけになることが期待される。阪神大震災の犠牲者の鎮魂のために始められた年末の神戸ルミナリエも光による癒し（いやし）のアートであると思う。単なる商業主義でなく、これからも心に響く魅力的なやさしい環境デザインをめざしたいものだ。

摂南大学工学部建築学科教授

思い出に残るまちに

岩本　康男

アフターファイブのほとんどを手近な居酒屋で過ごす者として、いささか面はゆいが、朝比奈隆さんの指揮する大フィルをシンフォニーホールで聴くのは大変な喜びである。あのホールは演奏者と身近で一体感がある。ショルティ亡き後、我らがマエストロがいつまでも活躍してほしいと祈らずにはおられない。ところで演奏会や展覧会は、終わってからそれを話題に飲んだり食べたりするのが楽しい。そのためには美術館や博物館はもっと遅くまで、又そういう文化施設の周りには、ちょっと洒落たレストランや飲み屋が必要だ。

以前、ある女性が「映画を一緒に見に行くのはかなり親しくなってからだ。感動を共有するには、それなりの覚悟がいる」と言っていたが、TVで名画が放映されると、そのときの記憶がよみがえるものだ。都市の風景や場もそれとよく似ていて、思い出に残らないようでは魅力ある都市とは言えまい。個性的な街のたたずまいや、人との出会いが訪れた人の印象となる。

大阪城の石垣や港の夕陽、あるいはもっと人工的な場所でもよいが、感動の場となるような都市を目指すことが大切だ。心に焼き付くまちを舞台に大いに交流を深めて欲しい。しかし別れの名所にだけはしてもらいたくない。

大阪市計画調整局計画部長

子どもの療養環境

篠原　佳則

先日、スウェーデンに行ってきた。ここ数年来、子ども病院の計画に携わっており、そのための視察である。
スウェーデンの小児病棟には、プレイセラピストという職種がおかれ、医師や看護婦らと同等に位置づけられていた。子どもの医療に遊びは欠かせないという認識が強く感じられ、プレイセラピー科は病院のなかでもっとも良い場所に設けているとのことであった。外来からも病棟からも子どもが来やすく、屋外のプレイスペースへとつながっていることがその特徴である。プレイセラピー科にはいろいろなおもちゃ、卓球台、キッチン、オーディオ、楽器等があり、思わず大人も遊んでしまう居心地の良さを感じてしまう内容である。

外来や病棟の入口には気分を和らげる装飾があり、内部の壁面にもサインをかねて彫刻的な作品がおかれている。「今から何をされるのか。」という恐怖感は感じない。だからといって子どもは自分の身に起きることを理解していないわけではなく、プリパレーションによって疑似体験をしているのである。

子どもの療養環境を考えるとき、単に「子どものために…」とか「病気がよくなるように…」でなく、大人達も共感でき癒される環境とすることが重要だと感じている。逆に言えば子どもの視線で空間を作っていくことが、都市や街を輝くものとすることに繋がるのではなかろうか。

安井建築設計事務所名古屋事務所設計部

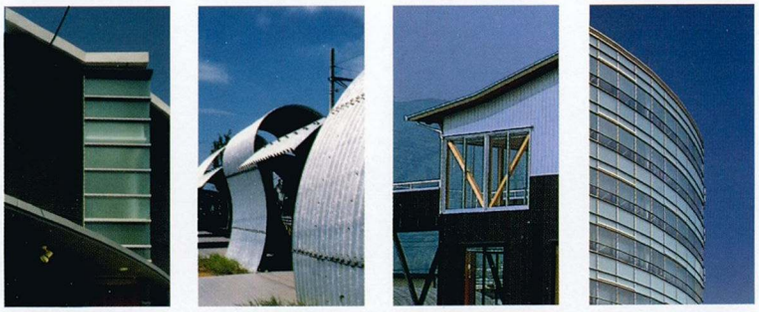
「シックハウス症候群」に思う

柿本　正和

最近シックハウスという言葉を良く耳にする。日頃我々が当り前の様に図面に表現している断熱材や塗料、ダニやカビの発生を抑えるはずの防腐材等、設計者として良かれと思い使用する材料の殆んどが皮肉にも「シックハウス」を作り出す要因となっている。吉田兼好が「家の作りは夏を旨とすべし」といった日本の住宅のあり方を無視した気密性の高い部屋での様々な生活行為を含め、有毒ガスを充満させていることになる。

人間は与えられた気候や風土に適応することによって独自の生活習慣、様式、更に文化を創り上げることが出来たが建築も本来その土地で容易に手に入る材料を使用し、その土地の環境に適応した形態や機能を持つことが出来たはずであるが、それがいつの間にか燃え難いもの、施工し易いもの、メンテナンスが容易なものにとって代わり、世界中を情報が行き交う中、その土地の風土に根ざした独自の様式が消えつつある。しかしその土地にある材料だけで家を作ることも余りにも難しすぎるのも今日の現状である。これからは「室内汚染」を環境問題としてとらえ、工業製品の製造や、使用が環境や人体に及ぼす影響を考え物質の選定、有機溶剤の抑制、安全表示等について積極的に取組む必要性を感じる。

銭高組大阪本社設計部副部長



私の空間作法

日本建築協会■会員作品特集

本年でこの会員作品特集は4回目を迎えました。年を追うごとに、応募されて来られる作品の分野の広さと発想の豊かさ・作品の練度などが向上していくようで頼もしい限りです。

本年の応募作品を概観しますと、やはり多岐にわたる分野の施設が多く、また共通して若々しい「さわやかさ」を感じる力作が多かったように感じました。限られた紙面の中ではありますが、会員の皆さんの日常の研鑽の所産をご紹介し、これら作品を通じての会員間の意見交換・交流の輪が大きく広がって行くことを念じています。

この企画で紹介されました数々の作品を通じまして、建築の設計の「こころ」が、建築界だけでなく社会の各界の方々にも理解されていきますことを引き続き祈りつつ、次回の企画への会員の皆様からの意欲的な作品の御応募を楽しみにしております。

ここに改めて、お忙しい中を本企画にご協力頂きました会員の皆々様に厚くお礼を申し上げますとともに、本企画を担当されました編集委員の方々と事務局編集担当者の皆様に深く感謝申し上げます。

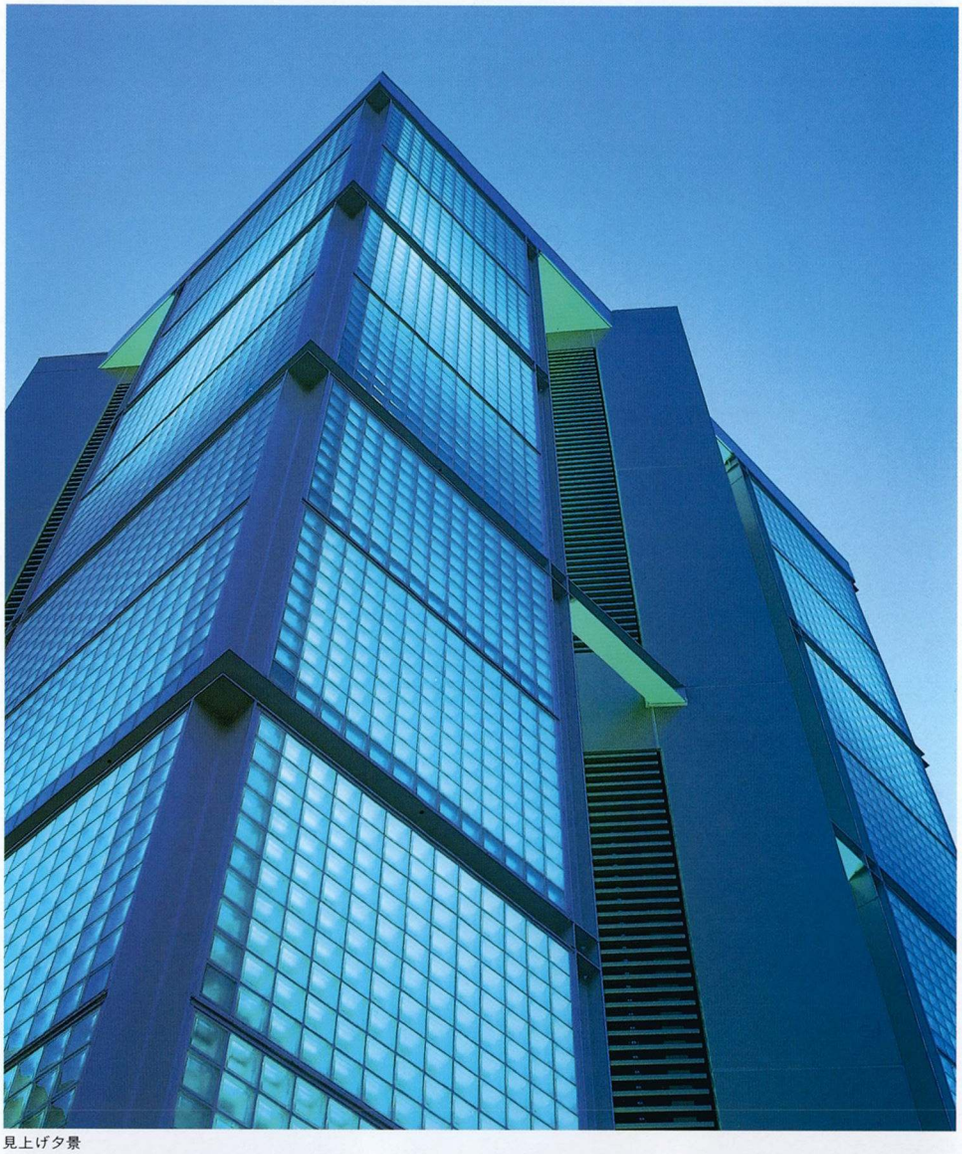
編集委員長　與謝野　久

企画　作品作風小委員会

山陽電鉄西代駅換気塔「風の門」

空気の流れをデザインする

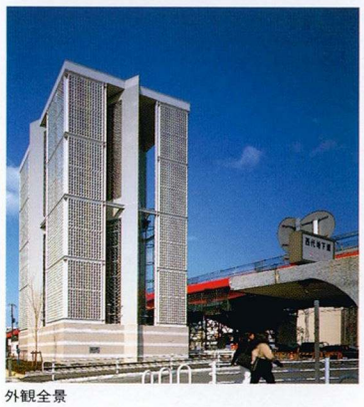
柴田　作十飯味久和　KAJIMA DESIGN KANSAI
山陽電鉄連立工事事務所



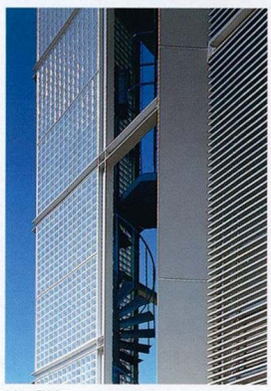
見上げタ景

この計画は、神戸市と山陽電鉄の連続立体事業の一環である、西代駅の地下化に伴う換気塔の建設であり、山陽電鉄本社敷地の一角に立地する。「地下と地上の空気交換（換気）機能をより美しく表現し、地域のランドマーク、震災復興のシンボルとして市民に親しまれるモニュメントをつくる」というデザイン提案が神戸市・山陽電鉄に評価され、阪神・淡路大震災により甚大な被害を受けたこの長田地区において実現に至った。建物は本社ビルのゲート、地域のランドマークとなるよう、シンプルで透明感のある門型の形態としました。特徴となるスリット（すき間）は、風と視線の流れをつくりだし、建物に様々な表情を与え、夜間は、柔らかく発光するガラスブロックが街角の照明となり、周辺環境の向上に寄与している。

（柴田　作・飯味久和）



外観全景



壁面詳細



外観夜景

所 在 地　神戸市長田区御屋敷3-1-1
施　　工　鹿島建設関西支店JV
敷地面積　3,832.12㎡
建築面積　87.57㎡
延床面積　438.70㎡
構造規模　RC、B1F、2F
竣　　工　1997年3月
撮　　影　福澤昭嘉

安川ビル

都市の記憶を映し出す

松隈　章　竹中工務店



2種類のガラスにやわらかくつつまれた外観



西大橋交差点の記憶を創造



緑豊かな新町南公園ごしの遠望

なにわ筋と長堀通の交差点北東角に位置し、地下鉄長堀鶴見緑地線西大橋駅のメインの連絡道を合築した賃貸オフィスビルである。

建物の外被はガラスカーテンウォールとシースルーエレベーターとし、並木や公園の自然的風景、車の流れる人工的風景とオフィスの風景を積極的に呼応させた。また、平面Rの形態と素材のままの材料によって、雑然とした風景に力を与え、都市の記憶を創造した。

西向きの窓廻りは、風景を取りこむ透明ガラス、その上部に直射光を拡散光に変えるフロストガラス、更にロールスクリーン＋窓面排熱による日射制御システムによって、オフィス空間での眺望の確保と快適性の向上の両立をはかっている。

（松隈　章）

所 在 地　大阪市西区新町1-28-11
施　　工　竹中工務店
敷地面積　302.42㎡
建築面積　252.37㎡
延床面積　1,866.81㎡
構造規模　S、B2F、8F、P1F
竣　　工　1997年３月
撮　　影　松村芳治

JMP

光と影のコンポジション

一尾晋示　一尾晋示建築総合研究所



正面外観

この計画地は、四日市市の中心部に位置し、東側が交通量の多い国道1号線に面した、間口に対して奥の幅が約半分となる変形敷地である。
家族3人の住居の他、敷地北側に駐車スペース6台分、1階に事務室2室を設ける与条件のため、建物は隣地建物に近接した。対策として、住宅の中心部に「光の庭」と称するバルコニーを設け、2階は勿論、1階の玄関部分まで南側の光を採り込んだ。
2階を一部、天井高を抑えオーバーハングさせ、上部に連続窓を設けることにより、床面積を確保し、北側の柔らかい光、通風を採り入れている。
騒音問題は、道路面の開口部を出来るだけ抑える事で解消している。
時が経つにつれ、落ち着きが出ることを期待している。　（一尾晋示）



北面外観



「光の庭」よりリビング、和室を見る



玄関廻り

所 在 地　三重県四日市市西町14-17
施　　工　新栄建設
敷地面積　218.81㎡
建築面積　111.66㎡
延床面積　191.38㎡
構造規模　S、2F
竣　　工　1997年4月
撮　　影　藤原　弘

象印マホービン(株)四国支店

軽やかさが生み出す浮遊感

上羽一輝　東畑建築事務所



西側外観夕景※



外観見上げ

岡山から瀬戸大橋を渡り坂出北インターの近くに、この敷地は位置する。「高付加価値型流通機能育成ゾーン」に指定されたこの地域には、事務所や大型の配送センターが点在し、高層の建築物はなく、都心にはない陽光あふれる空が広がっている。

2階建の事務所と配送センターからなるこの施設は、象印の四国地方における営業・配送拠点として建設された。生活に密着し<多彩な生活快感を提案する>という象印の企業イメージを読みとり、「合理的で単純な形態や線形の構成によって単調でない多彩さ・軽やかさを表現すること」を設計コンセプトとした。

1階玄関廻りの庇と立駐から延びる化粧庇の重なりや、2階のファイバーグレーチングの庇と開口部の線形は「バランスのとれた軽やかさ」を表現し、ガラスブロックやフロントガラスは事務所への西陽の照射を和らげると共に繊細で柔らかな表情を創り出すことを意図している。

また、事務所の空調はランニングコストの軽減と省エネ、地球環境問題に配慮し氷蓄熱ビルマルチを採用している。　(上羽一輝)

所在地　香川県坂出市西大浜北3-44-19
施　工　小原建設
敷地面積　1,313.44㎡
建築面積　917.96㎡
延床面積　1,991.98㎡
構造規模　S、2F
竣　工　1997年5月
撮　影　SS大阪(※)

本町の家

まちに開かれた家族の空間

髙砂正弘　髙砂建築事務所



アプローチから見た東側外観

敷地は阪急高槻市駅から徒歩10分あまり、小さな家が建ち並ぶ住宅地の一角にある。南に幅４ｍの道路、ほかの三方には2階建ての隣家が迫っている。

構成は住まいの中心となる個室を2階に、そして１階に食堂、地階には茶の間を配した。社会との接点を持つのは個人であり、その個人が持つある部分を共有するのが家族であるという建築主の考えが構成を決定した。

個室は天井高さを十分に取り、南に面して大きな開口部とテラスを設けている。さらに主寝室には内外が連続したインドアテラス、子供室には中3階を設けて室の狭さを補っている。

構造は、閉じた地階と１階を鉄筋コンクリート造、開いた２階を木造としている。仕上げもそれに呼応し、コンクリート打ち放しと２階の壁と屋根は緑青銅板一文字葺きで覆っている。　（髙砂正弘）



南側外観



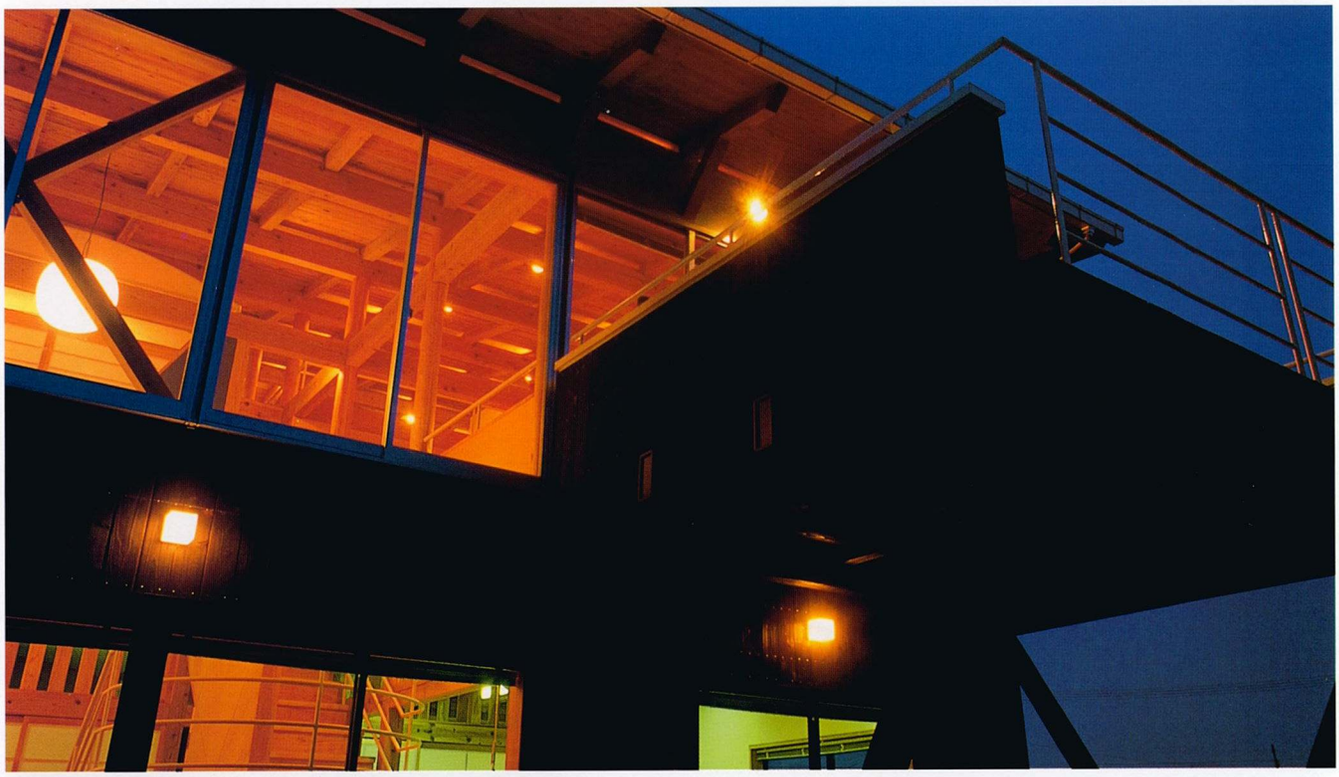
地階の茶の間

所在地　大阪府高槻市本町
施　工　相互住宅
敷地面積　107㎡
建築面積　51㎡
延床面積　126㎡
構造規模　RC、W、B1F、2F
竣　工　1997年５月
撮　影　松村芳治

鴨島の家

自然を招く生活舞台

新居照和＆ヴァサンティ　新居建築研究所



南、縁側よりデッキを見上げる



食空間を中心とする2階広間



東北側からみる全景

敷地は、四国の大河、吉野川流域の田園地帯にある。近隣との付き合いが多い農業を営む両親と一緒に暮らす、３世代７人家族の多彩な生活を包む元気な住宅を試みた。南面の山や廻りの田畑の四季折々の変化など、恵まれた自然環境を享受し、その存在を日常生活の中から意識化できる空間を目指した。

１階は老夫婦、２階は開放感溢れる食空間と中年夫婦、ロフト階は子供達が中心となる領域をつくりながら、各々の領域がルーズに交ざりあう構成をした。家全体を一つの空間として捉えることができると同時に、住み手が家具や建具によって、様々な使い方や個性ある居場所をつくっていくことを誘引するような場を、散在させることに努めた。

（新居照和）

所 在 地　徳島県麻植郡鴨島町260番地
施　　工　アズマ建設
敷地面積　566.63㎡
建築面積　101.25㎡
延床面積　199.38㎡
構造規模　W、2F＋ロフト
竣　　工　1997年４月
撮　　影　北田英治

守口市世木公園

エコロジーを体現する風景

登坂　誠　日建設計



石垣に囲まれた流れと霧の遊び場



背後の鶴見緑地の森との連続

鶴見緑地の北門に続くプロムナード沿いに位置し、周辺は高密な住工混在地域である。釣り池を中心に豊かな自然体験ができる地域のための公園を計画した。

隣接する下水処理場の2次処理水を浄化し再利用することにより、水の循環、エコロジーを体験できる施設を中心に計画した。

円形の釣り池ゾーンと自然護岸による水性動植物体験ゾーン及び石垣に囲まれた流れと霧の遊び場ゾーンの水をモチーフにした3つの空間で構成している。鶴見緑地の森と連続する起伏ある自然丘陵の林を住宅地側に設け、周辺に配慮した計画とし、一方プロムナード側は開放的にした。管理棟と木橋は公園の一部の点景として計画した。

かつての守口周辺の蓮根畑の風景の再生と都市の中で自然を体験する、変化に富んだ風景づくりに努めた。

（登坂　誠）

所 在 地　守口市南寺方4-136
施　　工　奥野組
敷地面積　10,000.00㎡
建築面積　110.32㎡
延床面積　106.08㎡
竣　　工　1997年3月

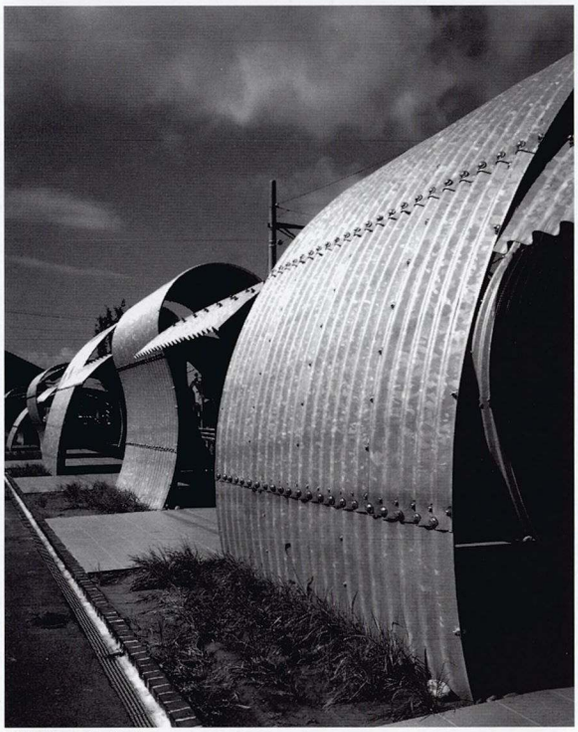
TRANSTATION 大関（京福電気鉄道大関駅）

連続する変形プロムナードの駅

遠藤秀平　遠藤秀平建築研究所



西側ギャラリー部分



東側ギャラリー部分

この計画は、地方の無人駅の機能拡散への関与である。極端な利用者の減少への対策と地域の活性化を目的として、地元の町により推進された事業である。

無人駅の機能は単純すぎるほどのものであるが、ここに新たな介入を設定することによる、地域の人たちの接点としての状況づくりが望まれた。

駅が示す定刻を持続する均質な制度の運用に触発され、多数の人の離散集合による接触状況の発生を試みた。

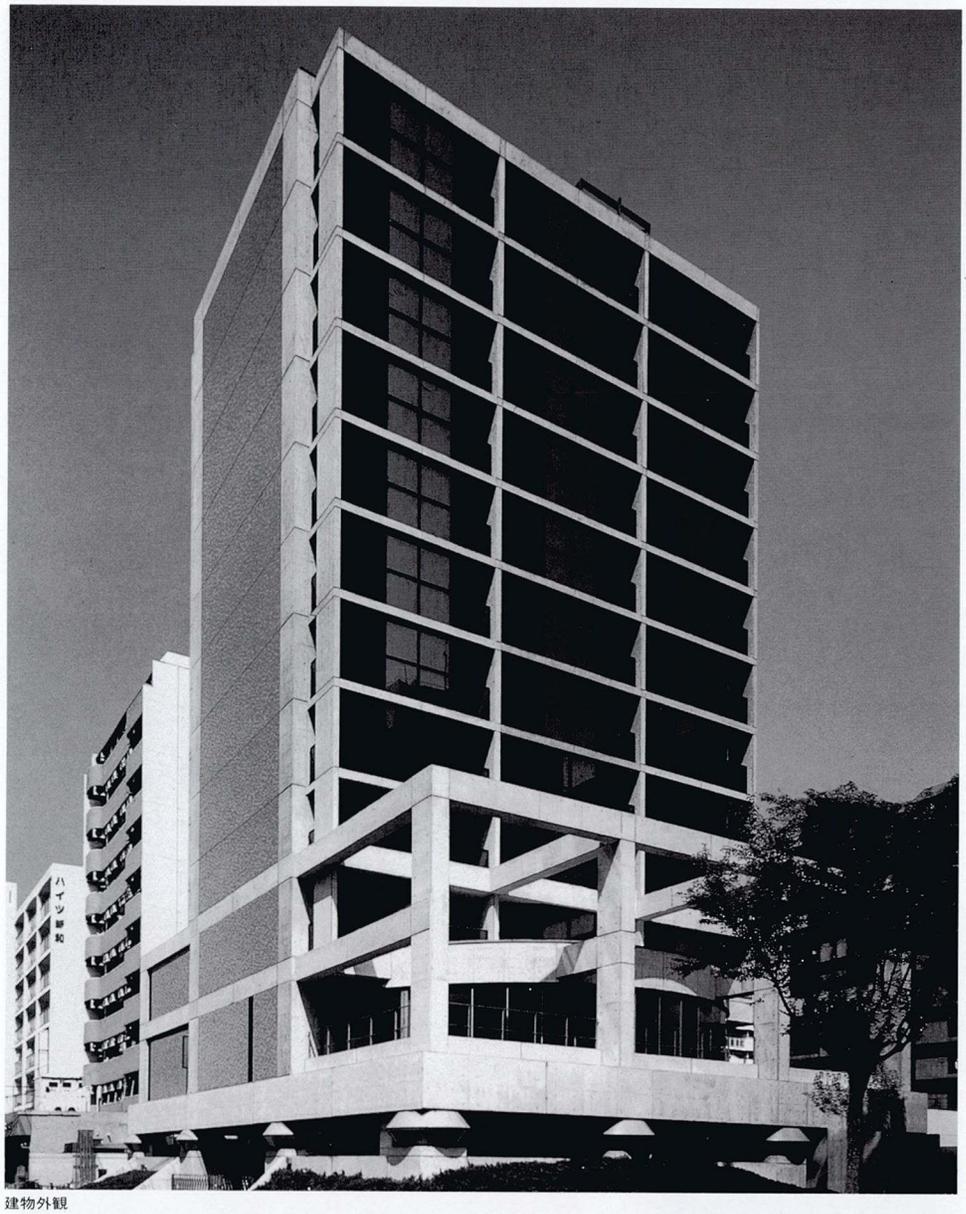
コルゲート鋼板による屋根壁一体型の設定は過剰な形態の展開ではあるが、多くの「連続する変形」による連鎖に恣意性の限定解除への試みを模索した。　（遠藤秀平）

所在地　福井県坂井郡坂井町大味
施　工　伊藤工務店
敷地面積　825.00㎡
建築面積　365.06㎡
延床面積　365.06㎡
構造規模　波形鋼板構造、1F
竣　工　1996年12月
撮　影　北嶋俊治

アミティエ新大阪

浮遊する高層免震ビル

大村昌聡　清水建設大阪支店一級建築士事務所



建物外観

当建物は、高層建物としては、初めて柱頭免震構法を採用した清水建設の単身赴任者寮です。この構法は市街地の狭小な既存建物の免震化に非常に有効な構法です。
1階柱頭部の特徴的な免震装置廻りの形態を活し、免震構造部分が地上構造部分から浮遊する外観構成としました。また、壁式ラーメンRC造化粧打放しコンクリートの構造体表現と相俟って、業務地区の街並みに合った外観表現としました。
内部は、木質系の暖かみのあるインテリア構成とし、豊かな街路樹の緑を取り込みながら、居住者がくつろげる空間造りを行いました。

（大村昌聡）



エントランス外観



食堂内観

所 在 地　大阪市淀川区西宮原1-5-46
施　　工　清水建設大阪支店
敷地面積　709.12㎡
建築面積　483.17㎡
延床面積　3,123.12㎡
構造規模　免震構造、RC、12F
竣　　工　1997年７月
撮　　影　SS大阪

鐘紡宝塚保養所

六甲に続く屋上の緑

栗原幸二　大林組本店一級建築士事務所



室内の透明性とオープンスペースとの一体性



オープンスペースから六甲山系への緑の連続性

宝塚市の再開発に伴う変貌著しい温泉街に位置する保養所である。
敷地は、高層建築群と戸建住宅街区に挟まれた環境条件に立地している。
全体のヴォリュームをそれぞれの環境に応じて配分し、街並み、プライバシー等周辺環境との融合を図った。
その中央に隣接する公園と連続するオープンスペースを設け、さらに屋上緑化を施すことで、六甲山系への緑の視覚的連続性をも持たせている。
それにより、比較的高密度な施設でありながら豊かな自然環境を得ることができた。
さらに、室内空間に透明性を持たせ、室内外相互の一体感を高めることで、豊かな光とゆとりをもたらす快適な空間を実現した。それらの空間をつなぐ回遊動線は、変化に富んだシークエンスを生み、施設全体の空間価値を高めている。

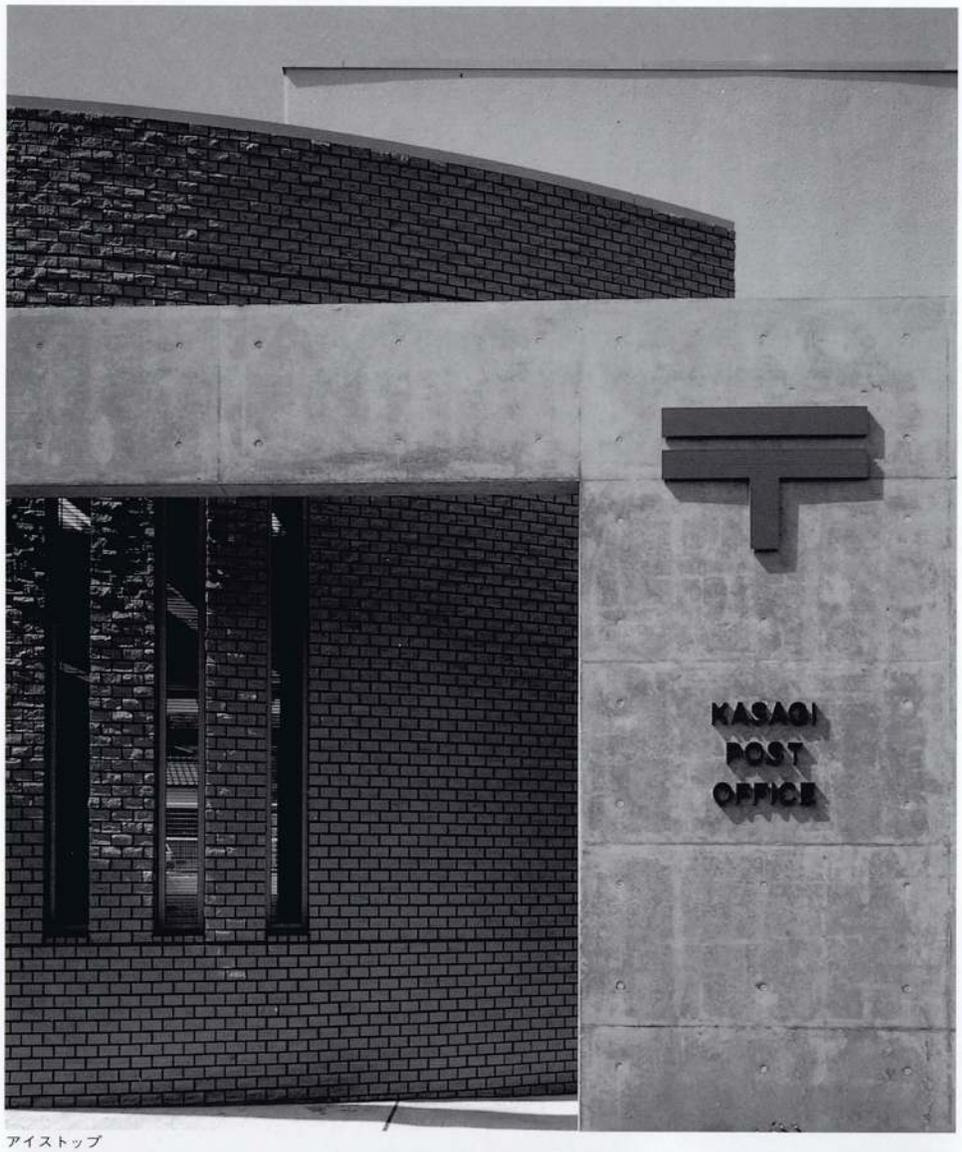
（栗原幸二）

所在地　兵庫県宝塚市湯本町17-1
施　工　大林組
敷地面積　2,236.79㎡
建築面積　1,272.32㎡
延床面積　2,701.13㎡
構造規模　RC、一部S、5F、P1F
竣　工　1997年4月
撮　影　SS大阪

笠置郵便局

歴史のまちかどの佇まい

山本俊輔　スペースクリエーション



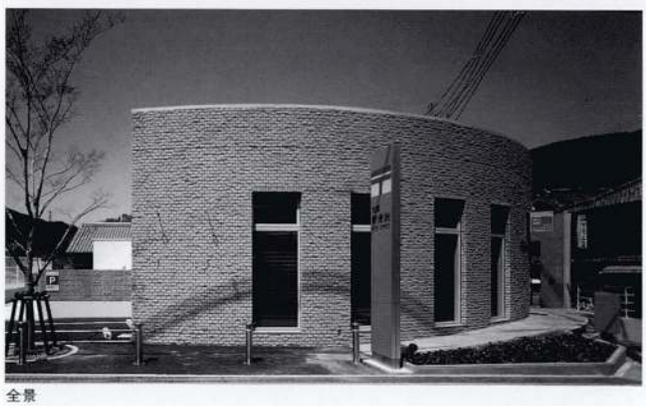
アイストップ

笠置は歴史のある、落ち着いた佇まいの街である。その周辺環境に溶け込みつつ、存在感を与え、地域の人々に親しまれる郵便局となるように計画を進めた。

敷地は街の中心地の角地に位置し、ファサードはこの角地にやさしく沿わせた割肌タイルの曲面の壁と、アイストップとなる打放しの壁を組み合わせて、形態、素材共に対比させる事で象徴性を持たせた。エントランスは、曲面の壁の中心に設け、利用しやすい動線計画とすると共に、印象的なアプローチとしている。

また、特定郵便局としては初のソーラーパネルによる空調、照明システムを採用し、環境に配慮している。

（山本俊輔）



全景



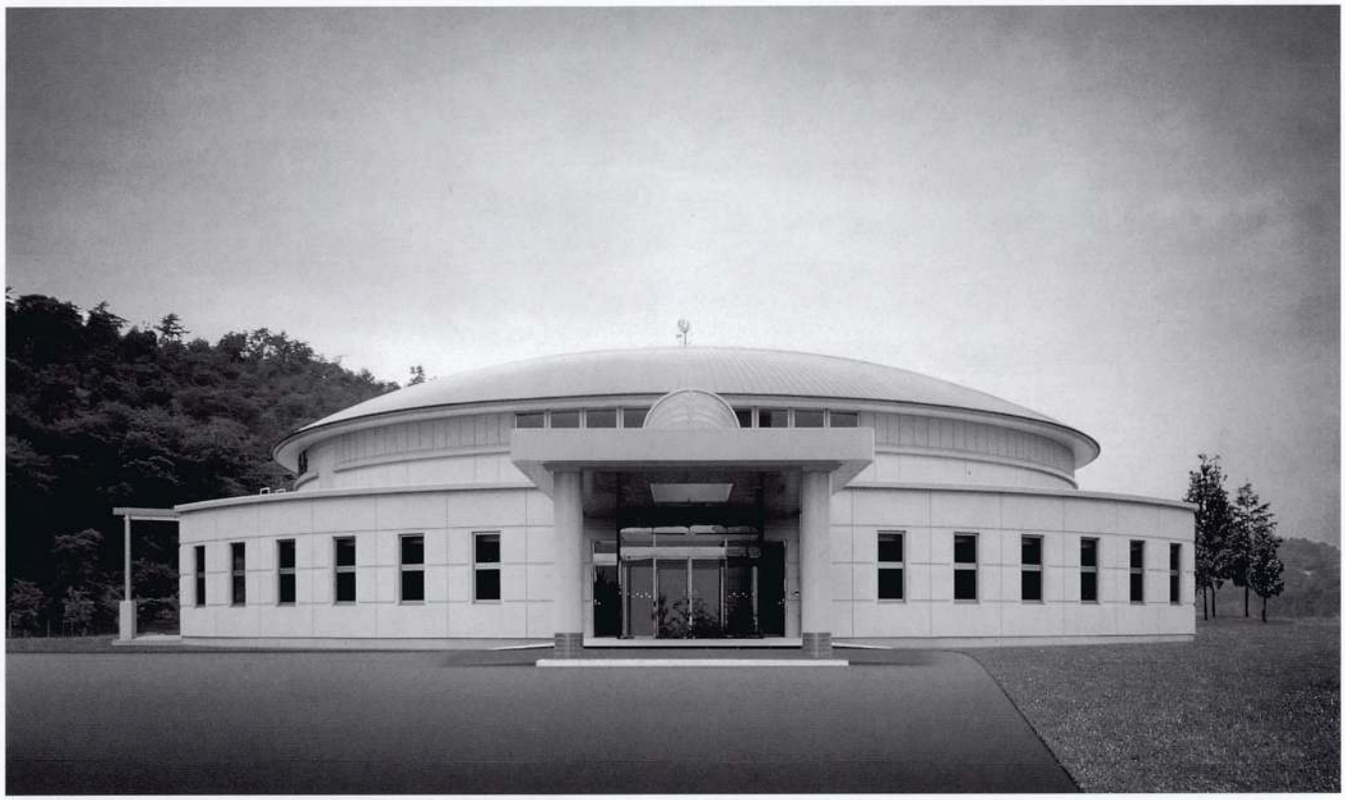
サブアプローチ

所 在 地　京都府相楽郡笠置町
施　　工　中尾組
敷地面積　540.00㎡
建築面積　243.36㎡
延床面積　272.09㎡
構造規模　RC、2F
竣　　工　1995年３月
撮　　影　永峰克文（SS大阪）

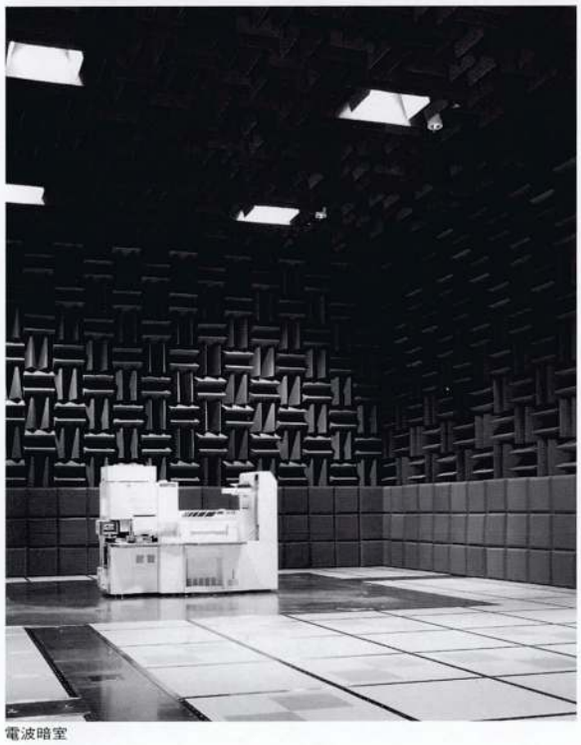
ノーリツ鋼機(株)EMCセンター

電磁波をシールドするドーム屋根

島崎清秀　鴻池組大阪本店一級建築士事務所



正面外観



電波暗室

和歌山市の北に位置するノーリツ鋼機(株)の製品の電磁波試験施設です。既設工場群と将来の工場用地に挟まれたところに位置し、ほぼ当敷地の中心部にあたる。

建物構成は、電波暗室（8ｍＨ×13.5ｍＷ×23ｍＤ）、シールドルーム、計測室を中心に、そのまわりに被検査体の一時置場、会議室等を配置するものです。

形態はその配置、機能からもシンボリックなものが求められ、「電磁波の放射、拡散」をイメージの源泉に、同心円状の平面計画としてドーム屋根とともに、所要室をその形態の中に封じ込めた（電磁波を封じ込めるがごとく）。

円形平面によって、外壁の大きな目地割りと共にヒューマンなスケール感を生むことになった。（島崎清秀）

所在地	和歌山市梅原字馬居谷580-2他
施工	鴻池組大阪本店
敷地面積	630,563.22㎡
建築面積	1,583.87㎡
延床面積	1,822.28㎡
構造規模	RC、2F
竣工	1997年６月
撮影	ノーリツ鋼機(株)

大阪芸術大学・浪速短期大学附属 照ヶ丘幼稚園

端正な中に楽しさを演出

楫山　歩　大成建設一級建築士事務所

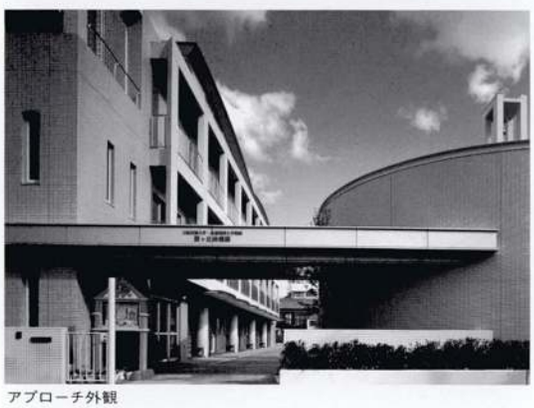


グリッド状バルコニーとヴォールト屋根

この建物は、塚本学院、大阪芸術大学・浪速短期大学の４つある附属幼稚園の一つであり、浪速短大矢田校舎に隣接し、近鉄南大阪線高架のすぐ目前に建っている。

線路に面して規則的に並らぶグリッド状のバルコニーとアプローチ横のR壁、連続するヴォールト屋根のやわらかな表現との対比により、一般的な幼稚園に見られる「かわいらしさ」だけを表したのではなく、幼児教育に歴史をもつ短大の附属幼稚園としての「品位」とを併せもつデザインを意図した。

内部においても直線と曲線、矩形と円形を各所に用いて、アイボリーをベースとしたうえで、カラフルなアクセントカラーを使ったカラースキームとともに、端正な中に楽しさを演出している。　（楫山　歩）



アプローチ外観



3階講堂ホワイエ

所 在 地　大阪市東住吉区矢田2-18
施　　工　大成建設大阪支店
敷地面積　1,489.74㎡
建築面積　610.87㎡
延床面積　1,570.60㎡
構造規模　RC、3F、小屋組、S
竣　　工　1997年２月
撮　　影　野口　章（伸和）

医療法人社団 葵会 八本松病院

清潔で潤いのある内部空間

山田 保 山田保建築設計事務所



1階待合ホールからロビーを見る



北側正面外観

病院は、他の建築物に比べると、機能的要求が膨大で複雑である。病院の変化は、機能面、経営面だけでなく、建築計画の面でも様々と変わって来ている。こうした病院を取りまく環境変化の中で、真に患者の立場に立った病院とは何かを求められる時代だと思う。しかも選別の時代を迎えた病院にとって、今ほど厳しい変革の時代はなかったように思う。これからの病院は、真の機能的平面と魅力的な空間を持ち合わせた施設、即ち患者の為の病院という原点に立ち戻ることが必要である。本病院では、開放的で、明るく、健康的な機能と空間デザインが調和した建物となるよう考えた。

吹抜のある広く豊かな空間の待合ホールを中心に受付、診察室、放射線室、階段室、EV等を周囲に配し、ホールに立てばひと目で全体構成がわかるようになっている。

色彩は、淡いピンク系を基調にしたパステルカラーで構成され、丸柱、手摺、電話ボックス等にアクセントカラーのグリーンを使用している。ホール、廊下廻りにはあちこちに絵を飾るなどして、ギャラリー的要素を取り入れて、訪れる患者に心なごむ空間を提供した。また、病院の意識レベルが一番はっきり出る病室部分は清潔さと居住性を考慮し、あらゆる面で空間としての質の向上を図っている。色彩は階毎にテーマカラーを設定し（ブルー系、ベージュ系、ピンク系）病室廻りをさわやかな色彩で心なごむ雰囲気作りをめざした。また、病室のサイン関係にも各種の花をあしらうとか、病床毎に絵を飾る等して、室内インテリアとしてトータルに考え、うるおいのある空間を演出した。 （山田 保）

所 在 地 広島県東広島市八本松東3-305-3外
施 工 熊谷組広島支店
敷地面積 4,795.55㎡
建築面積 2,079.81㎡
延床面積 8,008.97㎡
構造規模 RC、5F、P2F
竣 工 1997年1月
撮 影 井尻雅之（宇和写真広島）

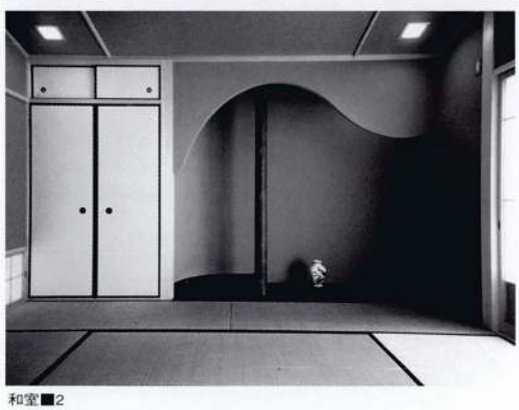
逆瀬台の家

倉形の外観と職人の技

上谷重男　U建築企画室



階段上部みる■1



和室■2



外観■3

今回の震災で影響を受け、建替えの為の住宅。遠くに兜山を遠望出来るこの住宅地域も今回の震災の為、建替えられている多くの建物は、メーカーあり、プレハブありといった形で、以前より町並は貧しくなってしまった。

このような状況の中、町倉型の外観と現代の職人の業を表現する事に重点を置いた。

■1　この建築の中心性をもたらす為の６ｍの杉の大黒柱と梁の木組は（力強さと美しさ）を表現し、集う家族の目を楽しませる（心安まる気持ちよい空間）づくりを目指した。

■2　柿渋和紙貼の緩やかな曲面天井、床の間の曲面壁と室内側の壁面は一体化する事で柔らかな空間を創り出す事が出来た。床の間の地板は施主が長年愛用していた茶ぶ台の天板のカリンを転用し、記憶の継続を計った。

■3　二つの切妻屋根と玄関切妻庇、そして外壁を突刺すかのような鉄骨フレームで構成する外観は震災前までこの周辺に残っていた旧集落の（倉）をイメージした。

（上谷重男）

所 在 地　宝塚市逆瀬台4-2-4
施　　工　泰建工務
敷地面積　169.73㎡
建築面積　 78.23㎡
延床面積　129.72㎡
構造規模　W、2F
竣　　工　1996年10月
撮　　影　上谷重男

津田邸

シンプルな形態の高齢者住宅

芝吹千昭　フリーハンドCo.



正面外観



1階玄関ホール

30坪という狭小な敷地の周辺は、古い街並みを残しつつ、新旧の住宅が混在し、無秩序に入れ替わろうとしている。その中にあって、長年住んだ家を、60歳代後半から90歳代前半までの4人で住む、高齢者住宅として、建て替えることになった。

今までの家への不満から、明るく・涼しく・便利である、“終のすみか”となる家を！　というのが要望条件である。この“終のすみか”には、「ここで余生を送りたい」という人生としての意味あいと、「納得できる、これが最後のすまい」という建物としての意味あいが込められている。しかし、人生と建物とでは、“終”に至るまでの時間には、大きな巾があり、その時間差が空間的にも社会的にも変化を求めてくるものであろう。

そこで、内部に関しては、各階共フレキシブルな空間（ワンルーム）を提供し、外部に関しては、混沌となりつつある街並みにシンプルな形態を投入し、なおかつ、古い街並みとの整合性を大切にしてみた。尚、クライアントにとっては、いつまでも“終のすみか”であり続けて欲しいと希望している。　（芝吹千昭）

所在地　岡山市奉還町4-4-6
施　工　中央工業
敷地面積　101.75㎡
建築面積　77.00㎡
延床面積　172.28㎡
構造規模　S、3F
竣　工　1997年4月
撮　影　峰谷秀人

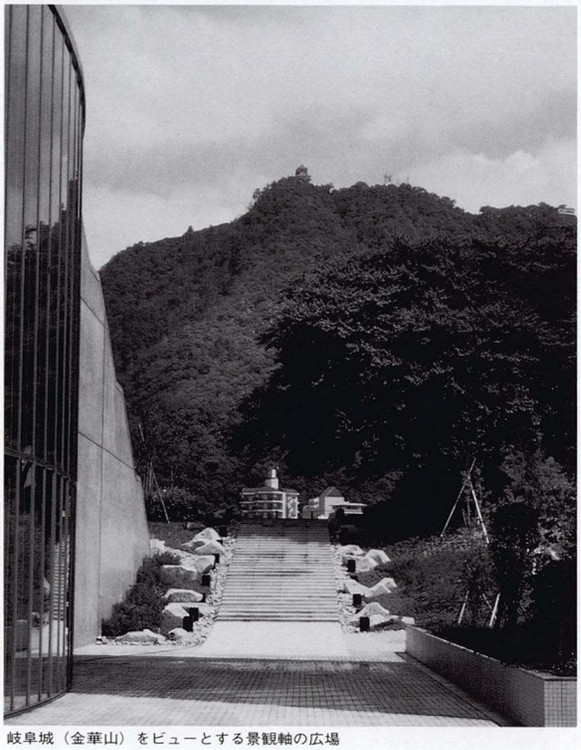
新長良川 流石の庭

流石でつくるダイナミックな景観

長谷川弘直　ランドスケープアーキテクト／都市環境計画研究所



建築ホールの屋上階段と連続する石舞台と流石の広場



岐阜城（金華山）をビューとする景観軸の広場

鵜飼いで有名な岐阜市の長良川に近接する国際コンベンションホールとホテルを含む公園計画及びランドスケープデザインである。

ここでは、３つの視点で空間デザインを試みた。ひとつは、ホールとホテルを配置する場合、岐阜のシンボルである金華山の岐阜城を景観ビスターとして空間領域を守る。次に、地場の原石を使い、長良川の景観との連続性をもたせる。さらに、コンベンションホールとの一体的な空間融合で、日常・非日常の人々の交流を空間機能として有機的に絡ぐ。

空間デザインは、長良川に沿って新たな長良川玉石による枯山水の流石をダイナミックに連続させ、ホールと一体化した恵那の御影石による石舞台の広場を設けた。ホテルの前庭は起伏に豊んだ四季の草花によるみどりの丘で、骨太と繊細が対比するランドスケープデザインとした。

ここは世界にメッセージする岐阜の新都心構想から様々な都市・建築・景観への挑戦が行われている。

（長谷川弘直）

所在地　岐阜市長良福光地内
発注者　岐阜市
施　工　苅谷工務店・岐阜造園
　　サンウッド・名鉄造園
全体面積　29,000㎡
公園面積　9,000㎡
竣　工　1995年９月
撮　影　長谷川弘直・秋山博章

学校法人 大下学園 祇園高等学校

居心地の良いコミュニケーションスペース

沖本弘至 スペースデザイナー／広島デザインハウス
福屋：装工課



コミュニケーションデッキ――室内用上ばきで使用



学食スペースーデッキと隣接――体空間として計画

いまどきの女子高校はいかにあるべきか。

少子化社会現象に伴う学園も多分にもれず、学校経営上、困難な時代が確実にやってくることから、他校との差別化、特質化を何に求めるべきか、学校サイドのリニューアル委員会発足と同時に生徒意識調査、教職員の意見集約等を行い、学校長、教頭と計画段階から同席しリニューアルの基本コンセプトを確定した。

経営サイドの視点は、新入生募集の拡大につながる事を期待すると同時に、地域社会とのひらかれた学園として発展させる必要からも、教育の問題をコミュニケーションする場としても活用していただける空間づくりが大切であると考え、計画に着手した。

当初は小規模計画であったが、会を重ねるに従い、校門からのアプローチ、中庭全体の計画へと発展、インテリアからエクステリアまで規模は拡大していった。

基本企画設計の担当者として、今後学園が発展される経過を、見守っていきたいと思う。 （沖本弘至）

所 在 地　広島市安佐南区祇園
施　　工　福屋：装工課
インテリア　230㎡（学食スペース）
エクステリア　3,000㎡（外部エクステリア）
竣　　工　1997年8月
撮　　影　沖本弘至

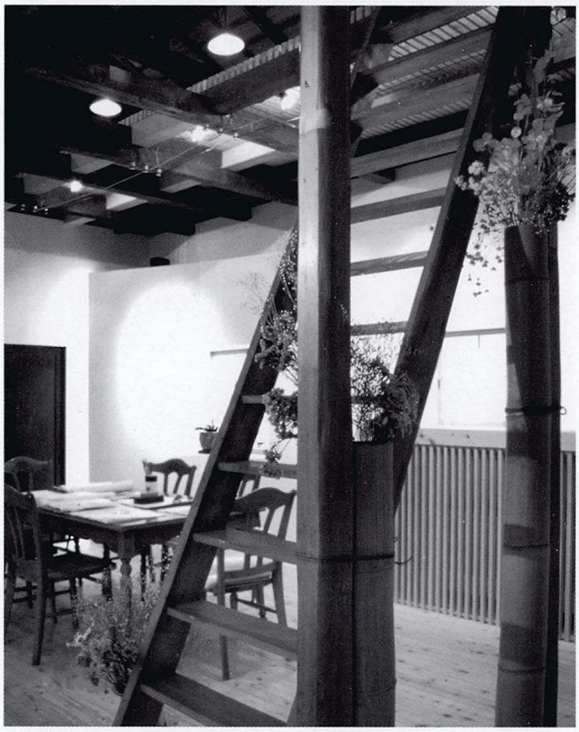
ギャラリーホワイエ甲子園（甲子園の土蔵）

震災を機に改装されたギャラリー

塚口明洋　塚口明洋建築研究所



道路よりギャラリー入口を見る



ギャラリー・フリースペース

敷地は、JR甲子園口駅から歩いて５分程の距離にあり、閑静な佇まいを見せる住宅地の一角に位置する。丸井邸は昭和初期に建てられた土蔵と離れをもつ和風建築で、周りにもいくつかの和風建築が建っていた。

『1995年１月17日』『阪神大震災』

建物は崩壊し、丸井邸もその例外ではなかった。家は傾き、壁は崩れ落ち、塀は道路に雍倒されていた。

数カ月後、周囲の建物のほとんどが取り壊されていった中で、丸井氏は自邸を修復したいという考えの方が強かった。ただ修復するだけではなく、その中に新しい発想を盛り込んで、建物を蘇らそうという考えで、土蔵とそれに続く離れを改装しギャラリーとして再利用する計画となった。

ギャラリーは既存の建物をできる限り生かし、そこにあるものをできる限り利用すると言う事を基本とし計画を始めた。

また小屋裏の床を一部取ることで縦への広がりをもたらし、小屋組・柱・梁と、その建物が持つ本来の力強さを見せた。　（塚口明洋、安田達也）

所 在 地　西宮市甲子園口2-13
施　　工　昭和工務店
建築面積　116.55㎡
延床面積　170.74㎡
構造規模　W、2F
竣　　工　1997年３月

京料理 いそべ—ライトスケープ—

京名所の夜に華を創る

村上幸三郎　村上デザイン事務所



石段から店前を望む

“いそべ”は京都の景勝地・円山公園内の東寄りに在る料亭である。店舗の全面改修に際し、新たに外構および周辺部に照明設備を設置し、周辺一帯に夜景を創出させた。

円山公園は巧みに林泉庭石が配置された廻遊式庭園で、四季の行楽地として市民や観光客に親しまれている。とくに有名な枝垂桜があり春には夜桜見物で賑わう。しかし、普段の夜は一般的な公園照明設備が寂しく点灯されているにすぎず、“いそべ”周辺も深い樹木の陰に包まれてしまっていた。

道路から続く石段に配した低い灯で客を店前にと導く。座敷からの眺めを大切にと、店前の庭園部は四季折々の風情を映すよう樹々の演出性を高め、緋色の野立傘と床几の毛氈を印象的となるよう強調した照明計画である。

店前方は坂本龍馬と中岡慎太郎の銅像があり、篤志により併せてライトアップすることができ、公園のアイポイントとなった。　（村上幸三郎）



店前部の照明演出



坂本龍馬と中岡慎太郎の銅像のライトアップ

所在地　京都市東山区円山公園内
企　画　シー・エム・エー
ﾗﾝﾃｨﾝｸﾞ ﾃﾞｻﾞｲﾝ　村上幸三郎、玉井久則、赤田かをり、村上はるみ
電気工事　鳳電気土木
竣　工　1996年９月
撮　影　村上幸三郎



2626

2626　新神戸アパートメント

設　計：長谷川逸子・建築計画工房
施　工：鹿島建設
a．兵庫県神戸市中央区熊内町4-12-4
b．1,739.72㎡
c．738.80㎡
d．10,254.86㎡
e．SRC、B1F、14F、P2F
f．平成7年6月～平成9年2月

都市の集合住宅は、投資の対象であったり仮住まいである時代を終わりにし、都市生活を真から楽しむ人たちのものにならなければならない。都市はビルディングが建ち並ぶ空間ではなく、人々がいきいきと生活している空間にしなければならない。都市生活者と都市性と同時に自然な快適性を、グローバリティとローカリティを、先端感覚とロング・デュレを、パーティ好きだがプライベートな生活も大切という、そうしたコスモポリタンに住みたいと思われる集合住宅をここに立ち上げたいと考えた。そのためにプランに定住者を考える家族の新しいタイプを導入し、生活の変化にも応じられるフレキシビリティのある構造、自然素材の導入、そして耐震構造、井戸の掘削、オール電化、備蓄庫をつくることなど安全性と耐久性もトータルに追求した。



2627

2627　三木町文化交流プラザ

設　計：教育施設研究所大阪事務所
施　工：フジタ・熊谷組共同企業体
a．香川県木田郡三木町大字鹿伏360番地
b．11,981㎡
c．4,968㎡
d．7,354㎡
e．SRC、4F
f．平成7年8月～平成9年3月

三木町文化交流プラザは、町民の文化交流の拠点として整備された施設である。この施設は、時間の積み重ねと共に存在する外部空間、明るく開放的な内部空間の構成を計画の基本とし、概要は本格的な舞台装置を備えた800席のメタホール、床の昇降機能を持ち、多目的利用を可能としたハイビジョンシアターの小ホール、多様のメディアを閲覧できる情報資料室、その他各種の会議室という構成になっている。
これら各室は、エントランスから連続的に広がるイベントホールと称する大きなトップライトのある開放的な空間によって、手向的にも視覚的にも繋がれている。このイベントホールは、施設の各用途を有機的に繋げると共に、利用者の交流の促す契機となるよう期待している。



2628



2629

2628 **上ヶ原中学校災害復旧改築工事**

設　計：三座建築事務所
施　工：新井組
a．西宮市上ヶ原九番町68番地他
b．25,721.36㎡
c．　2,033.90㎡
d．　6,337.19㎡
e．RC、4F
f．平成8年1月～平成9年3月

2629 **京都市立西陣中央小学校**

設　計：京都市都市住宅局営繕部営繕課
施　工：藤井・太平共同企業体
a．京都市上京区大宮通今出川上る観世町135-1
b．7,340　㎡
c．3,304.56㎡
d．8,738.52㎡
e．RC、4F他
f．平成7年10月～平成9年3月



2630



2631

2630 **ジオ豊中緑ヶ丘**

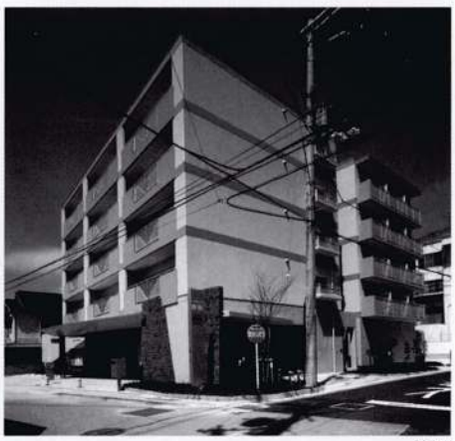
設　計：基本設計：阪急エンジニアリング
　　実施設計：大林組・村本建設共同企業体
施　工：大林組・村本建設共同企業体
a．大阪府豊中市少路2丁目54-7
b．4,871.57㎡
c．1,755.12㎡
d．9,747.68㎡
e．RC、10F
f．平成8年1月～平成9年3月

2631 **大阪府立富田林養護学校**

設　計：大阪府、創造社関西支社
施　工：（建築）ハンシン・鍛治田建設共同企業体、川谷建設、北野工房
a．大阪府富田林市大字甘南備216番地
b．30,368.27㎡
c．　6,751.47㎡
d．　9,484.58㎡
e．RC、2F
f．平成7年10月～平成9年3月



2632



2633

2632 **来島海峡海上交通センター局舎**

設　計：海上保安庁灯台部電波標識課
施　工：松村組四国営業所
a．愛媛県今治市湊町2丁目庚28-10
b．2,170　㎡
c．　643.43㎡
d．1,631.78㎡
e．RC、1～3F、S、4～14F
f．平成7年9月～平成9年3月

2633 **小野上本町郵便局・小野上本町郵政宿舎**

設　計：近畿郵政局施設部
施　工：中林建設
a．兵庫県小野市上本町238-11
b．1,121.16㎡
c．　364.30㎡
d．1,458.39㎡
e．RC、5F
f．平成8年3月～平成9年3月

凡例

a．所在地

b．敷地面積

c．建築面積

d．延床面積

e．構造規模

f．工期

「建築と社会」誌

特集一覧● 1977~1997

大正6年3月に誕生した日本建築協会（当時・関西建築協会）の、機関誌は大正6年9月に「関西建築協会雑誌」と題して創刊された。大正8年に「日本建築協会雑誌」、さらに1年後には「建築と社会」と改題し、今日に至っている。昭和42年からは体裁をA4変形判に変え、特集と作品作風頁を二本柱に、シリーズものの頁を織り込み、その時々の社会を反映したテーマを選んで掲載してきた。

取り上げてきた特集テーマは下記のとおりで、バックナンバー購入希望は、日本建築協会事務局（TEL 06-348-0635、FAX 06-348-0634）まで。

販売価格は1200円（送料・消費税含）。

なお、「建築と社会」創刊号~昭和30年12月号まで全87巻の復刻版が、1991年10月から順次発行（不二出版）・配本されているので、詳細は日本建築協会事務局へお問い合わせ願いたい。

号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1977 Vol. 58	●デザインの動向ー部分と全体＊	●兵庫県ーその風土と建築・建築界	●日本建築協会60周年記念号 ●ニュータウンの管理	●コンクリートの品質管理と行政指導の方向	●日影規制と法＊	●身障者施設＊	●照明設備＊	●埋立地における構造問題ー大阪南港と芦屋浜を例として	●日本住宅公団と建築作品	●ミニ乱開発から計画的ミニ開発へ＊	●建築における省エネルギー化	●第24回青年技術者＊
1978 Vol. 59	●デザインの動向ー新旧のコントラスト	●水＊	●医療施設ー病院建築と情報システム	●外壁塗装材料＊	●電波障害と建築＊	●組合方式による集合住宅計画	●住宅設備	●新しい耐震設計	●CAD—設計とコンピュータ	●一般号＊	●第25回青年技術者＊	●ビル環境
1979 Vol. 60	●転換期の再開発＊	●大阪南港ポートタウン	●商業空間	●コンクリートのひびわれ	●日影規制＊	●ホテル建築と情報システム	●農村施設の変貌＊	●建築の終局強度の検討＊	●庄内のまちづくり＊	●80年代のインテリア＊	●第26回青年技術者＊	●建設業の労務事情＊
1980 Vol. 61	●80年代の都市と建築ーまちづくりの歴史と展望＊	●今後の省エネルギーの趨勢 ●建設金物＊	●最近の銀行建築 ●安井建築設計事務所作品集＊	●住宅の耐久性＊	●建築行政と法規＊	●最近の防水工法＊	●都市景観とアメニティ＊	●屋内体育施設の設備＊	●水ぎわのまちづくり	●今後の外装吹付仕上材＊	●第27回青年技術者 ●転機にたつマンション集合住宅＊	●これからの建築設計と新耐震設計法＊
1981 Vol. 62	●職能論＊	●中国の論文ー北京の都市計画＊	●ポートピア'81＊	●台所まわりの計画と設備＊	●シーリング材の知識＊	●災害と法ー安全な環境をめざして＊	●都市住宅ー住まい手からの発想＊	●建築物と風ーデザイナーのために ●日建設計作品集＊	●住宅・都市整備公団ー関西における都市整備を中心とした新公団の役割＊	●間仕切壁の性能評価＊	●第28回青年技術者＊	●障害者の暮らしやすい環境と設備
1982 Vol. 63	●新たな商業空間の展開＊	●省エネルギーと開口部＊	●医療施設ー地域医療と設備計画＊	●近畿の地盤と地質＊	●都市景観ーまちなみ美観への誘い＊	●大阪市庁舎（第一期）＊	●ホール建築と音＊	●大スパン構造＊	●昭和設計作品集＊	●絵本にみるすまいとまちづくり ●オー・エム・ホテル 日航ビル	●第29回青年技術者 ●地方の庁舎建築＊	●風土・空気と人間＊
1983 Vol. 64	●関西の建築文化を考える	●マイコンの建築への利用	●多様化する運動施設＊	●建築と品質管理	●計画におけるコミュニケーションとプレゼンテーション	●大阪駅とターミナルビル	●維持管理と設備更新	●東海の将来と文化を考える	●オフィス・インテリアの変革	●プレストレスト・鉄筋・コンクリート構造	●第30回青年技術者 ●大阪城国際文化スポーツホール＊	●集合住宅と生活音
1984 Vol. 65	●21世紀への関西ー魅力あるまちづくりを問う	●関西の超高層ビル	●ビルのリフレッシュー内外装補修技術の現状と発展ー	●建設産業とロボット開発	●住環境と法制度	●まちの活性化と商業空間 ●京都駅南口再開発ビル＊	●消防設備のポイント	●みどりとそれをとりまく人々	●高齢化社会と生活空間	●床の構工法	●第31回青年技術者 ●ディテールの思想	●光応用システムと建築
1985 Vol. 66	●大阪湾物語＊	●東海の現在と近未来	●自由様式への道ー建築家安井武雄 ●建築物の基礎を考える	●情報化をめぐる建築・都市事情	●ホールーそれが生みだす文化ー	●建物の表情ー最近の外壁材料	●大阪国際見本市新会場	●建築と水の演出 ●神戸研究学園都市	●都市と健康・スポーツ	●接合ー人体と建築にみるー ●日建設計作品	●村野藤吾のー断章 ●伊勢湾をめぐる東海	●第32回青年技術者
1986 Vol. 67	●これからの住空間ー都市型集合住宅にみる	●屋根ーそのデザインと素材	●現代デザインーポストモダニズム10年 ●これからの防水工法	●インテリジェントビルの建築・設備計画	●自治体営繕と公共建築	●建築防災と法 ●大阪市庁舎（第2期）	●21世紀の住宅と設備	●開発ーその創造的仕掛けの鍵をもとめてー ●ツイン21	●CAD—その応用と展開	●オフィス空間の構成	●第33回青年技術者	●インテリア・イクステンションとリニューアル
1987 Vol. 68	●入浴物語	●腐食	●創立70周年記念号	●躍動する東海へ	●貯蔵・保管施設 ●大阪府立体育会館	●室内の仕上床	●駅	●行政建築家の可能性	●シティホテルの設備	●宝塚の街づくり	●建物と町並みの接点 ●昭和設計作品集	●第34回青年技術者
1988 Vol. 69	●ホテル物語	●軟弱地盤と基礎 ●文化と伝統ー東海からの報告	●設備におけるLCCとリフレッシュ ●東畑建築事務所作品集	●建物の外装リフレッシュ＊	●都心居住	●中国地方の展望とひろしまのまちなみ	●21世紀への照明	●制振	●超高層住宅を考える	●集合住宅のリフレッシュ＊ ●大阪府営繕	●第35回青年技術者 ●800号記念＊	●讀賣テレビ
1989 Vol. 70	●夢をのせる輸送設備	●リゾート事情 ●竹中工務店創立90周年記念	●色の復権 ●東海の新建築と伝統技術＊	●省力化のための材料・工法	●まちづくりと法	●博覧会とまちづくり	●都市環境創造と設備Ⅰ	●建築とアート	●構造の省力化 ●鹿島建設大阪支店建築設計部作品集	●都市環境創造と設備Ⅱ ●ユーザー参加のハウジング	●第36回青年技術者	●最近の博覧会パビリオン
1990 Vol. 71	●商品化住宅のデザイン＊	●ニュータウン・ルネサンス	●東海の都市景観 ●佐賀市文化会館	●スケール感	●プレハブ住宅技術の現在と未来	●国際花と緑の博覧会	●建築家のための設備知識ー中規模オフィスビルによるケーススタディー	●高強度化ー設計の多様化をめざしてー＊	●やわらかな住宅管理・ユーザーの役割	●都市のナイス・プレイス ●兵庫県営繕の歩み	●第37回青年技術者 ●和歌山県の展望と景観＊	●高級感ー建物の顔：感性の時代を迎えての外装材
1991 Vol. 72	●新しい都市空間づくりーⅠー	●オフィス・プレジャー ●新しい都市空間づくりーⅡー ●建築の風景	●東海支部復活30周年記念	●大阪東京海上ビルディング	●今、京都 ●建築家のための設備知識ー複合商業ビルによるケーススタディー	●建築と土木 ●毎日放送本社ビル ●近畿地方建設局営繕部	●一般号	●建築をめぐるトラブルとその解決 ●建設現場のイメージアップ作戦	●空間のアイデンティティ ●さんでん写真集 ●大建設計40周年	●自治体住宅政策への提言 ●大林組創業100年記念	●建築と土木ー構造技術の世界ー ●第38回青年技術者	●スリムでタフなコンクリート ●21世紀の住まいを考えるシンポジウム
1992 Vol. 73	●夢物語ー人がかわる、まちがかわるー	●こだわりのインテリア ●近畿の郵政建築15年の歩み	●建築とデザインー東海支部ー	●建築家のための設備知識ー集合高層住宅の設備システムー	●地球環境時代の建築	●街創り、住まい創りー住宅・都市整備公団関西支社10周年ー	●木構造を使ってみませんかー集成材による構造ー	●接着ー建築分野への限りなき可能性	●中国地方の町並みと建築家の「語り、夢、作品」	●屋台ー仮設の魅力に学ぶー ●ハウジングのメインストリームを探る	●いま建築教育に何が期待されているか	●京のかたちと色
1993 Vol. 74	●第39回青年技術者 ●東畑建築事務所創立60周年記念作品集	●大阪府営繕	●東海の美術館・博物館	●市民劇場の舞台設備	●環境ー限りある自然と建築とのかかわり	●都市のスカイライン	●映画の中のインテリア ●けいはんなプラザ・住友ホール	●建築の再生ー構造技術の役割ー ●大阪市営繕	●国際的パートナーシップの可能性	●福祉のまちづくり	●都市型住宅再考	●第40回青年技術者 ●環境ー人にやさしい空間創造をめざして
1994 Vol. 75	●コピー文化の新時代 ●広島の街創りアジア競技大会	●九州のインスタレーションと観	●伊勢・神宮式年遷宮と神宮界隈	●建築のエネルギーシステム	●明日に向かってー会員作品	●いま、医療施設は	●住空間における居どころへの視点	●まちなかの看板 ●竹中工務店の集合住宅	●水と建築 ●日本建築総合試験所	●建築設備のCGシミュレーション ●村野、森建築事務所	●構造美ー建築の中の美 ●集合住宅団地リニューアル	●第41回青年技術者 ●関西国際空港
1995 Vol. 76	●光がつくる風合の世界＊	●音ー騒音から操音／創音へ	●飛騨・美濃ーまちの活性化と地方文化	●トイレから見た都市文化	●トイレ空間	●接合 ●コスモタワー	●ユニバーサルデザインとは	●私の空間作法ー会員作品	●新しい「都市・建築」の視点	●建築構造と社会の接点 ●日建設計	●ライフラインと建築設備	●第42回青年技術者 ●滋賀県建築課
1996 Vol. 77	●阪神大震災から学ぶ＊	●大阪府住宅供給公社設立30周年記念	●遠江ーその地域振興と文化	●立体駐車場設備 ●大建設計	●災害！非常時に生きる法体系 ●OAPタワーズ	●いま、プールがおもしろい	●住まいの未来像	●マルチメディアがつくる世界	●キーコンセプトの新時代	●最新の大規模スポーツ競技施設の設備	●私の空間作法'96 ●九州の元気 ●りんくうの3作品	●第43回青年技術者 ●近畿地建営繕部
1997 Vol. 78	●建築のロングライフ化をめざして＊	●鉄ものがたり＊	●東海ー風土・文化とまちなみ、建築	●創立80周年記念ー建築と私と社会ー	●木造建築物の伝統技術とその将来	●住む空間の復興ー法・制度の延長と新たな展開へー ●住都公団関西支社	●素材の不思議 ●大阪ドーム	●新エネルギー ●住宅・都市整備公団改革への提言	●クロスワード都市OSAKA	●モザイク都市の住むかたち ●昭和設計40周年		

＊は次号

神戸市の直結増圧給水基準

山下一司
神戸市水道局総務部業務課

経緯

神戸市では、建築基準法の一部改正に合わせて、昭和62年11月より新設の小規模3階建て建築物への直結給水を実施した。

その後、対象建物・規模を段階的に広げ、平成4年4月からは水圧等の条件が整えば5階建てまで直結給水が実施できることとした。

また、平成5年度より6階建て以上の建物や水圧が十分ない区域での直結給水のため、ブースターポンプを直結して加圧する直結増圧給水方式について、ポンプ運転時の配水管への影響、配水管側の水圧変動及び蛇口側の使用変動に対する追随性、ポンプシステムの信頼性、逆流防止対策等、実用化での問題点について、検証実験を含め調査・研究を行ってきたところ、実用化の目処がついたため、平成9年4月1日より直結増圧給水方式を採用することとした。

直結増圧給水施行基準の主な内容

(1) 対象地域と対象建物

全給水区域で、建物の規模・業種・新設既設の別にかかわらず使用圧力が7.6kgf/㎠ (0.75MPa) 以下の増圧給水装置で給水できる建物を対象とする。

ただし、一時に多量の水を使用する建築物、病院のように事故時等の断水時にも給水の持続を必要とする建築物など、受水タンク式とすることが望ましい建築物は対象外とする。

(2) 給水方式

給水方式
- 直結給水方式
  - 直結直圧給水方式
  - 直結増圧給水方式
- 高置タンク直結直圧給水方式
- 高置タンク直結増圧給水方式
- 受水タンク給水方式

給水方式は、全館直結増圧給水方式を原則とする。ただし、給水管が老朽化した既設建物等は高置タンク直結増圧給水方式とすることができる。また、1～5階が直結直圧給水できるものについては併用も認める。

(3) 増圧給水装置

増圧給水装置に使用する直結加圧型ポンプユニットは、管理者指定品とし、建物1棟に対し原則として1ポンプユニットとする。

(4) 逆流防止装置

ポンプユニット上流側に減圧式逆流防止器を設置すること。また、点検・取り替え時に断水することができない建築物についてはバイパスを設置すること。

(5) 給水装置の設計

①調査・協議

設計着手前に施行基準に定める事項及び『直結増圧給水装置協議書兼確認書』の調査事項について、事前調査及び現地調査を十分に行い、水道局と協議しその確認を得ること。

②設計水量

1日当たりの使用水量は、「神戸市給水装置施行基準」に定める算定方法によることとする。増圧給水装置までの給水主管は同時使用水量を設計水量とし、給水栓の所要水量、使用頻度、同時使用率を考慮して算定する。また集合住宅の場合、増圧給水装置下流の設計水量は、優良住宅部品認定基準により算定する。

③給水主管口径及びメータ口径

配水管から分岐する給水管の最大口径は1サイズ小さなものとする。新たに給水管を分岐する場合は、止水栓まで25㎜を最小口径とし、給水主管口径、メータ口径、増圧給水装置下流給水管口径は、それぞれ上流側の口径を上回らないこと。

④設計水圧

配水管年間最小動水圧(*P*)	設計水圧
2.5kgf/㎠(0.25MPa)未満	*P*—0.5kgf/㎠(0.05MPa)
2.5kgf/㎠(0.25MPa)以上	2.0kgf/㎠(0.20MPa)
3.0kgf/㎠(0.29MPa)以上	2.5kgf/㎠(0.25MPa)
3.5kgf/㎠(0.34MPa)以上	3.0kgf/㎠(0.29MPa)

(6) 施工

①配管

直結増圧給水方式により各階へ給水する配管は、立ち上がり配管を原則とし、各立ち上がり配管の基部にはバルブを取り付けること。また、末端には空気弁の取り付けを考慮すること。

②増圧給水装置及び逆流防止装置

ポンプ等の設置場所は、原則として、1階または地階部分の屋内とし、設置後も維持管理ができるよう、必要なスペースが確保できる場所とすること。

逆流防止装置は、浸水の恐れがなく、定期点検・保守作業に支障のないように設置すること。また、逃がし弁からの排水が目視できる方法で排水処理を行うこと。

(7) 維持管理

増圧給水装置及び逆流防止装置は、年1回必ず点検整備すること。また、ポンプ故障時に備え、外部警報盤を管理人室等に設置するとともに、管理業者と維持管理契約を結ぶなどし、緊急時の対応をはかること。なお、ポンプ故障時の緊急時に備え、連絡先を記入した標示板をポンプ室及び管理人室等に設置し、使用者にも十分周知できるようにすること。

既設建物の直結促進

新設建物の直結化については問題は少ないが、既設建物の直結化は改造工事や住民間の意見調整が必要であり、その進捗は緩やかである。既設建物の直結化を進めるため、助成金の適用・融資制度の適用等による改造工事費用の負担軽減、親メータの廃止・既設給水設備の使用範囲拡大等直結化しやすい施行基準への変更、直結切り替えの訪問勧奨と無料見積もり、市民・工事関係者・受水槽管理者等へのPRを行っている。

おわりに

直結増圧給水方式は、管理面で問題の多い小規模受水槽の解消、安全で良質な水の供給を目的としており、受水槽を経由せず蛇口まで給水できることから、おおいに普及するものと考えている。

神戸市においても、配水システムの再編による直結直圧給水可能区域の拡大を図るとともに、関係機関への直結増圧給水の説明会の開催、PR等を行い、その普及促進に努めていきたい。

(やました　かずし)

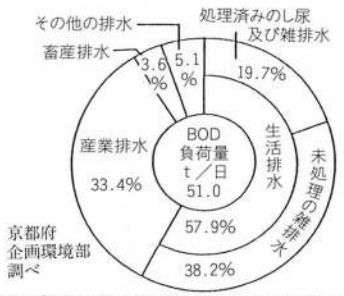
合併処理浄化槽の設置推進—京都府と大阪府—

浜野幸雄 京都府土木建築部建築指導課
松井博一 大阪府建築部建築指導課

浄化槽の構造基準は、昭和55年建設省告示第1292号で定められており、単独処理（屎尿のみの処理）と合併処理（屎尿と雑排水の処理）が規定されている。

近年、国民の環境問題に対する認識が高まり、公共用水域の水質環境の保全のための努力が様々にされるようになってきたが、浄化槽についても、各家庭からの排水についての関心の高まりや高性能な小型合併処理浄化槽の開発・普及もあり、合併処理浄化槽が普及してきている。

公共用水域の水質汚濁の要因の６割が生活排水によるものであり、家庭から排出される汚濁物質は、BOD（生物化学的酸素要求量）で一人１日あたり約40ｇといわれている。これを合併処理により90%除去すると放流水のBODは４ｇになるのに対し、単独処理では32ｇ、くみ取り便所の場合は27ｇと計算されるが、ここに合併処理浄化槽の設置の推進が政策課題となる理由がある。



BOD負荷量の発生源別割合（平成６年度）

家庭別汚濁物質の放流量

区　分	１人１日あたり総排出量 A	除去される汚濁物質の量 B	除去率 B/A	放流される汚濁物質の量
合併処理槽の家庭	40ｇ	36ｇ	90%	4ｇ
単独処理槽の家庭	屎　尿 13ｇ 雑排水 27ｇ	8ｇ	20%	32ｇ
汲み取便所の家庭		13ｇ	32%	27ｇ

京都府

昭和50年代の初めころから、家庭用の浄化槽（当時は単独処理）の普及に伴って、各地域において様々な衛生上の問題が発生し、浄化槽の設置に対する規制の強化、維持管理の適正化に対する行政指導が要請されるようになったが、地域によって都市化や便所の水洗化の状況、浄化槽や下水道の普及率、地域の関係者の意識などに違いがあるため、取り扱いもそれぞれの地域により差異があり、統一した取り扱いが求められる状況にあった。

京都府では、平成４年度に浄化槽法担当部局と建築基準法担当部局が一体となった浄化槽事務取扱要領検討会を設置し、各種調査や検討を行って、平成７年２月に「京都府浄化槽の設置等に関する要綱」が制定され、同年４月１日から施行されることになった。（京都市域を除く。また、放流水の水質基準に関する規定は、６ヵ月の猶予期間を置き、同年10月１日から施行された）

要綱施行以降、関係機関や関係業界などの協力により、要綱の趣旨が周知されてきており、合併処理浄化槽の設置率が飛躍的に上昇している。

合併浄化槽新設率：平成７年度55.9%、平成８年度97.0%

京都府浄化槽の設置等に関する要綱の概要

(1) 合併処理浄化槽の設置推進

公共用水域の水質汚濁原因の大半が生活排水であり、また、下水道普及率の伸びが年１%程度であることから、公共用水域の水質改善を大幅に推進するためには、下水道等の整備が及ばない地域や整備に時間を要する地域について合併処理浄化槽を推進することとした。具体的には、補助事業の基準等を考慮し、要綱中に次のとおり放流水質基準を規定し、事実上単独浄化槽の抑制を図った。

要綱第５条；設置する浄化槽は、通常の使用状態において、浄化槽からの放流水のBODが20mg/ℓ（日間平均値）以下の性能を有するものとする。

(2) 適正な維持管理の推進

合併処理浄化槽を設置しても、維持管理がなおざりでは効果は上がらないわけで、浄化槽設置届（建築確認申請）の添付書類として「指定検査機関が発行する浄化槽法７条検査実施承諾書」を位置づけることにより、まず７条検査の受検率の向上を図った。

要綱第７条、別表第２（略）

なお、昭和63年の厚生、建設両省の通知に基づき、それまで一部地域で行われていた浄化槽の設置手続き時における放流同意書の添付は求めないこととした。

(3) 人員算定、過疎特例

処理対象人員の算定は、日本工業規格「建築物の用途別による屎尿浄化槽の処理対象人員算定基準（JIS A 3302-1988）」によるが、過疎地域の特例、農業集落排水事業等の特例、開発区域内の特例を設けた。

要綱第４条、別表第１（略）

過疎特例は、過疎地域活性化特別措置法及び市町村過疎地域振興対策補助金交付要綱（昭和55年京都府告示第478号）に規定する過疎地域等については、実人員が５人未満の場合、JISの人員算定基準にかかわらず５人槽とすることができるとした規定であるが、過疎地域の市町村や町村会の強い要望を反映させたものである。

＜過疎地域の一覧＞

●法指定：笠置町、京北町、美山町、日吉町、瑞穂町、和知町、三和町、夜久野町、大江町、伊根町、丹後町、久美浜町

●要綱指定：福知山市（雲原など７地区）、舞鶴市（東大浦など７地区）、綾部市（吉美など１１地区）、宮津市（栗田など８地区）、亀岡市（宮前など４地区）、加茂町（当尾、瓶原）、和束町（湯船、東和束）、南山城村（高山）、園部町（摩気、西本梅、川辺）、八木町（神吉、新庄）、丹波町（竹野）、加悦町（与謝）、野田川町（岩屋）、峰山町（峰山、五箇）、大宮町（五十河、常吉、三重）、網野町（郷、木津）、弥栄町（野間、等楽寺）

(4) 要綱の運用

要綱の運用については、平成９年度当初に環境、建築両部局による「要綱の運用等に関する検討会」を発足させ、各土木事務所及び保健所に提起される諸問題の事務処理の調整を図ることとしたところである。

合併処理浄化槽に対する助成制度

(1) 厚生省要綱に基づく補助

市町村が設置される合併浄化槽に対する補助制度を実施した場合に、国、府が補助する制度で、昭和62年度から実施されている。

補助の考え方としては、合併処理と単独処理の浄化槽の差額について国、府県及び市町村がそれぞれ分担して補助するというものであり、放流水質20mg/ℓ以下の基準を満たすことが求められる。

（下水道等の事業認可区域は対象外）

(2) 住宅金融公庫の割増融資

合併処理浄化槽設置推進の施策が都道府県の住宅マスタープランで位置づけられ、住宅金融公庫から地域指定を受けた場合に、「合併処理浄化槽設置住宅割増融資」(50万円)が受けられるが、京都府は平成9年度からこの制度が適用されることになった。(補助制度を持つ市町村の区域に限られる)

<補助制度を持つ市町村>
京都市、福知山市、宇治市、舞鶴市、綾部市、城陽市、亀岡市、宇治田原町、和束町、笠置町、南山城村、京北町、美山町、園部町、八木町、丹波町、瑞穂町、日吉町、和知町、三和町、夜久野町、大江町、野田川町、伊根町、峰山町、大宮町、網野町、丹後町、久美浜町
(平成9年度29市町村／44市町村)

今後の課題

合併処理浄化槽の設置推進の取り組みは、まだ緒についたばかりで、浄化槽のストックに占める合併処理の比率はまだ1割強であり、ストック比率の向上のための課題は多い。

合併処理浄化槽設置推進の啓発、補助制度の充実・活用、法定検査受検率の向上、浄化槽の設置基準や人員算定など技術基準の適切な運用、無届けなどに対する措置など、法令及び要綱の適切な運用のための行政努力が求められる。

要綱の運用にあたっては、何よりも、水環境の保全をいかに推進するか、また、地元関係者の理解がいかに進むかの視点が大切であり、画一的な運用でなく、市町村及び地域の実情を踏まえた柔軟な対応が必要となろう。また、そうした対応について関係業界の理解と協力を得る努力が必要である。今後とも、関係各位のいっそうのご協力をお願いする次第である。　(はまの　ゆきお)

大阪府

平成4年2月に、2001年に大阪府下の下水道普及率をおおむね90%にすることを目標とした「21COSMOS計画」が策定された。平成7年3月には、この目標年次に合わせて、河川などの公共水域の水質改善を図り快適な環境を創造するため、生活排水の適正処理100%達成を目標とした「大阪府生活排水処理計画」が策定された。

現在、大阪府域における河川などの公共水域における水質汚濁の原因は、その約8割を生活排水が占めており、そのうち約6割を生活雑排水が占めるに至っている。「大阪府生活排水処理計画」の目標年次の2001年においても、約10%にあたる地域については、生活排水の処理をコミニティプラントや浄化槽に委ねることになり、浄化槽による生活雑排水の処理が強く望まれているところである。

2001年に向け、生活排水の適正処理100%を推進するため、平成9年7月に浄化槽の排水基準等を定めた「大阪府浄化槽指導要綱」を改訂し、平成9年10月1日より施行した。

大阪府浄化槽指導要綱

本要綱は、大阪府域に設置される浄化槽に関して必要事項を定め、公衆衛生の向上、生活環境の保全及び公共用水域等の水質汚濁防止に寄与することを目的として、昭和52年11月に制定され、過去3回の改訂を経て現在に至っている。過去の改訂は、構造基準の改正等に伴い改訂してきたところであるが、今回の改訂は、水環境の保全という目的のために改訂したものである。

本要綱は、設置される浄化槽の水質等についての基準、検査等についての基準、浄化槽管理者の遵守事項等について規定したものであり、この要綱を受けて「大阪府浄化槽取扱指針」として、大阪府浄化槽設計・施工取扱基準、大阪府浄化槽事務処理要領等が別に定められている。

改訂内容

(1) 浄化槽の水質基準の見直し

①「府域に設置する浄化槽は原則として、放流水の日間平均BODが1リットルにつき20ミリグラム以下の性能を有する合併浄化槽」とした。

建築基準法上の水質基準は、大阪府全域が施行令第32条で定めるところの「特定行政庁が衛生上特に支障があると認めて規則で指定する区域」に該当し、設置する浄化槽の性能は、BOD値が処理対象人員50人以下が90mg/ℓ以下、51人～500人が60mg/ℓ以下、501人以上が30mg/ℓ以下となっているが、旧要綱でも人槽及び放流先により、51人～500人槽の浄化槽について、30mg/ℓまたは20mg/ℓ以下の放流水質を指導してきたところである。

しかしながら、前述した背景にあるとおり、生活雑排水が水質汚濁原因の多くを占めていることから、50人槽以下の浄化槽についても雑排水を併せて処理する合併浄化槽の設置を指導する必要があると考え、今回要綱を改訂し、府域に設置するすべての浄化槽についても合併浄化槽とし、その性能についてはBOD値を20mg/ℓ以下とした。

②「窒素及びその化合物並びに燐及びその化合物に係る削減指導要綱」の規定を遵守することとした。

平成8年9月4日付けで同要綱が制定されたことに伴い、処理対象人員201人以上で、1日あたりの排水量が30立方メートル以上の浄化槽については同要綱が適用され、窒素及び燐が規制を受けることになる。

(2) 補助対象浄化槽についての項目を追加

「合併処理浄化槽設置整備事業における国庫補助指針」が厚生省より示され、平成5年度事業から適用されることになったことに伴い、補助対象となる浄化槽については同指針によることを明記した。

今後の課題

生活水準の向上及び生活様式の多様化に伴い、家庭からの排水量や汚濁負荷量が多くなっている現在、河川や海などの自浄作用だけではもはや対応できなくなっている現状からすると、規制緩和の声が高まっている昨今ではあるが、生活環境の保全という大きな目的のため、要綱による水質等の指導も必要なことであると考える。

将来、生活環境、水質汚濁等に対する府民の意識が高まり、自然と共生することの大切さを認識し、合併浄化槽の設置が一般化すれば、要綱による指導も必要なくなるであろうと考える。

(まつい　ひろかず)

海外の耐震改修の動向

益尾　潔
(財)日本建築総合試験所構造部長、工学博士

日本建築総合試験所では、既存建物の耐震補強の際に生じる問題点、特に住みながら、使いながらの補強工事の実施に伴う問題点の打開の糸口を見いだすことを意図し、調査団を結成してサンフランシスコおよびメキシコシティにおける耐震改修の現状を調査した。この調査結果は機関誌「GBRC」87[1]、88号[2]で報告している。ここでは、米国の免震および制震工法による耐震改修事例を紹介する。

免震工法による耐震改修

免震工法を装置の種類別に分類すると、積層ゴムアイソレータとFPS（Friction Pendulum Isolation System：摩擦振り子型免震装置）を用いた工法がある。前者は、耐震改修のみならず新築免震への適用例も多いが、FPSの適用例はまだ少ない。FPSはEPS社（Earthquake Protection System, Inc.）の商品名であり、振り子作用を応用した免震装置である。積層ゴムアイソレータには、NRB（天然ゴム系積層ゴム支承）、LRB（鉛プラグ入り積層ゴム支承）、HDR（高減衰積層ゴム支承）の3種類がある。これらはそれぞれの設計条件に応じて使い分けられている。

免震改修は歴史的建築物への適用が多く、その数例を紹介する。

■積層ゴムアイソレータを用いた免震改修事例

(1) San Francisco City Hall（サンフランシスコ市庁舎）



写真1　San Francisco City Hall



写真2　積層ゴムの設置状況—免震層の直上に面内補強用床スラブが新設されている。

・階数／地上4階(一部8階)、地下1階、建物高さ90m
・延床面積47,800m²
建築面積11,350m²
・建設年／1915年(1906年のサンフランシスコ地震で倒壊した旧市庁舎の再建)
・構造種別／架構S造、床RC造
外壁；無補強組積造
内壁；中空粘土質タイルまたはRC壁にセメントプラスター仕上げ
・構造形式／無補強組積造（鉄骨部分は耐震には寄与しない）
・基礎形式／直接独立基礎

●地震被害の状況　ロマプリータ地震（1989年）で被害。被害は内外壁およびコンクリートスラブに集中。低層部鉄骨は無被害。ドーム部分で一部鉄骨が座屈。

●耐震改修　基礎部に免震部材を設置、上部構造も鉄骨トラスおよびRC壁で耐震補強が行われている。免震装置は、530個のLRBと62個のテフロン滑り支承からなり、最下階の柱および外周壁下に設置される（**写真1**、**2**）。

工期／1994年～1998年

工事費／総工事費$105 Million（約120億円）

(2) Oakland City Hall（オークランド市庁舎）

●地震被害の状況　ロマプリータ地震で時計塔の鉄骨フレームや外壁部分などに大きな被害。

●耐震改修　高さ約100mのオークランド市庁舎は、現在でも、世界で最も高い免震建物である（**写真3**、**4**）。上部構造は、基壇から高



写真3　Oakland City Hall

・階数／地上19階、建物高さ99m
・延床面積14,200m²
建築面積1,250m²
・建設年／1914年
・構造種別／架構S造、床RC造壁；無補強組積造
・構造形式／無補強組積造（鉄骨部分は耐震には寄与しない）
・基礎形式／マットスラブ基礎

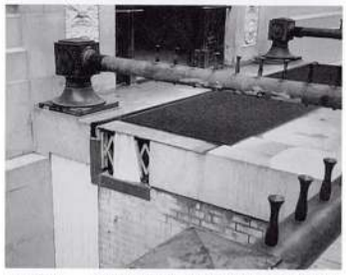


写真4　通用口まわりの取り合い状況——可動クリアランス部分(Seismic Gap)は鉄板で覆われ、側面に蛇腹が取り付けられている。

層タワーにかけてRC耐震壁の増設、高層タワーから時計台の鉄骨ブレース、セットバックして鉛直力を伝達するための既設トランスファートラスの耐震補強が行われている。

免震装置は、柱および外周壁の既存地下部分に設置され、柱1本に1～4個、合計113個が配置されている。うち36個が鉛プラグ入りのLRB、77個がNRBである。タワーの転倒モーメントによって積層ゴムに引き抜きが生じないように、

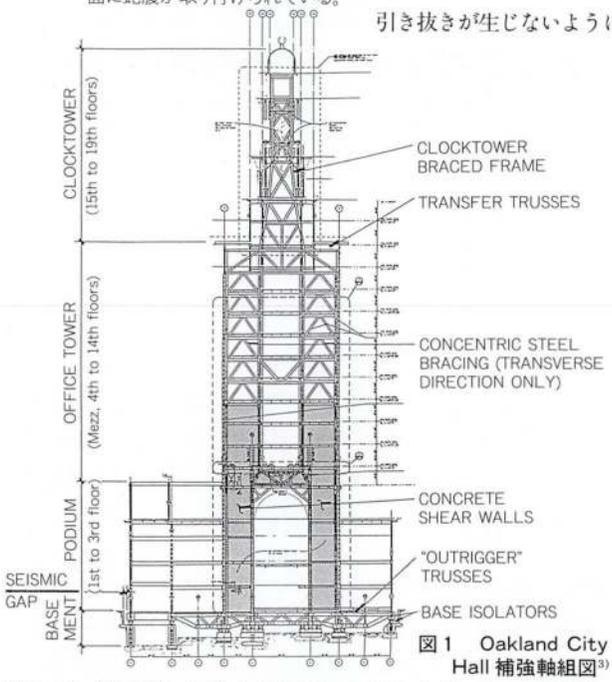


図1　Oakland City Hall 補強軸組図[3]

積層ゴムと柱の間に巨大なSRC造のアウトリガートラスを新設して、転倒に対する抵抗スパンを大きくしている（**図1**[3]）。免震層直上の1階床は鉄骨水平ブレースによって補強されている。

工期／1991年～1995年

工事費／総工事費$82 Million（約94億円）

うち免震工事費$14 Million（約16億円）

■ FPSを用いた免震改修事例

(1) U. S. Court of Appeals（米国連邦高等裁判所）

●地震被害の状況　外壁御影石のひび割れ、大理石の腰板の脱落お



写真5　U. S. Court of Appeals

・階数／地上4階建
建物高さ24.4m
・延床面積32500m²
建築面積8060m²
・建物重量54400ton
・建設年／1905年建設（当初はU形平面）、1932年増築（中央にアトリウムを持つ矩形平面となる）
・構造種別／鉄骨造＋無補強組積造（外壁は花崗岩）
・構造形式／ラーメン構造
・基礎形式／直接基礎（1933年増築部は杭基礎）

よびひび割れ、中空クレイタイル壁の大きなひび割れほか。

●耐震改修　本建物は、歴史的に貴重な建物である（**写真5**）が、ロマプリエータ地震により被害を受け、その後閉鎖されていた。

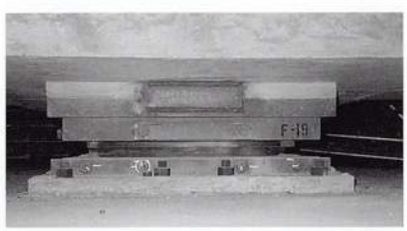
耐震補強としては、建物の免震化以外に耐震壁の増設や新設した地階床スラブにダイアフラムの役割を持たせたり、アトリウムのための剛節フレームの新設などを行った。また、地下階のS造梁・柱をRCで被覆したり、免震装置の下につなぎ梁を設置した。上部躯体は、地震時にほぼ弾性域に収まるような補強になっている。

免震装置の方式としてはLRB、HDR、FPSの3タイプの検討が行われ、サイズ（装置高さが低い：**写真6**、**図2**[4]）、コストからFPSの採用となった。ちなみにFPSなら240万ドル、LRBなら680万ドルの費用となる。コスト差の生じる最大の理由は、装置高さの差であり、LRBを組み込んでかつ必要な天井高さを確保するためには、杭頭をはつる必要が生じ、手間が増え、工期が延びるためである。

FPSの設置数は256個であり、その許容水平変位は350㎜で設計値に対して30%の余裕がある。FPSに引張軸力が生じると免震装置として働かなくなるが、この建物では、引張軸力は生じない。

工期／全体工期約3年（免震部材の設置　1993年8月～1994年2月）
工事費／総工事費$83 million（約100億円）、
　　耐震補強工事費$24.4 million（約30億円）、
　　うち免震部材費$2.8 million（約3.4億円）

写真6　FPSの設置状況



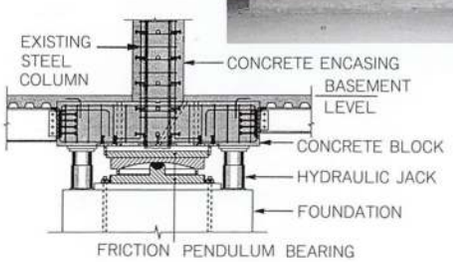


図2
U. S. Court of Appealsにおける FPSの取り付け状況[4]

制震工法による耐震改修

■粘弾性ダンパーを用いた制震

(1) County of Santa Clara Government Center（サンタクララ郡庁舎）

外部は4mスパン、内部は8mスパンの建物であり（**写真7**）、内部にはローパーティションが多く、壁が少ない。固有周期はX方向2.1秒、Y方向2.5秒、ねじれ2.2秒と近接しており、相互に影響しあって複雑な振動特性を有している。

●地震被害の状況　ロマプリエータ地震のとき、構造躯体には被害は生じなかったが、揺れが大きかった（地震動が0.1Gであったのに、建物の揺れは0.16～0.36Gに達した）。



写真7　County of Santa Clara Government Center

・階数／地上12階、地下1階
・建設年／1970年
・構造種別／鉄骨造
・構造形式／ラーメン構造

●耐震改修　補強前には、非構造部材等による減衰がほとんどない建物であった。そのため、本建物では、構造体の強度向上のための補強というよりも、揺れの低減を目的とし、かつ、建物の機能性に影響を与えないように、建物外周部に粘弾性ダンパーブレースを取り付け、建物に減衰性を付加した（**写真8**、**9**）。本数は1層あたり8本（2本ずつ4面）で、全階で96本である。

補強工事は、業務を続けながら進めた。



写真8　粘弾性ダンパーを用いた制震ブレースの取り付け状況



写真9　仕上げカバーを取り外した粘弾性ダンパー部の状況

工期／9カ月
工事費／耐震補強工事費2万ドル（約230万円）／1フレーム
　　全体で300万ドル（約3.5億円）程度。

あとがき

日本、米国といった地震国では、この15～20年間に耐震設計法は、過去の地震被害の教訓をベースに、終局強度設計法や地震応答解析による耐震設計法の開発とともに実験検証を重ね、飛躍的に進展したといえよう。その一方、それ以前に建設された建物は耐震性能が不足し、大きな地震被害が生じる恐れがあることも明らかとなった。

特に昭和56年以前に建設され、耐震性能が不足した建物の耐震改修は、地震の際の被害を防止し、生命、財産ならびに社会資産の維持のためには、避けて通れない問題である。この問題の解決策としては、現在ある技術的知見を踏まえて、技術的な課題を一つずつ着実に解決するしかないと考えられる。

参考文献

1）共同住宅耐震性向上調査団：既存建物の耐震改修・海外技術報告―メキシコシティにおける耐震改修の現状―、GBRC, No.87, pp.13-36, 1997.7
2）共同住宅耐震性向上調査団：既存建物の耐震改修・海外技術報告―サンフランシスコにおける耐震改修の現状―、GBRC, No.88, pp.2-21, 1997.10
3）W. Honeck, M. Walters：Use of Steel in the Seismic Retrofit of Historic Oakland City Hall, Steel Tips, pp.1-11, Dec. 1994
4）A. S. Mokha, Na. Amin, Mi. C.Constantinou, V. Zayas：Seismic Isolation Retrofit of Large Historic Building, Journal of Structural Engineering, pp.298-308, 1996.3

（ますお　きよし）

光触媒を応用した照明器具

岡田　茂
東芝ライテック㈱企画部企画担当課長

光触媒の原理

光触媒の中で最も効率がよいのは、酸化チタン光触媒である。

酸化チタン光触媒がその有効性を発揮するためには近紫外線〈波長が400ナノメートル（nm：10億分の1メートル）以下〉が必要である。近紫外線は、太陽光、蛍光ランプや電球などの光にわずかに含まれている。代表的な光源について、**表1**にその割合を示す。近紫外線のエネルギーでたたき出された電子と、そのぬけ殻である正孔（ホール）が、空気中の酸素や水分と反応して酸化・還元反応を起こし、表面についた有機物を二酸化炭素と水に分解する。この酸化反応を熱エネルギーにすれば、約3万℃にも相当するといわれるほど強力なものである。この反応は酸化チタン光触媒膜の表面で起こるため、膜表面に近紫外線が効率よく照射される必要がある。

光触媒の用い方

酸化チタン光触媒には、酸化チタンの結晶から成る粉体や、粉体を固めたもの、粉体を混ぜたり、練りこんだもの（塗料、セメント、繊維や紙など）、粉体を液中に分散させた液剤をコーティングして非常に薄い透明な膜にしたものがあり、用途に応じて使いわける。さらに基材として塗料、繊維、紙、プラスチックといった有機物を使用する場合は、これらの基材を分解・劣化させない工夫が、酸化チタンや基材表面に施されている。

照明器具に応用するほとんどの場合は、光の損失を少なくするため透明な薄膜状にする。

照明器具に応用される効果

光触媒技術を照明器具で実用化したのは、"汚れ分解"効果を応用したトンネル照明器具（平成8年）が早い。汚れやすい環境であることと、メンテナンスの軽減効果が期待できることが実用化を促した理由である。**図1**に示す通り、光触媒膜を利用しない照明器具に比べ、汚れの影響をほぼ半減できるとのデータがある。無機物は分解できないため、汚れの分解にも限界がある。トンネル内の汚れも、そのほぼ半分は無機物で占められている。ただし、光触媒膜は、雨が当たる場所なら無機物も流れ落ちやすくする特長を持つ。

図2は、光触媒膜の汚れ防止効果を応用した街路灯の例である。汚れた照明器具が、街路の景観を損なうということも解消される。

室内環境の改善にも、光触媒の技術を活用できる可能性がある。省エネルギー化のために建築の高気密・高断熱化、換気量の削減がすすめられる中で、新建材などから放出されるホルムアルデヒドやVOC（Volatile organic compounds）が原因で起きる「シックハウス症候群」が問題となっているが、光触媒膜の強力な酸化作用は、このような成分を分解することも可能である。

図3は、ホルムアルデヒドが光触媒膜により分解される様子を示している。実験では、ホルムアルデヒドを注入した密閉箱の中で、反射面に光触媒膜を塗布した照明器具（蛍光ランプ20W、白色、3台）を点灯し、箱の中の濃度の変化を測定した。光触媒膜の分解効果で、箱の中の濃度は徐々に減少している。また、光触媒膜を表面にコーティングした蛍光ランプがある。このランプも点灯しておくことで、同様な分解効果が得られる。ただし、照明器具やランプの表面積だけの分解効果は、低濃度の汚染物質を時間をかけて分解・除去するのに適している。

光触媒膜の強力な酸化作用は、細菌にも有効な働きを示す。**図4**の例では、蛍光ランプ（20W、白色）の光をうけて、光触媒膜の表面に付着させた黄色ブドウ球菌の数（コロニー数）が、ほぼ1時間で光を照射する前の百分の一以下に減少している。このように、細菌が光触媒膜に付着し、さらに光触媒膜の作用に有効な光を照射することで、細菌による汚染を軽減することができる。

（おかだ　しげる）

表1　ランプからの紫外線量

ランプの種類	UV量（400nm以下）
白熱電球	0.3%
ハロゲン電球	0.3~0.5%
蛍光ランプ	0.5~0.7%
蛍光水銀ランプ	4%
メタルハライドランプ	1.5%
高圧ナトリウムランプ	0.1%
低圧ナトリウムランプ	0
太陽光（晴天時）	3~5%

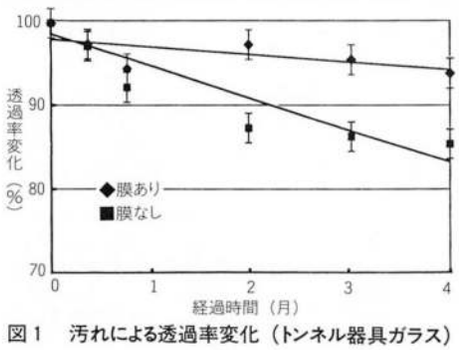


図1　汚れによる透過率変化（トンネル器具ガラス）



図2　光触媒膜を応用した街路灯

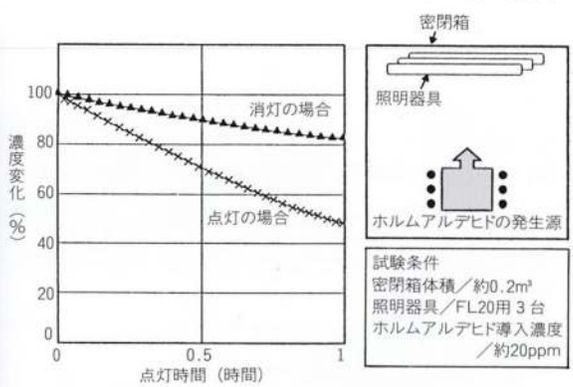


図3　ホルムアルデヒド類濃度の変化

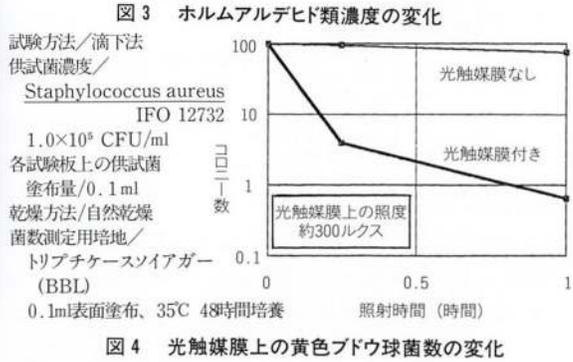


図4　光触媒膜上の黄色ブドウ球菌数の変化

GBRCニュース
GENERAL BUILDING RESEARCH CORPORATION OF JAPAN

財団法人 日本建築総合試験所
〒565 吹田市藤白台5-8-1
TEL.06-872-0391 FAX.06-872-0784
業務時間 9：00～17：15

平成8年度の工事用材料受託試験に関する調査—鉄筋の強度試験—

1．はじめに

当試験所の材料検査部門では、試験業務の一環として、年間に受託している工事用材料試験の結果を集計し、昭和56年度より当所発行の機関誌GBRCに毎年掲載している。平成8年度の集計がまとまったので、ここにその抜粋を述べる。

2．集計対象

集計の対象とした鉄筋は、下記の条件を満たす鉄筋コンクリート用異形棒鋼と同圧接材である。

（1）種類の記号がSD295AおよびSD345のもの
（2）呼び名がD10～D32のもの
（3）同一の種類と呼び名で圧接された圧接材

各試験片の内訳を図—1に示す。

3．集計結果

集計は、呼び名および種類の記号ごとに行った。本稿では、紙面の都合上下記に述べる項目にとどめ、その他の集計結果は割愛させていただく。

1）素材の引張試験

D13（SD295A）、D19（SD345）およびD22（SD345）について、降伏点、引張強さおよび伸び（破断位置Aのもの）の試験値の分布状況をヒストグラムで表し図—2に示した。

2）圧接材の引張試験

SD345の種類で圧接面破断した試験片の引張強さの分布状況をヒストグラムで表し図—3に示した。

4．まとめ

1）素材の引張試験

D13（SD295A）は全て規格値を満足していた。D19（SD345）およびD22（SD345）は降伏点の上限値を上回るものが前者で0.1%、後者で0.4%あったが、その他は全て規格値を満足していた。

今回掲載していない他の種類についても99%以上が規格値を満足していた。

2）圧接材の引張試験

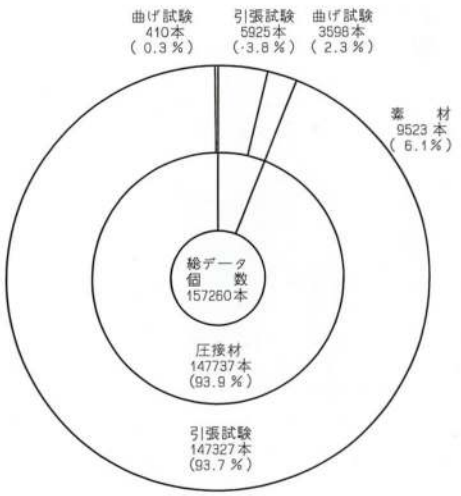
D16～D32を圧接した試験片の圧接面破断比率の最大値は、SD295Aで D25の1.8%、SD345で D32の1.5%であり、全体では0.4%であった。このうち、SD345の圧接面で破断した試験片の引張強さの分布について調べた結果、母材の引張強さの規格値を下回るものが30.7%であった。

圧接材の引張試験では、圧接面破断で引張強さが小さいものがあること、また母材破断するものでも、まれにクランプ傷位置で脆性的に破断するものがみられることから注意が望まれる。

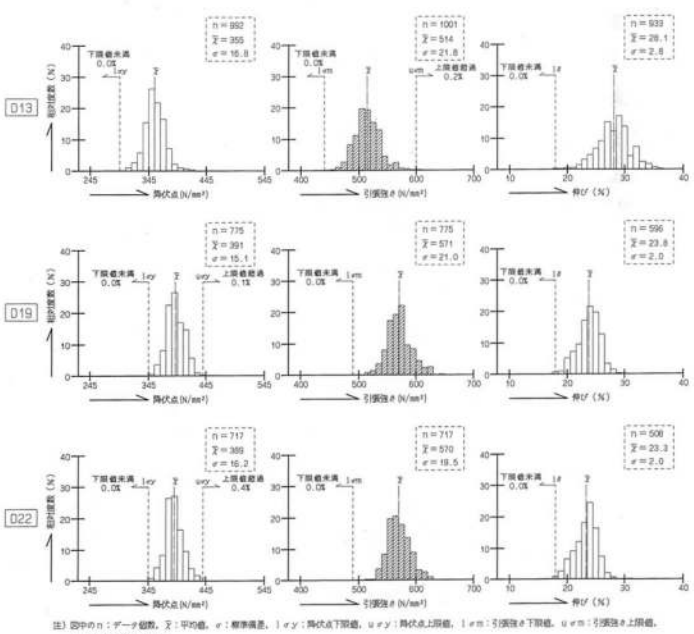
3）素材の曲げ試験および圧接材の曲げ試験

曲げ試験は今回データーを掲載していないが、素材については全て異常が見受けられなかった。圧接材はSD345のD19とD29で1本の圧接面破断（合格率97%以上）があったが、その他は全て異常が見受けられなかった。

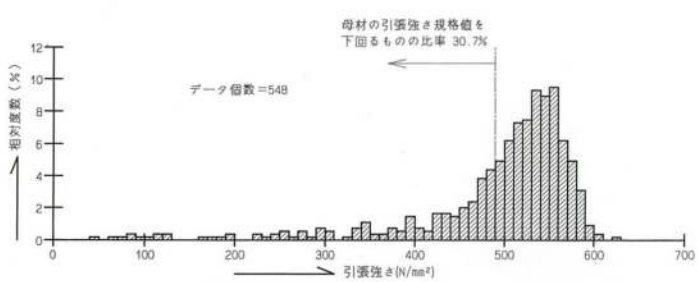
（詳細については当所発行のGBRC 87（1997．7発行）を参照されたい。



図—1　集計対象総データ個数および素材と圧接材の試験種別比率



図—2　D13、D19、D22の降伏点、引張強さおよび伸び（A破断）のヒストグラム



図—3　圧縮面破断の引張強さのヒストグラム（SD345）

実例その5・同窓会だよりに思う

山田　修
修　建築事務所

1）何とか特徴を出したい

同窓会の報告記事は紋きり型が多い．

そこには，新鮮さと活力がない．同窓会は過去をふり返る気楽な会だからか……．同窓会は，何十年間はなれていようとも一瞬に昔話が通じるところ，何十年間ごぶさたしていても一日で無礼が無礼でなくなるところ，である．これは良いところだ．良くないところは，未来に発展しないことだ．良くないからといって，誰も文句はいわない．

わたしは，同窓会だよりに何とか特徴を出したい，と考え，**写真**のような記事（今から6年前）を作った．この文章を作るまで5回清書をくり返した．推敲は15回におよぶ．その過程を簡記する．



伊丹小学校
卒業五十周年記念同窓会
（昭和十六年春卒業）

懐しさ、嬉しさにどよめく……

卒業五十周年を機に、恩師四人と大路・高見・芝田・上田（同窓生百三十四名が、平成三年十一月三十日㈯伊丹第一ホテルに集った。半世紀をへて一同が初めて会するのだから、八クラス幹事の苦労は大きかった。

はじめに記念撮影をした。圧巻なり。第一部は型通りに進む。第二部はクラス競演懇親会に変転した。芝田・泰学級の演じる"大楠公の歌"紀元二千六百年奉祝歌（芝田先生みずから舞台の中央で熱唱）で、ときが一気に五十年前に戻った。"ときは歌なり"というところ。

原田学級は、昔の伊丹小学校を軸とした力作のスライド上映である。Y君の説明が豊かだった。村上学級の満州国国歌斉唱と当時の児童日記の朗読で、客囲気は頂点に達した。さながら往時の学芸会の再現である。ぶっつけ本番で、よく演じたと感心する。

トリは、女性全員が舞台いっぱいになり、指揮者を出してもみじ・赤とんぼ"を斉唱した。どの演技も虚飾がない。あとは、出演者が続出し幹事をあわてさせた。そっとハンカチを目にしている人がいる。嬉しかったのだろう。懐かしかったのだろう。

さもありなん。「サイタ、サイタ、サクラガサイタ」「ススメ、ススメ、ヘイタイススメ」「キグチコヘイ、……シンデモ、ラッパヲクチカラハナシマセンデシタ」と忠君愛国の時代に学んだ少年少女だっただけに、平和な想いの一ときを喜んだ、と信じたい。それと生きてきた六十年の幸せをかみしめたい。

さいごはKさんの指揮で、校歌と行進曲を声高らかに歌った。指揮者の目が光っている。

閉会になっても会場はどよめき、人が動こうとしなかった。去り難しとは、このことか。

「なんで、もっと早くこんな同窓会を開いてくれなかったのだ！いい思い出を作ってくれてありがとう。うれしい……」と絶句したM君の声が、余韻として耳に残った。

（山田　修記）

写真　　いたみティ　1992．4　掲載（全体写真はカット）

原案は1500字だった．これでは与えられた1頁のスペースには納まらない．削りに削って780字とした．これを原案半分の750字とするには「それと生きてきた六十年の幸せをかみしめたい」は抹消する．次に削りとった部分を紹介する．

①メイン幹事の男性側のS君・女性側のNさんに対する謝意は「八クラス幹事の苦労は大きかった」に含めた．

②記念撮影のことを記したかったが「圧巻なり」で凝縮する．

③第一部は「紋きり型で面白くなかった」ので「型通りに進む」とした．

④第二部が山場である．文章の〔転〕に当たる部分だから特徴を出すべく，最小のことばで最大の表現を試みた．30年ぶりに訪日参加したOさん（アメリカ男性と結婚し在米）は，久しぶりに使う日本語で，詩吟を目をうるませながら熱演した．が，詳細を記すことができず「どの演技も虚飾がない」にまとめた．

⑤「サイタ」「キグチコヘイ」は，同窓会とは無縁な記事である．が，時代考証として入れた．カタカナの配分は目にさわやかに映ろう．

⑥「余韻として耳に残った」は「いつまでも耳に残った」と素直に記す方がよい．

⑦文章のなかほどの「ときは歌なり」は，校正の段階で挿入した．それは，記事の文頭に一文字だけとび出たからだ．白行の方が，段落がはっきりしてよかった，と思う．そのためには「戻→もど」と記すのがよい．一字の突出は「六十年の幸せをかみしめたい」でも出てくるが，これを使うとすれば「幸→しあわ」としたい．

表題は，文章を作ったあとで全体をふり返り「懐しさ，嬉しさにどよめく……」と決めた．字の配分はわたしの目ざす漢字とひら仮名の比率30：70にはなっていない．これは限られた誌面に最大限の書きたいことをつめ込んだので，わざと漢字を多く使ったためだ．

2）サイタとキグチコヘイの検証

「サイタ，サイタ，サクラガサイタ」は3・3・4・3とことばが反復して並ぶ，詩的な名文だ．わたしは，3＋3＋7の三三七拍子の手拍子を思い出した．手拍子はリズムとテンポをもつ．

この国語読本を開いたときは，親しみと心のときめく嬉しさ（小学1年生になった喜びとも重なる）を感じたものだ．だからこそ，50年も時が流れたのに，すらすらと口に出てきた．次の「ススメ，ススメ，ヘイタイススメ」も同じである．命令形の反復文章は名文で，命令は天皇陛下の命令となり，ヘイタイも進まずにはおれなかったのだろう．

キグチコヘイ物語は，わたしたちの育った軍国時代のあかしとして，ぜひ入れたかった．「シンデモ，ラッパヲクチカラハナシマセンデシタ」は，子供心に鮮明に覚えていた．

このことを数人の同窓生の集りで話すと，T君は「キグチホヘイ（歩兵）だ」といい，U君は「キグチコヘイ（小兵）だ」という．ついに「歩兵か小兵か」の話まで発展した．

さいごは「ヒロセ中佐・タチバナ中佐（日露戦争時，陸海軍の軍神として小学校の教科書・唱歌に登場した）というから，個人の姓名ではあるまい．陸軍を代表する兵種は歩兵だから，キグチホヘイだよ」となった．

コとホの一字ちがいだが，文章として公にするからには正確を期さねばならない．わたしは，I市の図書館と教育研究所を尋ねた．「戦後の教科書はあるか戦前のものはない」とのこと．そして市の博物館を訪れた．ここに保管されていた．市内のM氏が寄贈したものである．かびくさい小学修身1年の教科書上で，キグチコヘイを見つけたときは，パッと目の前に花が咲いたような嬉しさだった．

さらに図書館でキグチコヘイを辞典類で調べるが，出てこない．昭和8年～20年まで国定教科書に登場した超有名人が，抹消されていたのだ．不思議である．キグチコヘイを忘れかけていたとき，某書店で「ラッパ手の最後，西川広著，青木書店刊」を見つけた．購入して読んでみると，ラッパ手は二人いたのだ．一人は，木口小平であり，一人は白神源次郎である．

二人は日清戦争に広島第5師団歩兵21連隊より出征した．ラッパ手は，最初が白神（岡山県出身）だったが，途中から木口（広島県出身）に変わっていく．当時の激しい地元の有名人獲得争いのため巧に利用された，という．さらに「死んでもラッパを離さない，のはウソである……」と，いろんな検証をあげて記されている．まさに演出だった．

「死人に口なし」はほんとうである．わたしは，キグチコヘイ物語は，戦争美談用に演出したもの，と納得した次第．さらに個人的に考えた．シラガミ・ゲンジロウは4＋5＝9字，キグチ・コヘイは3＋3＝6字であるから，6字の方が音律的にも明快に耳に残る．二者択一とするならば「キグチコヘイが残る」と判断した．

同窓会の記事が，ここまで及ぶとは思わなかった．結果的に，いい文章の勉強をさせてもらった．断っておくが，わたしは軍国主義は，大きらいである．忠君愛国なんて聞きたくもない言葉は，時代考証の表現上つかっただけだ．

（やまだ　おさむ）

設計図書の種類と構成

出崎 進
出崎建築設備設計事務所

設計図書と仕様書については、本シリーズ「衛生設備編」ですでに説明されていますが、衛生設備と空気調和設備の違いがありますので、重複するとは思いますが、再び記述します。

設計図書とは

建設大臣指定建築設備士講習テキストでは、次のように記述しています。設計図書とは、工事発注の際に契約図書の一部として設計者の意図を正確、明りょうに表現したものです。また設計図書を分類しますと、仕様書と設計図書および現場説明事項、質疑応答書も加わることがあります。仕様書については共通仕様書と特記仕様書とがあります。特記仕様書については、図面と同じ様式で表現されて、設計図面の一部として扱われています。機器仕様についても、特記仕様書の中に表される場合と機器表として設計図面の中に表現される場合もあり、仕様書と設計図面の区別は必ずしも明確でない場合もあります。

建築設備共通仕様書

建築設備共通仕様書（「仕様書」として以降表現）とは、設計図面のみでは表現が困難な設計者の意図を文章などで表した指示図書で、一般的に、仕様書には次のような内容が含まれます。

1)工事の名称、場所、規模などの明示
2)使用機材の種別および規格
3)性能の規定および指示
4)工法の指示
5)試験・検査の指示
6)その他、図面では表現しにくい内容の指示

等で、これらをすべて網羅することは困難で、また必要でないものもあるので、それぞれの工事ごとに必要な内容を盛り込んだ仕様書を作成しなければなりません。これらの内容の中には、通常の工事においては共通的な事項が多いので、これら共通事項をまとめた共通仕様書（または「標準仕様書」ともいう）と、それぞれの工事ごとに作成される特記仕様の二つに分けて構成される場合が多いのです。

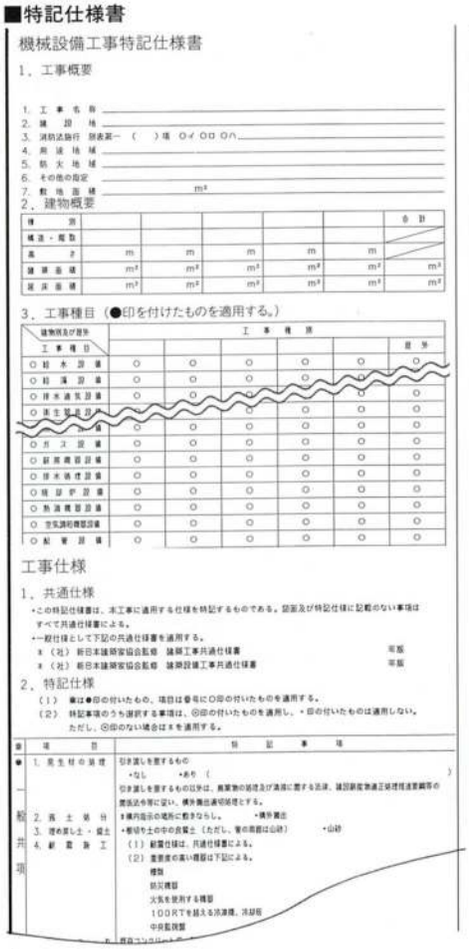
共通仕様書は、工事量の多い官公庁や学協会で作成されています。これらは各工事において共通に使用される機材・工法などを対象にして、あらかじめ標準的な規格、品質、試験法などの基準が定められています。この共通仕様書を適用することにより、各工事ごとに作成される特記仕様書を簡略化することができるとともに、同種の工事について、グレードの整った均等な品質の施工が出来上がるわけです。

特記仕様書は、各工事ごとにその工事について指示すべきことを盛り込んだもので、一般的に次のような内容が含まれています。

1)工事の名称、場所、工事範囲、工事区分
2)適用する共通仕様書の名称と適用範囲
3)共通仕様書の内容の変更事項
4)共通仕様書に記載されていない事項で、その工事に必要な事項
5)使用される機器、器具のメーカー名
6)凡例（図示記号）

（でさき すすむ）

■特記仕様書


機械設備工事特記仕様書

1．工事概要

1. 工事名称
2. 建設地
3. 消防法施行 別表第一（ ）項 ○イ ○○ ○ハ
4. 用途地域
5. 防火地域
6. その他の指定
7. 敷地面積 m²

2．建物概要

種別						合計
構造・階数						
高さ	m	m	m	m	m	
建築面積	m²	m²	m²	m²	m²	m²
延床面積	m²	m²	m²	m²	m²	m²

3．工事種目（●印を付けたものを適用する。）

建物用途の区分	工事種別					
工事種目						屋外
○ 給水設備	○	○	○	○	○	○
○ 給湯設備	○	○	○	○	○	
○ 排水通気設備	○	○	○	○	○	○
○ 衛生器具設備	○	○	○	○	○	
○ ガス設備	○	○	○	○	○	○
○ 厨房機器設備	○	○	○	○	○	
○ 排水処理設備	○	○	○	○	○	○
○ 給湯ボイラ設備	○	○	○	○	○	○
○ 熱源機器設備	○	○	○	○	○	○
○ 空気調和機器設備	○	○	○	○	○	○
○ 配管設備	○	○	○	○	○	○

工事仕様

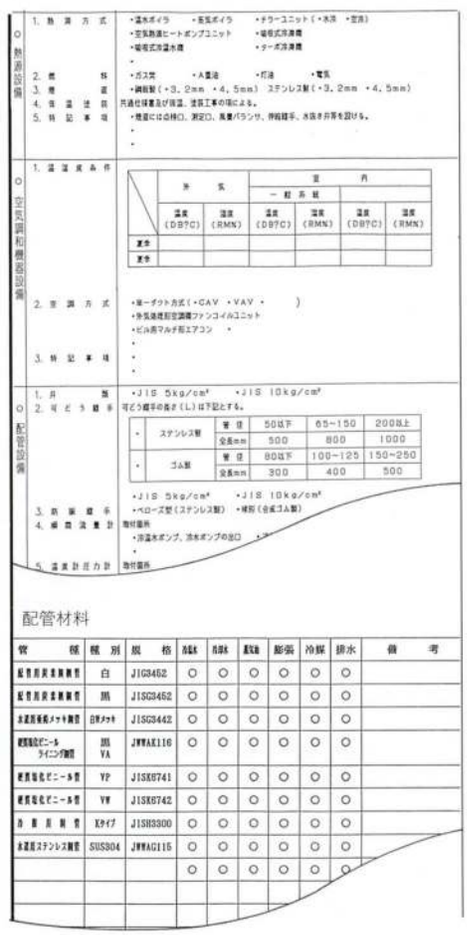
1．共通仕様

・この特記仕様書は、本工事に適用する仕様を特記するものである。図面及び特記仕様に記載のない事項はすべて共通仕様書による。
・一般仕様として下記の共通仕様書を適用する。
※（社）新日本建築家協会監修 建築工事共通仕様書 年版
※（社）新日本建築家協会監修 建築設備工事共通仕様書 年版

2．特記仕様

（1） ■は●印の付いたもの、項目は番号に○印の付いたものを適用する。
（2） 特記事項のうち選択する事項は、◎印の付いたものを適用し、・印の付いたものは適用しない。ただし、◎印のない場合は※を適用する。

■	項目	特記事項
● 一般共通事項	1. 発生材の処理	引き渡しを受けるもの ・なし ・あり（ ）
	2. 再生処分	引き渡しを受けるもの以外は、廃棄物の処理及び清掃に関する法律、建設副産物適正処理推進要綱等の関係法令等に従い、構外無許可処分とする。
	3. 埋め戻し・盛土	・構内指示の場所に敷きならし。 ・構外搬出
	4. 耐震施工	・都切り土中の岩質土（ただし、岩の混在は公称） ・山砂 （1）耐震仕様は、共通仕様書による。 （2）重要度の高い機器は下記による。 種別 防災機器 火気を使用する機器 100RTを超える冷凍機、冷却塔 中央監視盤


○熱源設備

1. 熱源方式 ・温水ボイラ ・蒸気ボイラ ・チラーユニット（・水冷 ・空冷）
・空気熱源ヒートポンプユニット ・吸収式冷凍機
・吸収式冷温水機 ・ターボ冷凍機
・
2. 燃料 ・ガス式 ・A重油 ・灯油 ・電気
3. 煙道 ・鋼板製（・3.2mm ・4.5mm） ステンレス製（・3.2mm ・4.5mm）
4. 保温被覆 共通仕様書及び保温、塗装工事の項による。
5. 特記事項 ・煙道には点検口、測定口、風量バランサ、伸縮継手、水抜き弁等を設ける。
・
・

○空気調和機器設備

1. 温湿度条件

	外気		室内			
			一般系統			
	温度（DB℃）	湿度（RH%）	温度（DB℃）	湿度（RH%）	温度（DB℃）	湿度（RH%）
夏季						
冬季						

2. 空調方式 ・単一ダクト方式（・CAV ・VAV ・ ）
・外気処理型空調機ファンコイルユニット
・ビル用マルチ型エアコン ・
・
3. 特記事項 ・
・
・

○配管設備

1. 用途 ・JIS 5kg/cm² ・JIS 10kg/cm²
2. 可とう継手 可とう継手の長さ（L）は下記とする。

・	ステンレス製	管径	50A以下	65～150	200A以上
		全長mm	500	800	1000
・	ゴム製	管径	80A以下	100～125	150～250
		全長mm	300	400	500

・JIS 5kg/cm² ・JIS 10kg/cm²
3. 防振継手 ・ベローズ型（ステンレス製） ・球形（合成ゴム製）
4. 振動流量計 取付箇所
・冷温水ポンプ、冷水ポンプの出口 ・
・
5. 温度計圧力計 取付箇所

配管材料

管種	種別	規格	冷温水	冷却水	蒸気還	膨張	冷媒	排水	備考
配管用炭素鋼鋼管	白	JIS G3452	○	○	○	○	○	○	
配管用炭素鋼鋼管	黒	JIS G3452	○	○	○	○	○	○	
水道用亜鉛メッキ鋼管	SGPメッキ	JIS G3442	○	○	○	○	○	○	
硬質塩化ビニルライニング鋼管	黒 VA	JWWA K116	○	○	○	○	○	○	
硬質塩化ビニル管	VP	JIS K6741	○	○	○	○	○	○	
硬質塩化ビニル管	VW	JIS K6742	○	○	○	○	○	○	
冷媒用銅管	K・タイプ	JIS H3300	○	○	○	○	○	○	
水道用ステンレス鋼管	SUS304	JWWA G116	○	○	○	○	○	○	
					○	○	○	○	○

図示記号

記号	名称
——C——	冷水送り管
——CR——	冷水戻り管
——H——	温水送り管
——HR——	温水戻り管
——CH——	冷温水送り管
——CHR——	冷温水戻り管
——CD——	冷却水送り管
——CDR——	冷却水戻り管
——//——	高圧蒸気送り管
——//——	高圧蒸気戻り管
——/——	低圧蒸気送り管
——/——	低圧蒸気戻り管
——A——	空気抜がし管
——O——	オイル送り管
——OR——	オイル戻り管
——A——	圧縮空気管
——R——	冷媒放管
——D——	ド
——KD——	

機械設備工事用機器材メーカーリスト
（各項目に●印をつけたものを適用する）

品名	製作所名
○ 鋳鉄水管ボイラー	㈱タクマ 川重冷熱工業㈱ ㈱ヒラカワボイダム ㈱高尾鉄工所
○ セクショナルボイラー	昭和鉄工㈱ 川重冷熱工業㈱ ㈱朝日鉄工所
○ 鋼製温水ボイラー	川重冷熱工業㈱ 昭和鉄工㈱ ㈱巴商会 ダイキン工業㈱
○ 無圧式温水機	川重冷熱工業㈱ 昭和鉄工㈱ ㈱巴商会
○ 真空式温水機	㈱タクマ 昭和鉄工㈱ ㈱ヒラカワボイダム ㈱高尾鉄工所
○ ターボ冷凍機	三菱重工冷熱システム㈱ ㈱荏原製作所 ㈱日立製作所 ダイキン工業㈱ 三菱電機㈱
○ チリングユニット（ｶﾞｽ冷）	三菱重工業㈱ 三菱電機㈱ ダイキン工業㈱ 松下電器産業㈱ ㈱日立製作所
○ チリングユニット（ｼﾞｪﾈﾚｰﾀ）	三菱電機㈱ ダイキン工業㈱ ㈱荏原製作所 ㈱日立製作所 ㈱荏川製作所 ㈱神戸製鋼所
○ 吸収冷凍機	川重冷熱工業㈱ 三菱重工冷熱システム㈱ トレーン社 三洋電機㈱ ㈱荏原製作所 ㈱日立製作所 ダイキン工業㈱
○ ガス直だき吸収冷温水機	川重冷熱工業㈱ 大阪ガス㈱ 三洋電機㈱ 三菱重工冷熱システム㈱ ㈱日立製作所 ㈱荏原製作所 ダイキン工業㈱ 矢崎総業㈱
○ 冷却塔	空研工業㈱ ㈱荏原シンワ 三機工業㈱ 日立冷熱㈱ 日本スピンドル製造㈱ 日本ピー、エー、シー㈱
○ パッケージ形空気調和機	三菱電機㈱ 三菱重工業㈱ ダイキン工業㈱ ㈱日立製作所 松下電器産業㈱ 三洋電機㈱
○ ユニット形空気調和機	クボタトレーン㈱ 新晃工業㈱ ㈱東芝製作所 木村工機㈱ ダイキン工業㈱ 三菱電機㈱ 西部空調㈱ 松下電器産業㈱
○ ファンコイルユニット	クボタトレーン㈱ 新晃工業㈱ 三菱
○ エアーフィルター	ユニック㈱ 日本ス

30's EYE—21世紀へのエスキス

現代彫刻家松井紫朗『空間への回路』

樋上新治
事業委員会委員／㈱和敬

『30's EYE』シリーズ第24回は彫刻家の松井紫朗氏を招き、「空間への回路」と題した講演会を行った。これまで当シリーズの講師は建築家の方が多かったので、彫刻という分野ながら同じアーチストとして違った視点で、「空間を料理する達人」ぶりが、作品や制作活動、作品に対するコンセプトから見受けられた。

どうして彫刻家に?

松井紫朗氏の父が「ほぞの焼」という焼物を制作していること、友人に建具・左官・大工屋さんがいて、幼少の頃から土や粘土といった物に触れ、「手ざわりでモノをつくること」に対し非常に興味を持っていたことから、この道に進んだという。また、弟の緑朗氏も大林組で建築設計をされ、名前からも色があり、芸術一家である。

80年代の制作活動

講演の前半は画像投影機（スライドをテレビに映す）により、松井氏の学生時代からの作品が紹介された。当初は、見るものを作るのは好きだったが、概念的なものから入らねばならず、迷った時期もあったという。当時のコンセプトは、見る人の視線の位置であらゆるモノに見えるものにならないか、今あるところから別の世界にならないかとかを考慮しながら「人の視線をさまよわせる装置」として作品を制作された。確かに作品を見るとその工夫が見られるが、とにかく松井氏の作品はスケール感のあるデカいものが多かった。

新素材への挑戦、シリコンラバー

今まで、新しいことをやっているつもりなのに、どうしても、そう見られないのは彫刻の素材が木やブロンズなど伝統的な素材を使用していることが一つの要因であることに気づき、シリコンラバーに顔料を混ぜて、原色を使い、チューブの表の中の裏といったものを制作した。この松井氏の試みは彫刻の世界でも注目を浴びたそうだ。展覧会で、このチューブがm（エム）という文字に見え、マクドナルドを連想させることから、中国の学生に「資本主義に対する批判か?」と言われ、レッドスクエアという題材の作品を見て「社会主義に対するソ連の崩壊への批判か?」と言われ、緊迫した政治や時代背景に直面している人の見方は違うなと思ったそうである。

90年代……新天地、ドイツへ

以前から「24時間アート漬け」になって制作しなければいい作品は出来ないと考えており、優秀なアーチストのサーキットに自分の身を置く場所として、アメリカNYが頭にあった。92年、五島財団の奨学金を得てその機会に巡り合えたが、同時期、80年代に活躍した日本の現代アーチストのグループ展がドイツを巡回しており、個展をしないかという誘いがあり、ドイツで制作活動をすることになる。ケルンのギャラリーの紹介でデュッセルドルフの郊外にある大農場の4階建の厩舎のすべてをリノベーションしてアトリエとして使用し、そこに作品と同居しながらという日本では考えられない恵まれた環境で制作することになる。

ザールブリュッケンの美術館の中庭のスペースに作品制作依頼があり、ボイススコープという作品（高さ180×500×3000cm）を置く。

この空間に少なくとも3つの外の空間（中庭、回廊、建物外）があり、この空間を自分の作品で結ぶことを考え制作する。これが好評で、同市でこの作品を買い上げられる。また、同市の美術大学でレクチャーしたときに京都・大仙院の庭などビデオを用いて、庭におけるストーリーの存在、苔・石・木などの色あいの面白さを説く。


講演する松井紫朗氏

ここで、作品と空間の位置関係について、異なる次元を結び付ける事例として「メビウスの輪」を挙げられ、また、デモンストレーションとして、人の手を結んで出来る列の重なりあいから別の空間が出来ていくことを説明された。

最近の「空間へのこだわり」

後半は、日本・海外の最近のプロジェクトについて紹介された。

カナダ・トロントのスカイフォールプロジェクトは、冬場に氷った滝の上に水色のシリコンラバーをかけて、空間だけでなく時間の軸に対しても考慮した作品。日程もスタッフも決まっていたが、提供するシリコンラバーの会社が人体に悪影響を及ぼすということで、訴訟を起こされて敗訴して倒産、無効となった。氏の作品の中で、現代の素材が社会と初めて結びついた。

ミュンヘンの街の日常的な空間を使って、その空間を再認識しようというプロジェクトでは、10数人のアーティストの中でも松井氏の作品はオペラ座とカフェ・ブティックを結んだ一番良い場所にテント地の作品を提案したが、空からの明かりがとられる、高級立地にそぐわない、ということで無効になった。その案は京都市立美術館（S8年の日本最古の美術館をリニューアル）をテーマにした「思い出のあした」展（5/20～6/15）で披露した。

スペインのマドリードでは、建物を支える構造物、白い壁、木の床、天井の光といった空間を取り結んだシリコンラバーの作品。

ミュンヘンの別のプロジェクトでは、カフェルイトポルドという歴史的な場所で、3つのアーケード、エレベーター、壁、床といった空間に人工芝を利用した作品が、今年9月3日～10月24日に展示された。

*

彫刻にせよ、建築物にせよ、その存在の価値や意味、位置づけ、まわりとのかかわりなどによって、また、見たり感じたり利用したりする人、視点によって違ってくるものであり、心地良いモノにもなるし、そうでないモノにもなる。松井氏の「空間に対するこだわり」は、「与えられた空間にモノをつくる」仕事に従事している人に改めて認識を強く持つ必要性を感じさせたのでは……と思う。

活字にしても表現しきれないものであり、百聞は一見にしかず、松井氏の作品を見ていただくのをお勧めします。（ひがみ しんじ）

日時　1997年6月27日㈮18:30～21:10
会場　日本建築協会サロン　　参加者　40人

出版委員会だより

会議は楽しく活発に

山田　修
出版委員長／修建築事務所

神戸ファッションプラザ見学会へ

楠本照男委員（昭和設計）のお世話で、当プラザ見学会をかねた出版委員会が9月19日㈮現地で行われた。

13．50に六甲ライナーのアイランドセンター駅に集合する。説明は、設計担当の高津章雄氏（昭和設計）にご無理をお願いした。

神戸ファッションプラザは、ファッションに関する産業・文化の振興を図るため、'97年4月に開館した。美術館とアトリュームは、リソースセンター・ミュージアム・ホールの3部分をもつ公共部門（神戸市）からなり、神戸ローザンヌホテル・映画館・店舗をもつ民間部門（KFP・松下）と併立している。当プラザは、延べ面積91,500㎡の大複合建築物であった。

公共部門の5FにあるUFOをイメージしたオービスホールは、424席を有する円形イベント空間で、機械操作によりステージと客席の構成が自由・簡単に変換できる。

1F展示室では開館イベントとして、篠山紀信を含む6人の新進写真家による写真展を開催中だった。それも見学する。これは、ファッション写真展の枠組みをこえた新しい試みで、年輩者には驚きとともにいい刺激を与えてくれた。

全館をくまなく見学。最後はホテル最上階のスカイレストランを見る。秋空のもとに遠く紀伊半島・生駒の山なみが見渡され、近くは瀬戸内のさざなみが陽光にきらめいていた。しばし、疲れた体がなごむ。1泊65,000円のスイートルームを目にして、この部屋で一泊・スカイレストランで食事する日の訪れんことを期待した次第。一瞬でも希望と夢が広がったのは幸いだった。

3時間余の見学を終え、足は疲れ、体はくたくたになっていた。



UFOをイメージした神戸ファッションプラザ（ホール部分）



神戸ローザンヌホテル最上階のスカイレストランより海を見おろす

出版委員会は

疲れた体にムチ打ち、17時より1時間、当委員会をファッションプラザ3Fにある中華料理店で開く。議事は、

① プロのノウハウと特装本の経過報告
② 今後のテーマと執筆者選定
③ 第17回プロのノウハウ講座の実施報告
④ その他、次回の進行役

であった。①は芳しい進捗状況が見られなかった。②は今回はなし。③は、まずまずの状況だった（本誌に実施報告記を掲載ずみ）。④は予定通りとなった。

のどがかわき、熱いお茶を飲んだときはホッとした。18時より高津氏も加わり懇親会を開く。生ビールを飲んだときは、ほんとうにうまかった。こはく色の液体が5臓6腑にじんわりとしみこんでいく実感がした。それだけ、見学会に熱中していたせいだろう。



中華料理店における出版委員会

中華の美味を舌にのせて、雑談に花が咲く。とくに安藤忠雄氏の東大教授就任云々の話は面白かった。飲食中によいアイディアが浮かぶことが多いから、委員会のあとの懇親会は欠かせない存在、となっている。これで委員の信頼度も深くなってゆく。また、情報の交換の場とも化す。

各委員会の動きを活発に

当委員会も、時には空転しそうなときがある。常連さんの顔ぶれが並ぶときは話がはずむが、逆の場合は話が止まる。

それをカジとりするのが進行役である。かげに回って会を盛り上げるのが委員長・副委員長である。当会の進行役は委員の持ち回りで進めている。出席者は、必ず一こと自由に発言し、周りもそれを尊重する。みんなが分野に応じて責任をとる体勢ができてきた。

こういう進め方は、他の会でも実行されたらよかろう。わたしは出版委員会以外の会にも出るが、そこでは進行役が固定していて、新鮮さと面白味がない。意見が出ずというより、出しにくい雰囲気が漂っている。「出席する時間がムダである」と思うときがあった。

どんな会でも活性化と楽しさは必要だ。否定の意見の出ない会は死んでいる。“各委員会だより”も、当誌上で発表していただきたい。

このことは、前にも当誌面上でお願いしたが、ナシのつぶてだった。ということは、当誌は余り読まれていない、ということかも知れない。若い会員に魅力ある協会として活性化・発展化することを望むこと切なり。

（やまだ　おさむ）

書評

壮麗な建築・文献・図像学

中村貴志

「流れゆく時の女神ファーマ（Fama）よ、誉れと称賛の響きが私のもとへやって来る。だが、人々がこの灰色の時代を生きる限り、時が破壊へと導くものを、私はこの手でとどめ置こう。」（第一書、扉絵、注解第一章）

ファーマの女神は古代ギリシアのペーメ（$\phi\eta\mu\eta$）に連なり、神々の神託や人々の噂を意味していた。現代でも、その意味が「有名（famous, fameux, famos）」という語に留められている。本書の冒頭にこの詩句が掲げられたのは、まことに意義深い。フィッシャーは、ウィーンのシェーンブルン宮殿やカール教会堂などの作品で、今では世界的に有名となっている。しかし、編者が解説するとおり、そのような建築作品も、まさしくこの著作の現実的な効力で実現したのである。

彼は、序文の一節で次のように釈明している。―「著者が名声を求めて本書をしたためたのではない。…（私の目的は）＜あらゆる建築様式を描く＞という試みによって芸術愛好家たちを楽しませ、また芸術家に創造のきっかけを与えるということ」にある。

皮肉な読者は、ひとつの野心をそこに察知されるかもしれない。――彼がこれを記したのは、政争と戦争で失業中のことであり、彼が楽しませようとしたのは、ハプスブルク家の貴族たち、とりわけ神聖ローマ帝国の皇帝カール6世にほかならない。その構想にクリストファー・レンの影響が認められるとはいえ、ヒルデブラントへの対抗心がこの建築家を鼓舞したのに相違ない。序文の＜芸術家＞とは、彼自身のことではないか？　フィッシャーは、この労作を執筆して、ファーマの恩恵に自ら預かろうとしたのではないか？

しかし、そのような詮索にもかかわらず、ここには、建築の歴史と創造に関する重要な課題が示されている。ここで収集されているのは、現実の建築史を成す古代の遺蹟ばかりではない。彼は、近代考古学の意味で歴史上のモニュメントを復元しているのではない。ヴィラルパンドが夢想したソロモンの神殿と同様に、フィッシャーの建築図面は、古代の文献の多様な解釈にもとづいている。そのような視覚は、やがてピラネージの版画でも、いっそう象徴的に表明されるようになる。



ヴィンケルマンを遡る彼の時代では、古代のギリシアは未だ薄明の領域であった。ヘロドトスを除けば、そのドキュメントが広く参照されているわけでない。しかし、古代ローマの著作は数多く引用されている。ストラボンやプリニウス、ウィトルウィウスやスエトニウスやパウサニアスなどが、彼の構想に具体的な根拠を与えている。カエサルやアウグストゥス帝にも触れながら、フィッシャーは古代ローマの栄光に耽るかのようである。

そこにも、一種の政治的な意図が認められる。彼の制作世界は、宮廷のドイツ民族派に取り囲まれていた。しかし、このバロックの建築家は、当時の古銭学による古代のメダルから、数々の壮麗な建築物をわれわれの眼前に描き出す。編者によれば、ペローリやキルヒヤーとの交友が、彼の構想を高揚するのであった。ローマで交流したサロンの文化的な関心が、彼自身の空想を誘う創作の契機ともなった。あの「古代の七不思議」をはじめ、アレクサンドロス大王の建築家が考案したというアトス山の計画が、フィッシャー自身の幻想的な構図に定着されている。

その旺盛な構想力は、トルコのモスクや、中国やタイの都市景観にも及んでいる。先にみたとおり、フィッシャーの関心は、彼の脳裡に浮かんだ「あらゆる建築様式」に向けられるのである。彼自身のヴィジョンがそこに重ねられるのは、むしろ、当然といえる。そこには、いわゆるオーストリア・バロックの想像力が働いている。そのような建築図面の集積に、われわれは、ひとつの豊穣な建築・図像学を読み取ることができる。

中村恵三の訳文は、きわめて堅実に見受けられる。図版や注解の編集にも慎重な配慮が払われている。この種の訳業には、しばしば予想外の困難が伴われる。西欧古代の文献は数多く邦訳されており、識者は、種々の異なる解釈も熟知している。それを考えれば、訳者の労力は、著者の苦労にも劣らないと思われる。フィッシャーの構想は、建築の歴史に鏤められた数々の伝承に依拠していたからである。建築の文献・図像学にとって、ファーマの女神は今でも健在といえるであろう。

（なかむら　うずし／京都大学大学院建築系教室助手）

書評

21世紀の福祉のまちづくりデザインを考えるための羅針盤

吉村英祐



福祉のまちづくりデザイン
—阪神大震災からの検証—
田中直人　著
学芸出版
1996年 8 月30日刊
A 4 L 判　208頁　本体2,472円

著者の田中直人氏は大学院修了後、生まれ故郷の神戸市役所に奉職され、ポートアイランド、六甲アイランド、西神ニュータウンをはじめとする神戸市の主要プロジェクトの計画やデザイン担当として、神戸市のまちづくりに全精力を注がれてきたといっても過言ではない。特に、神戸市の福祉のまちづくり条例や設計マニュアル等の作成にあたっては中心的な役割を果たされ、その成果は全国の自治体の手本となるとともに、日本建築学会においても、福祉のまちづくり研究の第一人者として多彩な活動をされ、神戸芸術工科大学へ移られてからも神戸市のまちづくりに深く関わってこられた。だが、阪神・淡路大震災は無惨にも、田中氏が愛してやまない神戸を一瞬にして壊滅させた。その時のショックは、日頃の活動を横から拝見している身にとって、想像するに余りあった。

その田中氏が今回、標記の本を上梓された。本書の内容は第１章「福祉のまちづくりと阪神大震災」、第２章「福祉のまちづくりの検証」、第３章「福祉のまちづくりへの提案」の３部構成となっている。

第１章では、まず戦後のまちづくりのなかで、福祉のまちづくりがどのように発展してきたかを概観している。次いで、阪神・淡路大震災によって都市環境がどのように変化し、それが障害者や高齢者にどのような影響を及ぼしたかを、避難所や仮設住宅などの問題点を中心に整理し、福祉のまちづくりの視点からの課題や問題点と、これからの新しいパラダイムの必要性を明快に述べている。

第２章では、福祉のまちづくりにおいて日常から問題となっていることに加え、阪神・淡路大震災により生じた都市環境の変化が高齢者や障害者の行動能力にどう影響したかを、著者自身の調査、被災者の証言やヒアリング、豊富な写真などをもとに検証している。その対象は住宅、避難所、仮設住宅はいうまでもなく、病院、福祉施設、行政施設、市場、商店街、公衆浴場、道路、公園、交通機関など、日常生活と密接に関連する施設のほとんどをカバーしており、この問題に対する著者の思いや価値観が、ひしひしと伝わってくる。

第３章では、阪神・淡路大震災の経験をふまえて、著者自身が関与してきた上記プロジェクトや灘区水道筋、垂水区舞子地区の市街地整備の事例を中心に福祉のまちづくりの実践例を紹介し、最後に展望と課題を整理している。

この本で特筆すべきは、著者自身が被災者であるにもかかわらず、あるいは被災したからこそであろうか、全編にわたって著者自身の見聞や体験、被災された方々の生の声、著者が自ら撮影した貴重な写真が満載され、自分自身のこととして真剣に取り組み行動された結果が反映されて、重みのある内容となっていることである。震災前から神戸市のニュータウン計画や福祉のまちづくり行政に真剣に携わってきた人でなければ、ここまで緻密かつ高齢者・障害者の真意をくみ取った問題点の指摘や提言はできない。

阪神・淡路大震災は、わが国の住宅問題、福祉行政や福祉のまちづくりにおける課題、地域コミュニティの大切さなどを一挙に顕在化させた。神戸市株式会社と揶揄されながらも都市におけるまちづくりをリードし、また福祉のまちづくりにおいても先駆的役割を果たしてきた神戸が、戦後50年という節目の年に直下型地震に見舞われたというのは、何という歴史の巡り合わせであろうか。

だが著者の目には、おそらく震災前から、神戸市のめざましい発展の陰に隠れたさまざまな問題が映っていたのではないだろうか。震災は実に不幸なできごとであったが、これらの問題が社会的関心を集める契機にもなった。本書は、社会的関心が一時的なもので終わらないように願い、また、本書の内容は神戸に固有ではなく、どのまちにも共通しているということを、世の中に伝えたいという著者の思いであふれているが、決して感情的な論調にはならず、客観的事実とそれに基づく考察と提案を行っている。特に第３章第３節で示された、これからの福祉のまちづくりデザインの展望と震災を通して見いだされた11の課題は、高齢社会がますます進行する21世紀におけるまちづくりを考えるうえで、重要な示唆を含んでいる。ぜひ一読していただきたい１冊である。

（よしむら ひでまさ／大阪大学建築工学科助教授）

BOOK STATION
ブックステーション

歴史的遺産の保存・活用とまちづくり
大河直躬 編

学芸出版社
1997.6.25刊
A 5 判　256頁　3,675円



都市景観と造形の未来
樋口正一郎 著

鹿島出版会
1997.2.10刊
A 5 判　198頁　3,045円



住まいの文化
豊かな暮らしのためのテキストブック
住文化研究会 著

学芸出版社
1997.3.20刊
A 12取判　156頁　2,310円



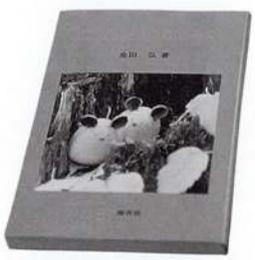
地震と木造住宅
杉山英男 著

丸善
1996.7.10刊
四六判　380頁　3,150円



森のめぐみ木のこころ
金田弘 著

海青社
1996.9.15刊
B 6 判　158頁　1,478円



現代の住宅
七つの町づくり設計
大野勝彦 著

丸善
1997.2.28刊
A 5 判　218頁　2,415円



人にやさしい街づくり
山田昭義
星野広美 編

風媒社
1997.3.5刊
四六判　310頁　2,100円



近世上方大工の組・仲間
川上貢 著

思文閣出版
1997.3.1刊
A 5 判　402頁　9,450円



フッ素・アルミ模様シート

アルモZP

オサダ技研株式会社
大阪市中央区谷町9-2-30　金岡第2ビル
TEL06-764-5724㈹　FAX06-761-1517

はじめに

最近、建物の外壁や内壁に、そして土木構築物の立面等に、さまざまな模様、形状を現出することのできる化粧仕上げ材料が開発され使用されている。

ますます高層化するビルやマンション、公共建築から住宅まで、その外壁や内壁に使用する化粧仕上げ材料は新築時はもちろん、メンテナンス時の種々な要因も考慮しながらの選択については苦慮することが多い。さらに、改装を目的とする建物においては建築当初とは様変わりした周辺環境、時代に即した意匠性、経済性をも満足する材料の選択が必要になってきている。

また、建築をとりまく土木構築物においても“やすらぎ”や“うるおい”をもとめ、景観を重視した質的向上を目指したさまざまな施策が実施されている。特に、高速道路、橋の橋脚や高欄部分、擁壁などの意匠面への景観的要求が高まりつつある。

そんな要求に応えて開発されたのが、以下に紹介する「アルモZP」—フッ素・アルミ模様シート—である。

貼る仕上げ材

「アルモZP」は軽量で作業性がよく、耐久性、汚染性に優れた素材の美しさをいつまでも持続する石材調シート状化粧材からなる“貼る仕上げ材”で、新・旧を問わない、建物や土木構築物の壁面に適用できる化粧仕上げ材である。

外部壁面における従来の一般吹付塗装仕上材に代えて、また内部壁面においても吹付塗装仕上材やその他の塗装、クロス貼りなどの仕上げ材に代わっての使用ができる。

≪特徴≫

軽　量：シート材は㎡あたり1kgと軽量のため施工性が良い。

耐候性：促進耐候性試験（4000時間）により、ひび割れ、剥がれ、変色など異常がみられなかった。

汚染性：表面はフッ素アクリルフィルム加工からなり、汚染に強く、また、汚れた場合のメンテナンスも容易である。

施工性：曲げ、切断、穴開けなどの加工作業が容易にできる。

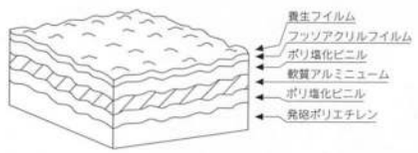
防水性：弾性エポキシ系を使用しているため漏水のおそれがなく、接着も安定しているので剥がれの心配もない。

≪用途≫

・コンクリート打放し、モルタル仕上げ面。
・ALC、PCコンクリート、石綿セメント板、押し出し成型セメント板、ケイ酸カルシューム板などの下地面。
・アルミ製、スチール製金属下地面。
・合板、石こうボード、発泡樹脂断熱複合板などの下地面。
・FRP、アクリル、塩化ビニールなどプラスチック製の下地面。
・改装下地
・磁器タイル仕上げ面
・吹付タイル系塗装面
・かき落とし仕上げ面

仕様

シート構成図



■標準サイズ(mm)
450×450
450×600
450×900
600×900
900×900
900×1200

■表面仕上げの色調
赤みかげ
黄みかげ
白みかげ
パール白
パールピンク
マーブルホワイト

施工手順

下地調整 ⇨ 接着剤塗布 ⇨ シート貼り付け ⇨ シート転圧 ⇨ コーキング

おわりに

うるおいのある街づくり、都市環境づくりが促進されている今日、こうしたテーマに密着した商品の開発に取り組んでいく中で、今後ともユニークなコンセプトを基本に、社内外の高度に蓄積された技術とスクラムを組み、確かなニーズに応えられる商品開発に期待する。

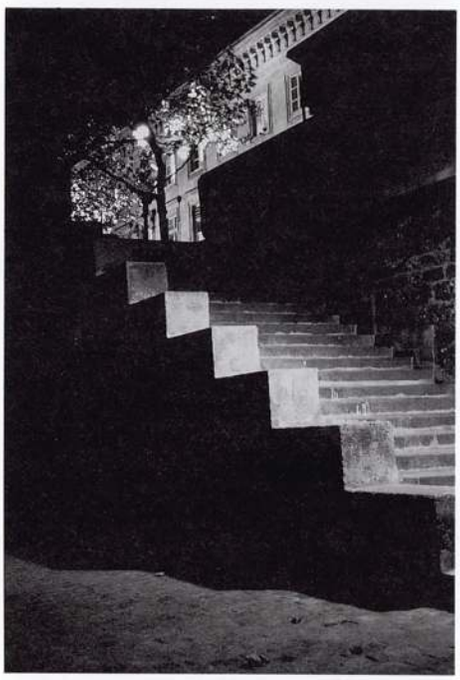
（竹田三夫／建材委員）







村井修写真展、大阪で



5月の東京展に引き続き、写真家・村井修氏が、文芸評論家・海野弘氏との共著「パリ 都市の詩学」(河出書房新社)の写真をベースに、今年の始めに新しく撮影した冬のパリを含めて、A3判カラー写真約100点を大阪でも展示することになった。入場無料。

大阪ではとくに、村野藤吾設計(1970年)の村野、森建築事務所を会場に2週間の予定で開催される。

会期　1997年11月7日(金)〜11月21日(金)
10:00〜18:00　日曜休み

会場　村野、森建築事務所　TEL06-624-0929
大阪市阿倍野区阿倍野筋2-3-8(地下鉄谷町線阿倍野駅、地下鉄・JR・近鉄天王寺駅下車)

後援　㈱河出書房新社、㈳日本建築協会、㈳大阪府建築士会、㈳日本建築家協会近畿支部

協賛　村野、森建築事務所

問い合わせはスタジオ・ムライ(TEL03-3381-2497)へ。

広島の四大学建築卒業設計展

広島で建築系学科をもつ広島大学、近畿大学、広島工業大学、福山大学が四大学合同で建築卒業展を開催する。入場無料。

テーマ　千年紀末の時計—3「IMAGINE」

展示作品　1996年度四大学建築卒業設計

日時　1997年11月21日(金)　13:00〜17:00
〃22日(土)、23日(日)　9:00〜17:00
〃　24日(月)　9:00〜16:00

場所　広島県民文化センター地下第一展示室
広島市中区大手町1-5-3 TEL082-245-2311

イタリア現代建築展

■イタリア現代建築展「イメージの可能性〜ある精神科医の提言にもとづく試み」

——イタリアの若手建築家集団と精神科医マッシモ・ファジョーリは、人間の創造力の源泉としての“イメージ”に着目。共同で、心の深層に潜む無意識的なイメージを現実の建築プロジェクト上に表出することを試みている。

本展はこれらのプロジェクトから、建築を中心に、都市計画、インテリア、彫刻を含む76点の作品を、写真、模型、ビデオなどで紹介する。

日時　1997年11月3日(月)〜11月14日(金)　9日休廊
9:30〜17:30(最終入場17:00)

会場　学芸出版社ギャラリー　TEL075-342-2600
京都市下京区木津屋橋通西洞院東入

入場　無料

■対談「現代イタリア—創造行為の前線」

——イタリアの建築をはじめとする創造行為における現状を建築、美術、文学の分野から検証する。

日時　1997年11月8日(土)　16:00〜18:30

会場　日本イタリア京都会館
京都市左京区吉田牛の宮町4

定員　200人(入場無料/当日受付)

講師　岸　和郎氏(建築/京都工芸繊維大学教授)
篠原資明氏(イタリア現代美術/京都大学助教授)
竹山博英氏(イタリア現代文学/立命館大学教授)

対談に関する問い合わせは、京都イタリア文化会館(TEL075-751-1868)へ。

「DISCONT—吉阪隆正+U研究室—」

ル・コルビュジエのアトリエで仕事をしてきた前川國男、坂倉準三、吉阪隆正は三者三様にル・コルビュジエを理解し、作品や生き方に反映させてきた。

ル・コルビュジエに関する展覧会を活動の軸にしているギャルリー・タイセイは、今後ル・コルビュジエの弟子たちに目を向けたシリーズを展開させる予定で、この三人の中でまず吉阪隆正を取り上げる。

ル・コルビュジエとの出会いから吉阪隆正独自の世界までを、DISCONT=不連続統一体をキーワードに、多くの現物、原図などによって展観する。入場無料。

会期　第1期1997年11月17日(月)〜1998年1月14日(水)
第2期1998年1月26日(月)〜3月20日(金)
土日祝日、12月29日〜1月2日、1月16日〜1月23日は休み

会場　ギャルリー・タイセイ　TEL03-5381-5510
東京都新宿区西新宿1-25新宿センタービル17F

なお、12月5日(金)にはスライド上映と座談〔U研究室の大竹十一、滝沢健児、松崎義徳、戸沼幸市、鈴木恂+司会/植田実+スライド/北田英治〕の会も企画されている。問い合わせはギャルリー・タイセイへ。

西尾邸アートプロジェクト

大阪府吹田市内本町2丁目にある西尾邸(旧仙洞御料庄屋屋敷)で、西尾邸とその周辺の旧吹田村の魅力を「アート」の視点から再発見する試みが、京都市立芸術大学美術学部Gゼミの主催で行われる。

西尾邸屋敷内や周辺の町並みの中に作品を展示し、パフォーマンスを展開し、過去と現在の日常の風景を新たな角度から浮かび上がらせようというもの。

日時　1997年11月21日(金)〜11月24日(祝)

場所　西尾邸(吹田市内本町2-15-11)
阪急吹田駅またはJR吹田駅下車

詳細問い合わせは、旧庄屋屋敷保存活用会(TEL・FAX06-381-7311)へ。

なお、11月30日(日)には西尾邸で午後1時から「幻の邪馬台国・卑弥呼伝説—民族音楽と卑弥呼の語り—」が上演される。これは、平成8年度大阪舞台芸術奨励賞を受賞した花邑てん氏による語りで、西尾邸を会場にしたイベントシリーズの一つ。

建築学会支部創立50周年行事

■「関西建築界の将来」

講師　佐野正一氏(安井建築設計事務所)
久徳敏治氏(竹中工務店)
橋本喬行氏(日建設計)
横尾義貫氏(京都大学名誉教授)
東　孝光氏(大阪大学名誉教授)

日時　1997年11月14日(金)　13:30〜16:30

会場　綿業会館大会場　TEL06-231-4881
大阪市中央区備後町2-5-8

定員　300名(参加費無料)

■「人工環境と構造の未来—エンジニアリングの前線は今—」

——人間社会を含めた生物のふるまいに、建築がどうかかわり、どう建設していくかを循環機構的視野に立って考えることは重要な課題である。そこで、人工環境と構造の未来、とりわけ社会的変化とニーズに応える環境都市建築空間の実現とその構造について、世紀末の総括と新しい世紀の出発を考える。

講師　渡辺豊和氏(渡辺豊和建築工房)
岡崎甚幸氏(京都大学)
森山正和氏(神戸大学)
鵜飼邦夫氏(日建設計)
樫原健一氏(鴻池組)

日時　1997年11月21日(金)　13:30〜17:00

会場　梅田スカイビルタワーウエスト22F A会議室
大阪市北区大淀中1-1　TEL06-440-3901

定員　200名(参加費無料、資料当日実費頒布)

上記シンポジウムは、㈳日本建築学会近畿支部(〒550 大阪市西区靱本町1-8-4)へハガキなどで氏名・住所・電話番号を連絡のうえ、直接会場参加とする。

「長寿社会のユニバーサルデザイン」

高齢者や障害者が住み慣れた家庭や地域でいきいきとした生活が出来るようにするために、汎用性のあるユニバーサルデザインという視点ですべての人に優しく快適なこれからの住環境を考えるセミナー。定員30名。

●1997年11月7日(水)18：30〜20：50
「バリアフリーからユニバーサルデザインへ」
岡　修作氏（岡プランニング代表）

●1997年11月15日(土)10：00〜16：00
「生活を広げる福祉機器」
小嶋寿一氏（滋賀県立福祉用具センター所長）

※見学先：福祉用具センター＆有料老人ホーム。ただし交通費、昼食費は自己負担。

●1997年11月21日(金)18：30〜20：50
「長寿社会の住環境を考える」
小西京子氏（滋賀県立福祉用具センター作業療法士）
岡　修作氏

受講料　30,000円（税込み）
会　場　11/7及び11/21は備後町オークビル6F
（大阪市中央区備後町3-6-14）
11/15は滋賀県大津市（予定）
申込先　大阪ガスインテリアデザインスクール
（TEL06-262-4089 FAX06-262-7202）

復興まちづくり報告97

震災3年目を迎えようとしている中で、復興まちづくりの状況を地区の実態とともに、各種専門的支援ネットワークの情報も含めて、まちづくりコンサルタントが相互に報告する集まりがあり、参加者を募っている。1997年11月現在の震災復興まちづくりの状況を、「市民まちづくり」を支援する約20人のプランナーがひとり20分＋質疑5分の報告をする。2日間約12時間の報告会となる予定。

日　時　1997年11月14日(金)13：00〜17：30〜20：00
〃　11月15日(土)10：30〜18：00
会　場　まちづくり会館2階ホール＋3階まちづくりセンター（神戸市中央区元町通4-2-14）
TEL078-361-4523
定　員　100名
参加費　5000円（資料代）
主　催　阪神大震災復興市民まちづくり支援ネットワーク
共　催　こうべまちづくりセンター
協　力　神戸復興塾、集中討議、HAR基金
申込先　阪神大震災復興市民まちづくり支援ネットワーク事務局（〒657神戸市灘区楠丘町2-5-20、TEL078-842-2311、FAX078-842-2203、E：CYG@02021niftyserve.or.jp（NAKAI,YUTAKA））へFAXで。参加費は郵便振替（00990-8-61129）か銀行振込（阪神銀行六甲支店（普）1557327）とする。

建築家と留学生によるラウンドテーブル

異なる生産システムや制度のもとで建築や都市環境デザインを学ぶことが、どのようなメリットや問題につながるのか、経験者の体験（建築作品）を通じて語り合う機会が設けられた。

テーマ／「建築デザインの異文化交流」
〈第1部〉「グラスゴー〜ローマ〜大阪」（仮称）
講師／木村博昭氏、渡辺康男氏ほか
〈第2部〉「留学生から見た日本の建築経験」（仮称）
出席者／近畿在住の建築系学科の講師、留学生

日　時　1997年11月28日(金)18：30〜21：00
会　場　大阪国際交流センター
定　員　100名
会　費　学生1000円、一般2000円
申込み　勤務先、住所、電話番号を記入して、FAXで㈱日本建築家協会近畿支部（FAX06-229-3374、TEL06-229-3371）へ。

第17回アジア建築文化誌研究会「東南アジアの建築遺産」

1年以上に及ぶフィールド調査をおこなっている研究者を中心に、アジア、住宅、建築に関心を寄せる人々が参加し、その研究成果を発表、情報交換し、ひろく発信しアピールすることを目指しているアジア建築文化誌研究会では、アジアの多様な住まい、生活慣習、伝統を学び考えることによって、住まいを多角的にとらえる契機になれば、と研究会を公開している。

日　時　1997年11月29日(土)　17：30〜20：30
会　場　学芸ホール（学芸出版社3階）
発表者　上野邦一（奈良女子大学生活環境学部教授）
定　員　30人（申込み先着順）
参加費　500円（資料代、飲物代）
申　込　催し名：第17回アジア建築文化誌研究会、連絡先：住所を明記の上、11月27日(木)までに下記へ。
申込先　学芸出版社編集部（担当：藤谷）
京都市下京区木津屋橋通西洞院東入、FAX075-342-2605、TEL075-342-2600、E-mail：gakugei@mbox.kyoto-inet.or.jp
後　援　㈱日本建築協会
協　賛　アジア太平洋建築情報ネットワーク

独自のすぐれた歴史と文化遺産をもっていながら、東南アジアが知られていない。わたしたちの価値観の中に欧米で確立した考え方が染みついているからではないか。そういう思いを抱きながら、ここ9年間で東南アジア6カ国とスリランカの建築遺産をみてきた。

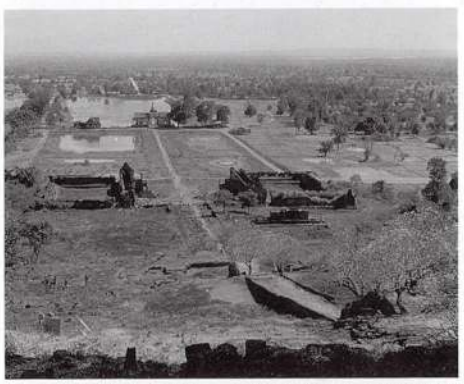
●ラオスのワット・プー遺跡：瓦と木造架構を発見。ヨーロッパの石造建物にも木造の小屋組、瓦葺きの屋根のものが、古くから多くある。

●タイのクメール遺跡：天井の仕口にあたる段差とかき込みを発見。クメール建築では、扉まわりと天井に木の造作部分がある。

●ワット・プー遺跡で、ついでカンボジアのバンテアイ・クデイで、石敷き表面上の刻線を見いだした。刻線は施工の技術や手順を示すのだろう。

遺跡に関連する資料、文献も時間が許す限り調べているが、資料の量からいえば限られたものである。また、インドネシアにも、東南アジアの建築に影響を与えたインドにも行っていない。だから、東南アジアの建築遺産について何かを述べるには見聞が乏しいのだが、気づいたこと、考えたことを報告したい。かつて壮大な建築物を建てた技術が断絶していて現在に受け継がれていないし、技術がなくて修理ができないという現実や、宗教建築と庶民の住まいの落差が大きいこと、国際協力の問題などもふくめて、なにをどのように考えて遺跡を観察しているのか、を中心に話したい。

―上野邦一―


ワット・プー遺跡／ラオス―上段テラスから見る建物群


パガン遺跡群・タビィニュ寺院／ミャンマー


バンテアイ・クデイ遺跡／カンボジア―作業員たちと

大阪で病院建築基礎講座

病院建築の初心者を主対象に、「病院建築基礎講座」が、開かれる。日本医療福祉建築協会（JIHA）主催。

会　期　1998年 1 月22日㈭・23日㈮
会　場　大阪科学技術センター大ホール
　　大阪市西区靱本町1-8-4
定　員　250名（定員になり次第締め切り）
受講費　JIHA会員20000円、一般40000円
申　込　受講申込書（受講者名、連絡先住所、電話とFAX番号など）を、郵送またはFAXで日本医療福祉建築協会（〒108東京都港区芝5-26-20 FAX03-3453-7573）へ。受講費は、受付票が届き次第、指定口座に振込み。

● 1 月22日㈭10：15～17：00
総論／池田有隣氏（宝塚造形芸術大学）
全体計画／柳澤　忠氏（名古屋市立大学）
外来部／加藤彰一氏（豊橋技術科学大学）
病棟部／山下哲郎氏（名古屋大学）
手術部・分娩部／谷口　元氏（名古屋大学）

● 1 月23日㈮9：30～17：00
特別講義／伊藤誠氏（足利工業大学）
検査・放射線・リハビリテーション部／佐々木厚司氏（京都工芸繊維大学）
供給部／奥長隆敏氏（日研設計大阪本社）
設備／馬場祐輔氏（清水建設設計本部）
病院設計の実際―中小病院―／辻野純徳氏（UR設計）

札幌国際デザイン賞募集

札幌を基地に実施してきた札幌国際デザイン賞は、4回目の今年は「雪の街に映えるパブリックサイン」をテーマに、雪の中でも誰もが理解でき美しい〝パブリックサイン〟のデザインを公募する。

応募資格　資格は問わず。個人でも団体でも応募可。
応募点数　点数に制限なし。未発表作品に限る。
公用語　日本語か英語
出品方法　(1)出品票、(2)デザインコンセプト説明書、(3)応募作品―A1サイズの枠なしパネルを使用し、平面に表現―を1セットにして、1998年1月12日㈪～1月30日㈮必着で、日本通運㈱札幌西支店倉庫課（〒060札幌市中央区北11条西14丁目　TEL011-611-3923）へ出品。
賞の種類　大賞1点100万円、準大賞1点50万円ほか
審査委員　清家　清氏（東京芸術大学名誉教授）を委員長に環境及びグラフィックデザイナーら。
主　催　札幌国際デザイン賞実行委員会（札幌市、北海道通商産業局、札幌芸術の森ほか）
要項請求　同上の事務局〈〒060札幌市中央区北1条西7丁目㈳北海道未来総合研究所内、TEL011-281-3741、FAX011-261-4882〉。

JIA市民大学講座

'97まちづくりセミナー「21世紀の街づくり」―「重たい時代」の都市・建築パラダイム―が始まる。

11月18日㈫18：30～20：00
廣瀬通孝氏（東京大学工学部総合試験所助教授）
テーマ「都市空間と仮想空間（サイバースペース）」
11月27日㈭18：00～20：00
石山修武氏（早稲田大学理工学部教授）
テーマ「建築家の主体と市民参加」
12月 4 日㈭18：00～20：00
落合恵美子氏（国際日本文化研究センター助教授）
テーマ「21世紀の家族とまちづくり」
1 月29日㈭18：00～20：00
新居千秋氏（新居千秋都市建築設計主宰）
テーマ「艶っぽい公共建築」
2 月 5 日㈭18：00～20：00
井上　繁氏（日本経済新聞社論説委員）
テーマ「都市づくりの発想」
2 月26日㈭18：00～20：00
石森秀三氏（国立民族学博物館教授）
テーマ「21世紀観光ビッグバンの集客都市パラダイム」
会　場　安田火災海上保険㈱安田火災ビル12F
　　大阪市中央区瓦町4　TEL06-227-4330
受講費　一般2000円／回（通し券10000円）
　　学生1000円／回（通し券5000円）
定　員　100人（先着順・代理出席可）
申込み　勤務先、住所、電話番号、参加希望日を記入して、FAXで主催の㈳日本建築家協会近畿支部（FAX06-229-3374）へ。

国際学生照明デザインコンペ

11回目を迎えるコイズミ国際学生照明デザインコンペ（主催：小泉産業）では、今年10月1日現在在籍中の全世界の学生に、「Lighting Ecology―ひかり、そのありかを求めて」のテーマで応募を呼びかけている。登録受付は1998年1月30日（当日消印有効）まで。

作品受付　1998年2月10日～2月20日（当日消印）
応募方法　B3判サイズまでの厚紙などに、写真、図面、スケッチ等を貼り付け、出品票を貼付し、郵送または宅配便で、コイズミ国際学生照明デザインコンペ事務局（〒541大阪市中央区備後町3-3-7　小泉産業株式会社内、TEL06-262-1369）へ。枚数に制限なし。
賞　金賞1点100万円、銀賞2点30万円、ほか
審査委員　栄久庵憲司氏（インダストリアルデザイナー）
　　粟津　潔氏（グラフィックデザイナー）
　　菊竹　清訓氏（建築家）
　　葉　祥栄氏（建築家）
　　P.ロマッツィ氏（インダストリアルデザイナー）
　　A.コルテージ氏（同上）

近代建築講演会

取り壊されて1年になる旧朝鮮総督府庁舎の、ありし日の姿をスライドで見ながら、その歴史的価値を語り合う。

テーマ　「1周年に想う旧韓国中央博物館―幻燈で見る旧朝鮮総督府庁舎―」
講　師　柴田正己氏（明治建築研究会代表）
日　時　1997年11月21日㈮18：30～20：30
会　場　大阪市中央公会堂会議室（大阪市北区中之島）
参加費　500円
申込み　主催のTO.A企画（TEL0725-33-7746）へ。

インテリアプランナー協会の地震報告

構造に比べてインテリアの耐震設計への注目度が低い現状に問題を提起するべく、関西インテリアプランナー協会（会長：川村眞次氏）は公共住宅、住宅メーカー、家具メーカー、家電機器メーカー等々の、室内の耐震化に向けての製品開発や空間設計の現状をまとめた「地震時における室内の安全設計の普及に向けて」（A4判、218頁）を9月に刊行した。

この住宅内部空間の地震対策を内容とする報告書は、関西インテリアプランナー協会調査研究委員会と大阪市立大学北浦研究室が協力してまとめたもので、広く一般の人々への頒布も予定されている。販売価格は2000円（消費税込、送料無料）。

申込先　関西インテリアプランナー協会
　　〒541大阪市中央区久太郎町2-5-28
　　大和銀行ビル7F　チトセショールーム内
　　TEL06-245-2348、FAX06-245-3137

JAPAN HOME SHOW 97

住生活の質的向上に寄与することを目的に、㈳日本能率協会と㈳日本住宅設備システム協会の共催による「JAPAN HOME SHOW 97（旧：住宅設備展）」が開催される。メインテーマは「快適で安全な住まいづくり―長寿命と環境への配慮」。

会　期　1997年11月11日㈫～11月14日㈮
　　10：00～17：00
会　場　東京ビッグサイト（有明・東京国際展示場）
　　東1・2ホール
入場料　1000円（消費税含む）

■「JAPAN HOME SHOW 97 シンポジウム」
会　期　1997年11月13日㈭～11月14日㈮
会　場　東京ビッグサイト会議棟会議室
参加料　10,500円（会員・1日当たり）
　　12,600円（会員外・1日当たり）

■「製品・技術セミナー／輸入住宅・建材セミナー」
会　期　1997年11月11日㈫～11月14日㈮
会　場　JAPAN HOME SHOW会場内
参加料　無料

広島で講演会『あたらしい都市像』

広島2045ピース＆クリエイトの催しの一つである講演会が開かれる。

日時　1997年11月18日(火)　13：30〜16：45
会場　広島国際会議場「ヒマワリ」
　　広島市中区中島町1-5　TEL082-242-7777
定員　約500人（入場無料）
講演　(1)「環境と建築」妹島和世氏（建築家）
　　(2)「歴史と空間を次代に引き継ぐ―広島大学から東千田公園へ―」山本紀久氏（ランドスケープデザイナー）
　　(3)「公共建築の役割」伊東豊雄氏（建築家）

上記催しについての問い合わせは、広島市都市計画局都市デザイン室（TEL082-504-2277）

寺子屋（一心寺）で学ぶ

㈳日本建築家協会（JIA）近畿支部環境委員会が開く〝寺子屋〟も、デザイン哲学からいよいよ技術の内容に踏み込んでいく。

日　時　1997年11月19日(水)　18：00〜20：00
会　場　一心寺「日想殿」TEL06-771-0444
　　大阪市天王寺区逢坂2-8-69
　　ＪＲ、地下鉄御堂筋線・谷町線の天王寺駅 or 地下鉄谷町線の四天王寺前駅
寺子費　JIA会員1500円、一般2000円
内　容　・講話／高口恭行氏（一心寺住職）
　　・「のりの話」／里井哲郎氏（コニシ㈱）
　　・「ものとものをくっつける」／橋本健治、直原純子、吉羽裕子の各氏
申　込　FAXでJIA環境委員会（FAX06-229-3374、TEL06-229-3371）へ。

レインボータウンまちづくり提案募集

東京都が策定した「臨海副都心まちづくり推進計画」の「土地利用計画」を前提として、対象区域（青海地区の一画）にふさわしいまちづくりに関する多様で具体的な提案を、東京都民だけでなく、広くレインボータウンに関心を持つ人々から募っている。

応募部門は、中学生以下の部、一般の部、専門家の部―土木、造園まで含む。範囲は専門学校、大学生、大学院生までを含む―、の3部門が設けられている。

応募受付　1997年9月25日(木)〜11月25日(火)
選考委員　養原　敬（都市プランナー）委員長、藤森照信（東京大学教授）、隈　研吾（建築家）ほか10委員
最優秀賞　専門家の部100万円、一般の部40万円ほか

応募詳細についての問い合わせは、「レインボータウンまちづくり都民提案」事務局（〒163-01東京都新宿区西新宿2-8-1東京都港湾局開発部臨海副都心開発推進室内、TEL03-5320-5580）へ。

阪神間モダニズム展、10月18日〜12月7日開催中

大阪と神戸にはさまれた六甲山を背景とする地域「阪神間」の、明治中期から昭和15年ごろまでを、郊外住宅地の形成、建築、ライフスタイル、美術、文学、娯楽などさまざまな角度からとらえ、現代の阪神間のルーツを探ろうと、阪神間に位置する4つの美術館が共同企画した「阪神間モダニズム展」が始まっている。





■兵庫県立近代美術館　TEL078-801-1591
テーマ　美術館の挑戦――①原田の森の新興美術運動、②小出楢重と在野の画家たち、③村上華岳と山下摩起、④吉原治良とモダニズムの画家たち、⑤中山岩太と芦屋カメラクラブ
時　間　10：00〜17：00　祝日以外の月曜日は休館
場　所　神戸市灘区原田通3-8-30
　　阪急神戸線王子公園駅 or ＪＲ神戸線灘駅
入館料　一般1000円、大高生700円

■西宮市大谷記念美術館　TEL0798-33-0164
テーマ　〈新時代〉の娯楽――①沿線住宅、遊園地、球場、②宝塚歌劇、③登山、ゴルフ、甲子園、遊園地、海水浴、④香櫨園遊園地
時　間　10：00〜17：00　会期中無休
場　所　西宮市中浜町4-38　阪神香櫨園駅
入館料　一般1000円、大高生800円

■芦屋市立美術博物館　TEL0797-38-5432
テーマ　〈健康地〉のライフスタイル――モダンと日本が融合した独自のライフスタイルを、当時の洋館の家具やステンドグラス、映像による洋館、蒐集家の美術コレクションなどから再現する。
時　間　10：00〜17：00　祝日以外の月曜日休館
場　所　芦屋市伊勢町12-25　阪神芦屋駅
入館料　一般800円、大高生600円

■芦屋市谷崎潤一郎記念館　TEL0797-23-5852
テーマ　ハイカラ趣味と女性文化――谷崎潤一郎、徳田秋声、遠藤周作…、阪神間に住み、訪れた文学者たちが何を見て、感じて、作品の中に何を表現していったのかを探る。
時　間　10：00〜17：00　祝日以外の月曜日休館
場　所　芦屋市伊勢町12-15　阪神芦屋駅
入館料　一般500円、大高生300円

なお、4館共通入場券（一般2640円、大高生1820円）も各美術館窓口で発売されている。

建築NEXT PHASE研究会

■第32回公開セミナー　1997年11月17日(月)18：30〜
「ガラス建築の設備計画を考える」
――常設展示室の一部に乳白色のガラスの壁を採用した豊田市美術館（設計：谷口吉生）、舞台後方と観客席の両サイドをガラス壁にした登米祝祭劇場（設計：山崎泰孝）。この二つの話題作の設備計画の考え方を解説する。
講演者　知久昭夫氏（知久設備計画研究所代表）

■第33回公開セミナー　1997年12月1日(月)18：30〜
「京の遺伝子」の再建築
――建築家・山本良介氏が京都の街並み撮影行脚の中で発見した、先人の残した150ほどの要素「京の遺伝子」（たとえば格子、石積、ばったり床机など）を再構築して新しい時代にふさわしい作品を創る方法、すなわち「ポスト数寄屋」と呼ぶ設計論を語る。
講演者　山本良介氏（山本良介アトリエ）

いずれのセミナーともに、
会　場　東京デザインセンター
　　東京都品川区東五反田5-25-19
参加費　2000円（学生1500円）
申込先　氏名・住所等必要事項を記入して、FAXで東京デザインセンター（FAX03-3445-1125、TEL03-3445-1121）へ。

エス・バイ・エル住宅設計コンペ公募

第8回エス・バイ・エル住宅設計コンペのテーマは、「モナ・リザの家」。レオナルド・ダ・ヴィンチが描いた、謎に包まれた「モナ・リザ」を応募者各自が解読し、そのふさわしい家を設計するのが今回の課題である。その時代はルネッサンスではなく現代であってもよい。環境もイタリアでなくてもよい。

登録締切　1998年3月16日(月)―当日消印有効―
作品締切　1998年4月13日(月)―当日消印有効―
応募資格　不問
提出図面　平面図、配置図、立面図、断面図及び透視図（模型写真可）その他設計意図を表現する図および説明文（400字以内）を、中判ケント紙におさめる。青焼き、鉛筆、墨入れ、着色、CAD等表現自由。パネル化不可。
審査員　出江寛（建築家）委員長、建築家の妹島和世・内藤廣・早川邦彦・村上徹の各委員、中島昭午エス・バイ・エル㈱会長兼社長
賞　大賞1点150万円、審査員賞6点各30万円ほか総額390万円（いずれも税込み）
登録・応募　「第8回エス・バイ・エル住宅設計コンペ」係（〒113-0034東京都文京区湯島2-31-2、㈱新建築社、TEL03-3811-7101）

日本建築協会

月間の動き

【平成9年8月分】

理事会

第3回定例理事会
27日　4時～5時　於・本会会議室
出席者　市川会長ほか30名
議　事　(1)支部の決算等承認の件
　　(2)入・退会者承認の件
　　(3)後援名義承認の件
　　(4)事業報告
第3回会勢理事会
27日　3時～4時　於・本会会議室
出席者　岡本副会長ほか6名
　　オブザーバー　市川会長・三品副会長
議　事　(1)会員入退会状況について
　　(2)会員入会案内パンフレット作成について

編集委員会

第3回計画分科会―計画系―
5日　6時半～8時半　於・本会会議室
出席者　小浦幹事ほか3名
議　事　10月号「モザイク都市の住むかたち」特集の取材検討
第5回施工材料分科会
5日　4時～6時　於・本会会議室
出席者　十倉幹事ほか3名
議　事　(1)特集企画の検討
　　(2)「施工材料の頁」の企画
第5回会員企画小委員会
5日　7時～8時半　於・本会会議室
出席者　稲木副委員長ほか4名
議　事　(1)シリーズものの報告と掲載予定
　　(2)新しい企画案について
第5回構造分科会
6日　6時～8時40分　於・本会会議室
出席者　吉澤委員ほか4名
議　事　(1)「構造の頁」の企画
　　(2)構造特集「コンクリート」の企画
第4回法令分科会
7日　4時～6時半　於・本会会議室
出席者　入江田委員ほか3名
議　事　(1)「地球環境問題」特集の企画
　　(2)「法令コーナー」の企画
第1回「素材と技術が生み出すデザイン」編集幹事会
8日　6時～8時　於・本会会議室
出席者　本多幹事ほか8名
議　事　企画立案のためのフリートーキング
第3回合同分科会特集編集会議
19日　7時～10時　於・本会会議室
出席者　吉村幹事ほか5名
議　事　平成10年1月号合同特集の内容
第4回広告企画小委員会
21日　5時～6時　於・本会会議室
出席者　小幡副委員長ほか4名
議　事　(1)9月号「クロスワード都市 OSAKA」特集広告経過報告
　　(2)10月号「モザイク都市の住むかたち」「昭和設計創立40周年」特集広告経過報告
　　(3)11月号「会員作品」「京都駅ビル」特集広告経過報告
　　(4)12月号「第44回青年技術者」「東畑建築事務所創立65周年記念」特集報告
　　(5)独自特集企画経過報告
　　(6)作品作風関係報告
　　(7)収支状況報告
第5回編集委員会
21日　6時～8時半　於・本会会議室
出席者　與謝野委員長ほか6名
議　事　(1)9月号「クロスワード都市 OSAKA」特集経過報告
　　(2)10月号「モザイク都市の住むかたち」「昭和設計40周年」特集企画検討及び経過報告
　　(3)11月号「会員作品―私の空間作法」「京都駅ビル」特集経過報告
　　(4)12月号「第44回青年技術者」「東畑建築事務所創立65周年記念」特集経過報告
　　(5)10年1月号「新しいまちづくりの予感」特集経過報告
　　(6)新シリーズ「社会の眼」「その裏頁」の企画検討
　　(7)新シリーズ「素材と技術が生み出すデザイン」(仮称)企画検討
　　(8)収支状況報告
第2回「素材と技術が生み出すデザイン」編集幹事会
25日　6時～8時半　於・本会会議室
出席者　本多幹事ほか9名
議　事　企画案の検討
第4回計画分科会―計画系―
28日　6時半～8時半　於・本会会議室
出席者　小浦幹事ほか5名
議　事　10月号「モザイク都市の住むかたち」特集のレイアウト検討
第5回作品作風小委員会
28日　6時半～8時半　於・本会会議室
出席者　宮地副委員長ほか7名
議　事　(1)作品の掲載状況・掲載予定
　　(2)作品の選定
　　(3)「Gallery」「SKETCH BOOK」掲載報告・予定
　　(4)11月号会員作品特集号

建材委員会

第5回建材委員会
20日　3時半～5時半　於・本会会議室
出席者　和田委員長ほか8名
材料説明：フッ素・アルミ模様シート
議　事　(1)今後の検討建材
　　(2)工場見学会実施

建築クラブ

第304回朝食会
5日　8時～9時半　於リーガグランドホテル
演題「音楽を聴く為のワンポイントアドバイス」
講　演　井上恵子氏(㈱アンビエンテ三喜谷)
マンドリン奏者　葛原睦子氏／藤原裕子氏
参加者　56名

入会者(敬称略)

〔団体会員1社〕
南都建設㈱
〔個人会員18名〕

飯田　修平(9月の風)	遠藤　秀平(遠藤秀平建築研究所)	大谷　弘明(日建設計)
粕谷　浩司(日建設計)	工藤　貴志(不動建設)	澤田　英行(鹿島建設)
出崎　進(出崎建築設備設計事務所)	徳田　幸弘(日建設計)	長野　英一(藤木工務店)
灰井　律二(吹田市役所)	藤岡　慶子(大林組)	堀井　一孝(日建設計)
松田　康史(鹿島建設)	松永　和子(城設計室)	森田　隆(竹中工務店)
山口　善史(大林組)	山本　圭介(大成建設)	安本　義雄(昭和設計)

空調・衛生・クリーンルーム設備
（設計・施工）

朝日工業社

本社・本店　東京都港区浜松町1-25-7　電話03(3432)5711
大阪支社　大阪市淀川区加島1-58-59 電話 06(302)2270
支　　店　北海道/東北/北関東/横浜/名古屋/中国/九州

商品は空気です。

熱と空気のエンジニア
株式会社
大気社

●営業種目
空気調和設備　給排水衛生設備　塗装設備　公害防止関連設備の設計・製作・施工

本社・東京本店　東京都新宿区西新宿2-6-1　☎03－3344－1851(大代)　大阪本社☎06－448－3603(代)
大阪支社 ☎06－448－5851(代)　名古屋支店 ☎052－211－1535(代)　中国支店 ☎082－247－5541
九州支店 ☎092－431－2147(代)　営業所：北関東・横浜・神戸・京都・岡山・四国

電気・空調・衛生・防災・産業廃水設備
設　計　施　工

ダイダン株式会社

本店・大阪本社　〒550 大阪市西区江戸堀1丁目9番25号　電話(06)441-8231
東京本社　〒102 東京都千代田区富士見2丁目15番10号　電話(03)3261-8231
支　社　名古屋・福岡
支　店　札幌・仙台・新潟・大宮・千葉・横浜・金沢・京都・神戸・天理・岡山・広島・高松・熊本
営業所　帯広・函館・青森・秋田・盛岡・前橋・長野・静岡・豊田・津・富山・福井・徳山・松山・高知・北九州・鹿児島・那覇
出張所　旭川・福島・川崎・松江・徳島・下関・長崎・大分・宮崎
海外支店　シンガポール・ホンコン
技術研究所　〒354 埼玉県入間郡三芳町大字北永井390番地　電話(0492)58-1511

ガス設備の設計・施工のご相談は
大阪ガス指定工事会社・大阪ガス住設機器特約店

大晃設備株式会社

本　社
大阪営業所　大阪市此花区西九条2丁目13番28号 電 06－466－2268
枚方営業所　枚方市甲斐田東町9－3 電0720－49－2128

空気調和設備
給排水設備
電気設備
産業設備
水処理施設
環境施設

三機工業株式会社

取締役社長　大島　剛
取締役大阪支店長　琴浦　健

大阪支店　大阪市中央区北浜2－2－21　電話 06(202) 3071（代表）
本社・東京本店　東京都千代田区有楽町1－4－1　電話 03(3502)6111（大代）
支　店　名古屋・九州・北海道・中国・東北・北陸・横浜・東関東・北関東・京都・神戸・四国

給・排水・衛生・消火・空調設備

株式会社 西原衛生工業所大阪店

大阪市北区中津6丁目8番4号　電話大阪(458)3628番
支店・営業所　福岡・京都・天理・川西・神戸

空気調和設備
衛生設備設計施工

三建設備工業株式會社

大阪支店　大阪市北区紅梅町3番5号　電話（352）1131代
本　社　東京都中央区日本橋蠣殻町2－22　電話(3667)3431(大代)
支　社　名古屋・仙台・札幌・広島・福岡・金沢・新潟・横浜

OKUJU
スペース クリエイター

建築に革命をもたらした技術がある
「大規模天井無足場工法」

内外装創作パネル・システム天井・間仕切
株式会社 オクジュー

本　社
大阪市北区西天満5丁目3番7号 〒530
TEL(06)312-4131　FAX(06)312-7998
東京・九州・横浜・名古屋・仙台・宮崎・京都

空気調和・衛生設備・設計施工

株式会社 三晃空調

本　社　大阪市中央区城見2丁目1番61号ツイン21MIDタワー　電話 06-949-1371
東京本店　東京都新宿区西新宿　新宿住友ビル　電話03-3344-7911
大阪本店　大阪市北区西天満3丁目13番20号　電話 06-363-1371
支　店　仙台・横浜・名古屋・京都・神戸・広島・福岡
営業所　札幌・茨城・大宮・千葉・山梨・静岡・福井・滋賀・和歌山・松江・長崎・沖縄
出張所　青森・秋田・盛岡・川崎・富山・岐阜・三重・鳥取・岡山・高松・下関・大分・熊本・宮崎・鹿児島

Digital Pri-Press

AOBA PRINTING CO.,LTD.,

代表取締役社長 依藤孝行

青葉印刷株式会社

〒534 大阪市都島区中野町2丁目10番11号
Phone.06-351-5428 Fax.06-351-5299

空調衛生・冷凍冷蔵・地盤凍結
よりよき環境へ技術で挑む

株式会社精研

本　社　大阪市中央区瓦屋町2丁目11番16号(オートセンタービル1・2階)
郵便番号542 電話 大阪（06）768－5031 代表
メンテナンス部　電話　大阪（06）768－1651 代表
東京支店　東京都文京区小石川1丁目12番14号(日本生命小石川ビル7階)
郵便番号112　電話（03）5689－2351 代表

夢×技=∞ 無限大
何時もあなたの街で
お会いしている
クリハラの技術



電気・計装・空調・土木
K 栗原工業株式会社
本社/〒530 大阪市北区角田町1-1(東阪急ビル)
TEL 06(313)1101
創業1919

Carrier 冷暖房は CARRIER キャリア
東洋キャリア工業㈱デストビューター関西地区
日本冷熱工産株式会社
本社及大阪営業所 吹田市豊津町40番38号
電話 大阪 (384) 1201～7

電気工事設計施工
株式会社 三興社
代表取締役社長 上田正雄
本社 大阪市北区西天満2丁目6－8(堂ビル5階)
電話 06(361)3671(代)
支店 東京都中央区日本橋茅場町2丁目17番3号
電話 03(3666)1478(代)
営業所 堺・泉州・泉南・滋賀

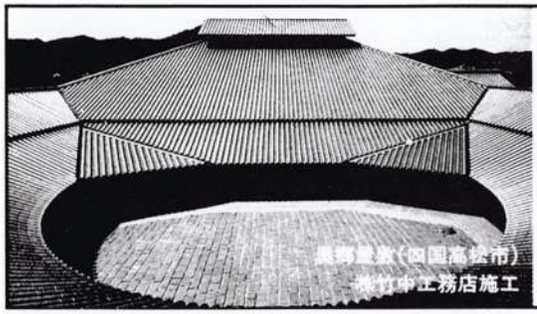
電気設備 設計施工
朝陽電気株式会社
代表取締役 山本貴士
本社 〒530 大阪市北区中之島三丁目2-4(朝日ビル) 電話06(385)1361(代)
大阪営業所 〒564 吹田市垂水町3丁目34-6 電話06(385)1361(代)
京都営業所 〒615 京都市右京区西京極葛野町21 電話075(311)1185(代)
神戸営業所 〒650 神戸市中央区浪花町59(神戸朝日ビル) 電話078(333)7756(代)

人と都市の快適な環境をつくります
営業種目 設計・施工・監理
● 電気設備
受変電・幹線
動力・制御装置
電話、放送、インターホン
防犯、防災
中央監視制御
システム計装
● 空調・給排水・衛生設備
空気調和
工場配管
水処理
コージェネレーション
クリーンルーム
● プラント
プラント計装
システムエンジニアリング
● 情報通信設備
情報通信ネットワーク
情報処理
通信システム
放送システム
● 電力流通設備
受変電
架空送配電
地中送配電
住友電設株式会社
大阪本社 〒550 大阪市西区阿波座2-1-4 ☎(06) 537-3400
東京本社 〒105 東京都港区芝2-2-17 ☎(03)3454-7311

電気工事設計施工
東光電気工事株式会社
関西支社
常務取締役支社長 馬田栄
大阪市中央区高麗橋4丁目3番7号 電話 大阪(202)0325～9番
本社 東京都千代田区西神田1丁目4番5号
支社 北海道・東北・丸ノ内・新宿・神奈川・東関東・中部・九州

＊奉仕感謝の店
タイル及び規格石一式施工
株式会社 川岸窯業商店
本社 大阪市西区西本町1の13の33
TEL.06－532－0461(代表)
FAX.06－535－5181
天理営業所 天理市丹波市新町49

電気設備・計装制御設備・空調設備・クリーンルーム設備・プラント設備
給排水衛生設備・エネルギー集中監視システム…設計施工
SANPO 三宝電機株式会社
取締役社長 嘉納秀一
本社 〒530 大阪市北区西天満2-6-8(堂ビル) TEL.06(364)1471・FAX.06(364)5533
東京支社 〒105 東京都区芝新橋3-8-3ランディック新橋ビル TEL.03(5472)3311・FAX.03(5472)0085
名古屋支店 〒462 名古屋市北区金城3-12-14 TEL.052(991)5131・FAX.052(914)7535
神戸支店 〒657 神戸市灘区友田町3-6-11K・Tビル TEL.078(842)6411・FAX.078(842)6416
堺研究所 〒590 大阪府堺市三宝町七丁369 TEL.0722(27)8408・FAX.0722(27)1424



ファックス 五六一～七四五四
〒556 大阪市浪速区塩草二丁目二番三号 ☎ 五六一～七四一六
ナニワ瓦株式会社
あらゆる屋根工事の相談は、
高松支店(四国高松市)
滝竹中工務店施工

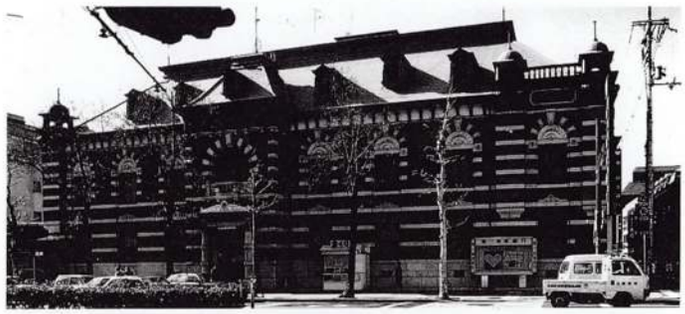
学校建築のトータルアドバイザー
二葉工業株式会社
黒板・掲示板・家具
電動黒板装置・サイン・スクリーン
〒547 大阪市平野区加美北3－4－5
TEL.06(792)5858 FAX.06(792)2810

新鮮
情報処理／編集・企画／印刷・製本
ハード&ソフト…プリンティングの先端を拓きます。
ND
日本電植株式会社
〒530 大阪市北区天満2丁目5番15号 TEL.06(352)7502(代)
FAX.2F事務所 06(355)2714 3F制作 06(357)7250

特殊壁装材製造販売　和室に最適
●聚楽壁紙●ホクシノン(無機質壁紙)
(株)ホクシンクロス
〒583 大阪府羽曳野市島泉８－173－１
TEL(０７２９)３９－３６１０
工場　〒580　大阪府松原市三宅中8丁目1番9号
第一　〒639-11奈良県大和郡山市小泉町２７４４
第二　〒597　大阪府貝塚市王子５０１

Construction chemistry for the future.
コンクリート用混和剤／コンクリート用補修材
高性能無収縮材／コンクリート用高性能床材
Master Builders Technologies
株式会社エヌエムビー
株式会社ポゾリス物産
本　社：東京都港区六本木３－16－26
大阪支店：大阪市中央区北浜3-2-23(信愛ビル)
TEL06-202-3294

省エネルギー時代の断熱用シート防水材
日立バイナリーシートP
日立バイナリーシートPは，日立防水シートに発泡ポリエチレンを独自の貼り合わせ技術で積層した，二重構造の断熱兼用二重防水シートです。
日立電線株式會社　本社 東京都千代田区丸の内2丁目1番2号(千代田ビル)



デンカCSAファミリー製品

●デンカCSA（膨張性混和材）　コンクリートのひびわれ防止に
●デンカタスコン（グラウト用無収縮材）　鉄骨ベース、逆打部の充塡モルタルに
●デンカキューテックス（止水・補修用急硬セメント）　コンクリート軀体の漏水補修に
●デンカES（土質安定用急硬材）　地盤補強用薬注入
●デンカΣ1000（製品用超高度混和材）　コンクリートパイルの早期出荷とハイモメント製造用に

電気化学工業株式会社
近畿地区販売店

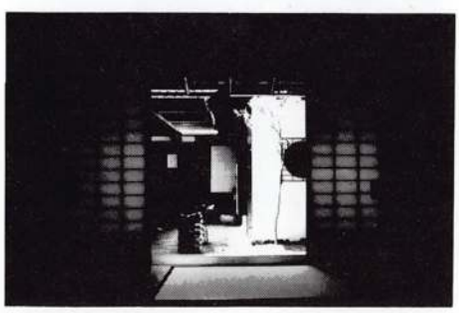
浜宗産業株式会社
TEL 本社・京都・網野（０７７２７）２－２２２０
舞鶴（０７７３）７６－０１３３

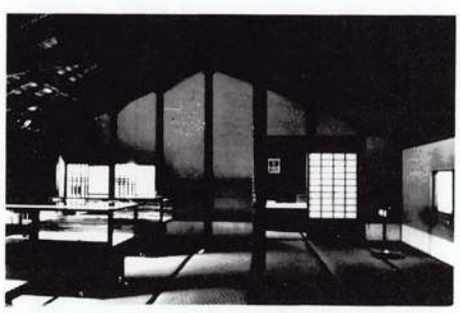
金森藤平商事株式会社
TEL 大阪（０６）３３２－６８６１
TEL 東京（０３）３２７２－８５０１

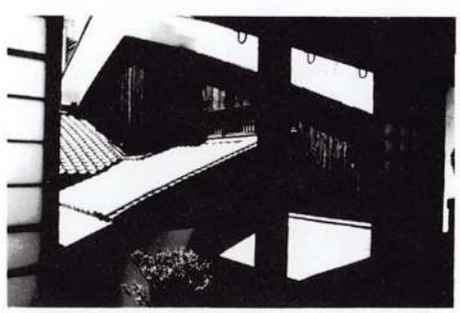
小浦産業株式会社
TEL 大阪（０６）４４３－６１８１

光洋物産株式会社
TEL 大阪（０６）２５２－６０００

東郷化成株式会社
TEL 滋賀・守山（０７７５）８３－２３８１
TEL 大阪（０６）８７７－１５８１







［プロのノウハウ］

高木任之◀著　日本建築協会◀企画

都市計画法を読みこなすコツ

▶目次
1 法律でいう「都市計画」とは何か
2 都市計画では何を決めるか（都市計画の内容）
3 都市計画を決定する・都市計画を実施する（その手続き）
4 市街化調整区域内の市街化を抑制する
5 市街化区域内の整備を進める
6 都市計画事業を進めやすくする
7 事業を実施して都市計画を実現する（市街地開発事業）
8 街づくりを誘導するシステム（地区計画等）

四六判■288頁
定価■2472円

平成8年施行の新用途地域と
阪神大震災後の最新条項を
盛り込んだ
都計法のハンドブック

建築関連法規を読みこなすコツ

▶目次
1 道路・下水道と建築基準法
2 水・ガス・電気と建築基準法
3 特殊建築物と建築基準法
4 文化財保護法と建築基準法
5 消防法と建築基準法（その1）
6 消防法と建築基準法（その2）
7 都市計画法と建築基準法（地域・地区）
8 区画整理・再開発法制と建築基準法
9 建築士法・建設業法と建築基準法

四六判■288頁
定価■2472円

関係法令を建築関係者のために
とりあげた待望の解説書

▶姉妹書「新版 建築基準法を読みこなすコツ」
「建築物の消防法を読みこなすコツ」

学芸出版社　〒600 京都市下京区木津屋橋通西洞院東入
TEL075-343-0811　FAX075-343-0810

［プロのノウハウ］

2色刷

経験に基づいて
施工現場管理の
ノウハウを結集

鉄筋工事・本音（ホンネ）の現場学

工事の約束事を示し，合理化を図り，
生産性向上へのチェックポイントを解説。

▶目次
1 鉄筋とコンクリート
2 鉄筋の約束事……概要／外力と応力のはなし／建築基準法・日本建築学会標準仕様書の鉄筋に関する定め
3 鉄筋工事の問題点……台直し／かぶり厚さ不足／鉄筋の材質／鉄筋の重なり，その他
4 鉄筋工事の管理ポイント……概要／材料の発注／施工図／施工要領書／コンクリートのひび割れと鉄筋／工事のチェックポイント
5 鉄筋工事の将来……鉄でない鉄筋／鉄筋の替わりに繊維を使う／錆びない鉄筋／鉄筋継手の多様化／鉄筋先組み／鉄筋の結束／鉄筋とPC／プレストレス／梁貫通補強
6 鉄筋工事の歴史

荒川治徳■著
四六判■208頁
定価■2266円
企画■日本建築協会

学芸出版社　〒600 京都市下京区木津屋橋通西洞院東入
TEL075-343-0811　FAX075-343-0810

OM

テトカッパー防水層

カッパー防水帯――コーパータイト／オクロン防水帯

資料をご請求下さい。

奥山化工業株式会社

本　社 東京都中央区銀座8-4-9 奥山ビル　TEL03(3571)2703㈹ FAX03(3571)0264

大阪事務所 TEL06(391)1081～2 FAX 06(395)2109　名古屋出張所 TEL052(811)3660

横浜営業所 TEL045(320)4832　FAX045(320)4765　厚木出張所 TEL0462(21)1761 FAX0462(23)1341

埼玉営業所 TEL048(774)2845　茨城出張所 TEL0292(28)0878 FAX0292(28)2614

新しい時代の、新しい扉をひらきたい。

TOYO Shutter

東洋シヤッター株式会社

本　社　〒540 大阪市中央区南新町1－2－10(TSビル)

TEL(06)943－6571(代)

■東京/横浜/盛岡/仙台/水戸/静岡/岡崎/名古屋/富山/大津/京都/神戸/広島/高松/福岡/他全国主要都市

建築技術選書〈特装版〉

企画/日本建築協会

学芸出版社

〒600京都市下京区木津屋橋通西洞院東入

(Tel)075-343-0811(Fax)075-343-0810

水にまつわるトラブルの事例・解決策

建築編

「建築漏水」編集委員会編

B5判/208頁/2色刷

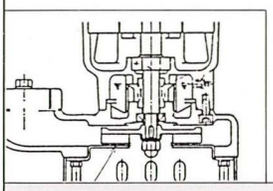
定価4120円（本体4000円）

設備編

「設備漏水」編集委員会編

B5判/184頁/2色刷

定価4120円（本体4000円）



✹解決のノウハウ集

あり得ないと思っても，不具合となっているのが現実

各社で実際に生じた事例をもとに整理・分析

現状⇨原因⇨処置⇨再発防止策までを図解で詳説

トラブル予防と対策にすぐ役立つ《チェックリスト》掲載

デザイナーを目指す人，施工監理のオーソリティーを志す人へ

建築編

大林組，鹿島，清水建設，竹中工務店，大成建設，松村組の6社を中心に，実際に発生した事例をもとに社内教育メンバーが整理・分析

〈目次〉

陸屋根/勾配屋根等/パラペット

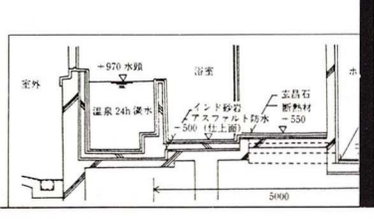
外壁/サッシ・開口部/トップライト/出入口まわり/バルコニー

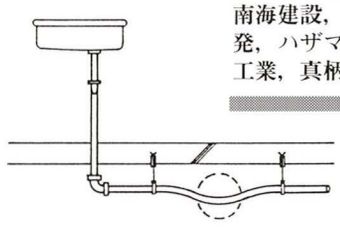
樋/床・その他/地下/結露

用語解説/チェックリスト

設備編

淺沼組，朝日工業社，安藤建設，奥村組，鹿島，金山工務店，熊谷組，鴻池組，五洋建設，佐藤工業，清水建設，新菱冷熱工業，須賀工業，住友建設，西武建設，銭高組，大成建設，大和ハウス工業，竹中工務店，鉄建建設，戸田建設，東海興業，東急建設，東洋建設，飛島建設，南海建設，西原衛生工業所大阪店，西松建設，日産建設，日本国土開発，ハザマ，長谷工コーポレーション，フジタ，不動建設，前田建設工業，真柄建設，松村組，三井建設の38社が情報提供





〈目次〉

給水/給湯/排水

器具まわり

換気/空調/電気/その他/腐食

チェックリスト



市民文化の黒子
であったりします。

コンサートを楽しみたい。芝居を見たい。個展をしたい。歌いたい。
そんな市民の夢を高いレベルで実現する
大阪は泉佐野市の市立文化会館「泉の森ホール」。
舞台がクラシック用に早変わりする日本初迫り型音響反射板採用の大ホールから
小ホール、ギャラリー、会議室まで備えた一大多目的ホール。
その建設に、当社も電気工事で参加しました。
――――――――つくる仕事が得意です。

電気エンジニアリングの未来へ
関西テック
本店 06・448・5711
http://www.kansaitech.co.jp/

雑誌 03379-11